中
高
日新鐘
vol.28
贊天地之化育
苟日新日日新又日新
未来first
～絆という宝物を胸にがんばるじゃんけ～
July 2022
第62回 甲府中学・甲府一高東京同窓会 記念誌

環境への想いをかたちに

HAYANO

真心と確かな技術

株式会社 早野組

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

本　社■〒400-0807 山梨県甲府市東光寺一丁目4-10
TEL.055-235-1111(代) FAX.055-235-1109
■営 業 本 部　TEL.055-232-8686
■早野リバブル　TEL.055-268-3333

■東 京 支 店　東京都八王子市千人町二丁目5-24　TEL(042)667-8800　FAX 667-9497
■中 部 支 店　長野県飯田市上郷飯沼1438-1ﾀﾞﾝ・ｲﾅｶﾞｷ1階　TEL(0265)22-3969　FAX 52-2171
■新宿営業所　東京都新宿区四谷二丁目11ｱｼｽﾄﾋﾞﾙ7階　TEL(03)3352-8700　FAX 3352-8710
■静岡営業所　静岡県富士宮市外神2219-1リバーサイドハイツ外神202号室　TEL(0544)66-5454　FAX 66-5455

URL http://www.hayano.co.jp

山梨県立甲府中学校

校歌

作詞／三井甲之
作曲／東京高等音楽學院

一、我らは日本に生まれたり
神の御代より一系の
皇系戴く我國に
生まれしことのうれしさよ
皇國の榮えは天地と
共に窮りなるべし

二、大和島根に山めぐる
甲斐の國あり水青き
郷土の歴史顧みよ
我らの務め軽からず
見よや南に富士ヶ嶺は
皇國の鎮めと聳えたり

三、大海原の揺りやまぬ
波をも風をも凌ぎつつ
護れ皇國を諸共に
國民皐りて國のため
擁まず萎縮まず牌易がず
進むぞ大和ごころなる

山梨県立甲府第一高等学校

校歌

作詞／上条　馨
作曲／小松　清

一、甲斐の国　み中に建ちて
古へゆ　雄心つたへ
新しき　世の鑑とし
勉めてむ　この學びやに

二、日に新た　また日に新た
いや高き　のぞみをもちて
眞なる　理きはめ
勵むなむ　若人われら

三、聳えたつ　芙蓉のたかね
清きかな　甲斐の山川
もろともに　玉と磨きて
賛くべし　天地の化育

日新鐘に寄せて

東京同窓会 会長
清水 昭

コロナと共生せざるを得ない時代にあって、昨年はハイブリッド形式で二年ぶりの総会と講演会が開催できた。2年に亘る太田清士幹事長、上田俊彦事務局長をはじめ、尽力いただいたすべての昭和57年卒当番幹事学年の皆さんとその活動を支えていただいた役員・学年幹事の皆様に改めて心から御礼を申し上げる。

総会では平成元年卒でオリンピアンの恒吉（中込）恵子さんに、北九州からお越しいただき「私のオリンピックと今後への期待」と題して、貴重な経験を基にお話を頂いた。

また昭和53年卒の勝村良一君は、TVアニメ「スーパーカブ」誕生のきれいなビデオ放映を披露された。

母校の小林俊一郎校長と丹沢良治同窓会長から素晴らしいビデオレターでのご挨拶も拝聴出来た。

参加人数に制限があったが、IT技術を活用し世代を超えた交流の場となったこと、さらに当番幹事同士の絆が深まる機会となったことは慶賀に堪えない。

今年の東京同窓会はキーワードを「未来First」と「絆」とした。同窓会は単なる昔を懐かしむ場でなく、絆を再認識し、未来の為に何か役立つ繋がりの場でありたいとの願いを込めたからである。コロナ禍対策に知恵を絞り、3年ぶりに懇親会を含む総会を開催する運びとなった。

例年の半数程度の参加に絞らざるを得ない状況ではあるが、第62回総会と懇親会が滞りなく実施され、さらに我が東京同窓会が未来に繋がる組織となるよう祈念する次第である。

ご挨拶

甲府第一高等学校 校長
安達 徹

甲府中学・甲府第一高等学校東京同窓会が、当番幹事の皆様と役員の方々の御尽力により、東京都内の会場とオンラインを併用し開催されますこと、衷心よりお慶び申し上げます。同窓生の皆様には、日頃より物心両面にわたる御支援・御協力を賜り、心よりお礼申し上げます。お陰様で、コロナ禍の制約の中でも、教育活動を着実に前に進めることができ、在校生たちも一高生らしく学業に部活動に活発に取り組んでいます。

文科省指定の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローカル型）」も三年目を迎え、多彩な探究活動を展開しています。進学に関しては、令和三年度卒業生も、国公立大学合格者一一三名、私立大学四二二名と健闘し、近年安定した実績を残すことができています。

部活動では、文化局が昨年度の県高校芸術文化祭において県下最多の八部門（吹奏楽、合唱、箏曲、美術工芸、書道、新聞、放送、文学）で最高賞を受賞し、今夏の全国総合文化祭へ参加します。また体育局では、昨夏のインターハイに山岳、弓道、空手、アーチェリーが出場するなど各種大会で健闘しています。昨年度コロナのために中止した伝統の強行遠足は、今年度は十月一日・二日に、男子は小諸、女子は小海までの本来のコースで実施を予定しています。

今後も生徒・教職員一丸となって、甲府一高の歴史と伝統を継承し、更なる進化を期して取り組んで参ります。

結びに東京同窓会の益々の御発展と、同窓生の皆様の御健勝を祈念し、御挨拶とさせていただきます

ご挨拶

東京同窓会 令和四年度幹事長
三井貴美也

コロナ禍によって途絶えてしまった東京同窓会・懇親会を3年ぶりに復活させ、甲府中学・甲府一高の絆を再確認すること。それが我ら58年卒当番幹事の最大の使命である。テーマ「未来First～絆という宝物を胸に頑張るじゃんけ～」には、当番幹事各メンバーの熱い想いが込められている。「甲府は中止になったのに本当に懇親会をやるのか？」「感染対策は大丈夫か？」「広告費がなかなか集まらない」といった様々な難題を前に、議論が日付をまたいだことも一度や二度ではない。懇親会の催しの中に、日新鐘の企画の中に、我々の想いを感じていただけたら幸いである。

一方で、「伝統」には「変革」もまた必要不可欠。「未来の東京同窓会のあり方を模索する」ことが裏テーマである。今風に言えば、サスティナブルな同窓会運営へ向けた改革は喫緊の課題だと思う。私は今回、大勢の平成卒世代の後輩たちと会って彼らの声に耳を傾けてみた。詳細は控えるが、彼らには彼らなりの真っ当な理屈があることがよく分かる。世代間のギャップをどう埋めるのか？そこに持続可能な同窓会のヒントが隠されている。

最後に、不肖の当番幹事長に愛のある助言を下さった先輩方をはじめ、協力していただいた全ての皆様に感謝いたします。東京同窓会が末永く続くことを祈念しつつ、次学年の精鋭たちにバトンを渡すこととします。

第62回 甲府中学・甲府一高 東京同窓会
記念誌　日新鐘Vol.28

目次

山梨県立甲府中学校 校歌・山梨県立甲府第一高等学校 校歌 …… 1
ご挨拶 …… 2
教えて！一高探究科 …… 4
山梨に帰ろう
懇親会連携企画
甲府市長×新人アナウンサー編 …… 8
ワインでつながる同級生編 …… 12
一高からつながる今の私
望月 啓太 …… 16
河野 玲子 …… 18
三澤日出巳 …… 20
部活に夢中 …… 23
一高の一年 …… 32
一紅会 …… 36
懇親会連携企画
100人の声 …… 38
広告 …… 50

教えて！一高探究科

昭和20年代半ばからは「普通科」のみの高校であった甲府一高に、平成3年度に「英語科」が、平成28年度には「英語科」から改編して「探究科」が設置されました。母校は未来に向けて進化を続けています。
「探究科」という名称が耳慣れないという方もいらっしゃるかもしれません。
どんな学習をするのでしょう？　目指すものは何でしょうか？
令和3年度探究科主任の山本尉滋先生にうかがいました。

Q探究科ではどんなことを学ぶのですか？

探究科では、通常の授業のほかに、「グローバル探究」とよばれる週2時間（3年次は週1時間）の授業を中心として探究活動を行います。1年次の前期には問いの立て方や資料収集の方法、取材やプレゼンテーションの仕方など探究活動の基礎を学び、行政や大学・企業と連携した数多くの講演会、先端企業への訪問などを通して考え方の幅や視野を広げます。
探究の方法について学ぶための入り口として『農』を題材として取り組み、農林水産省や連携大学の講演など、さまざまな機会を通じて見つけた課題の解決に向けて調査・研究など行い、『農業新聞』としてまとめて発表します。理論と実践、双方の活動によって、「課題発見力」、「論理的思考力」や「実践的なコミュニケーション能力」、「ディスカッション力」等の育成を目指します。1年の後期から行う課題研究は、探究科の探究活動の中核をなすものです。人文・社会科学分野から自然科学分野まで、幅広い分野の中から各自で決めた研究テーマに沿って少人数のグループを組み、課題解決に向けて取り組むとともに、2年生になると「英語によるプレゼンテーション能力」等を養成します。その成果は、2年次の海外研修旅行において英語で現地の高校生に発表する機会や、3月に行う『山梨ブランドサミット』と題した研究発表大会で実を結んでいきます。

Q探究科の設置の目的は？

甲府第一高校探究科は、平成28年度にそれまでの英語科（1クラス）を改編して、1学年2クラスの専門教育学科として設置され、令和4年度で7年目を迎えます。
英語科時代から世界で活躍できるグローバルリーダーの育成を目指し、英語を中心とした文系科目に力を入れていました。しかし、世界で活躍できる資質を生徒に身につけるためには、文系理系に偏ることなく力をつける必要性や自ら課題を発見し解決を探る能力を養うという観点をもとに、先進校の視察等も参考に、探究科への学科改編が行われました。
さらに、本校は、令和2年度に文部科学省から「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローカル型）」の指定を受け、行政や企業、大学や高校、地域の小中学校等でコンソーシアム（共同事業体）を構成し、多様な人たちと協働的に探究を進め、地域課題の解決を目指す推進拠点校としての役割を担っています。
そして、この事業の目標として「やまなし創世に資するグローカルリーダーの育成」を掲げ、

探究科の生徒は日々の学習や部活動とともに、探究活動に励んでいます。

Q探究科とSDGsの関りについて教えてください。

SDGs（Sustainable Development Goals）とは皆さまご存じの通り、「持続可能な開発目標」のことであり、２０１２年の国連会議「リオ＋20」において合意され、現在17の目標が打ち立てられています。

甲府第一高等学校は、英語科時代からSDGsに関連付けた探究活動に取り組み始めました。本校の探究活動では、上位課題・中位課題・下位課題を設定していますが、身近な下位課題を掘り下げてみると、実は世界にも共通する、もしくは連鎖する上位課題（SDGs）に結びつくことがたくさんあります。身近な課題の解決は、世界レベルの課題の克服につながるものだと考えます。世界の課題SDGsと身近な課題をリンクさせ、各学年約15のグループが多種多様な探究課題を設定し、仲間と協力し、試行錯誤を繰り返しながら地域課題の解決等に向けて活動しています。

Q探究のテーマはどのように決めるのでしょうか？

１年生の前期の活動を通して、グループごとに探究テーマを設定します。

『農』を題材にした探究から派生する社会課題をきっかけとする者、自分の興味や進路に関連付ける者、先輩たちの探究を受け継ぐ者など、探究テーマの決め方は様々です。

Q学校外の活動について教えてください

探究科の生徒たちは、「社会課題は現場にあり！」の精神のもと、積極的に校外へ実地調査に出かけ、インタビューをしたり、実際に体験してみたりしています。インターネットや新聞、書籍、ニュースから得られる情報だけではなく、現場からは実感の伴う生の情報が収集できます。また、大学や企業主催のSDGsリーダー育成プログラムに参加して全国の高校生とディスカッションを行ったり、先端の研究・技術を体験するプログラムに参加したりして、自ら見聞を広げる生徒もいます。さらに、自治体やNPO法人、地域の方々と協力してイベントの開催や、探究活動に関連したボランティア活動に参加するなど、学校外の活動も多岐にわたっています。

Q生徒の皆さんの取り組みの様子はいかがですか？学年が進むにつれて変化はありますか？

探究科の生徒は、「甲府第一高校探究科で探究活動をしたい」という強い希望をもって入学してきます。生徒たちは仲間や教員とともに熱心に、そして楽しみながら探究活動に取り組んでいます。最初は人前にて発表することが苦手な生徒もいますが、発表やディスカッションなどの機会を重ねるごとに積極的に行動ができるようになる生徒もいます。時には仲間や教員、外部の方から厳しい意見をもらい、探究活動で壁にぶち当たることで考え方の深さや視野が広がり、大きく成長しているように思えます。また、下級生は、先輩の発表内容やプレゼンテーションの凄さに影響を受け、先輩の背中を見ながら前に進んでいるようにも感じます。さらに、学年が進むにつれて探究活動にも自主性が増していきます。計画的かつ積極的にインタビューなど実地調査に出かけるようになったり、実地調査やコンクール参加の後に、今までの自分たちの探究内容を自ら振り返ったりでき

るようにもなります。

Q 探究活動をきっかけに卒業後の進路を決めた例はありますか？

探究活動がきっかけで探究内容に興味・関心を抱き、更に深めたいと考えて関連した学部・学科へ進学する事例は多々あります。探究活動を推薦入試や総合型選抜入試に活用して大学に進学した生徒もいます。高校入学以来取り組んできた探究活動や探究内容が評価されて合格につながっています。

また、探究活動で社会に目を向け、自分たちの知らない職業を知り、社会課題を知ることで、進路を考えるきっかけにもなっています。ちなみに、大学では課題発見型・探究型の授業が多く、高校での探究活動で培った力（課題発見力や解決能力、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力など）が大学での学びに大いに役立っているという卒業生の声も多く耳にします。高校卒業後の進路や人生に、探究活動が役立っていることは事実だと思います。

Q 探究科の研修旅行にはどのような特色がありますか？

例年、探究科の研修旅行はフィリピンのセブ島や台湾などで海外研修を行っています。日ごろの探究成果を現地の高校生や企業に英語でプレゼンテーションを行い、国際交流を図っています。しかしながらこの2年間は、新型コロナウィルス感染拡大の影響により国内での研修旅行実施となりました。令和4年度の探究科研修旅行も国内に変更されますが、海外研修で体験できる内容に近いように計画を進めています。

Q 今後の目標について教えてください

甲府一高では、県内で最も早く探究教育に取り組み、平成26年度～30年度の文科省「SGHスーパーグローバルハイスクール」指定以降、現在行われている「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローカル型）」事業を経て、恵まれた環境の中で探究活動を推進してきました。

そして、後者のグローカル型事業は令和4度が最終年度となります。今までに培ってきた様々なノウハウを活かしながら、さらにブラッシュアップを重ね、魅力的なカリキュラムに高めていきたいと思います。

また、昨今のコロナ禍の中、オンラインの普及は目覚ましいものがありますが、全国の高校生や国外の同朋と気軽に交流できる時代になったともいえます。さらにスキルを高め、生徒が主体的に有意義な活動ができるようにサポートしていきたいと思います。

ありがとうございました。後輩の皆さんの、それぞれ学びたいテーマで存分に探究を進めていく姿が頼もしく、心からエールを送りたいと思います。

山梨県立甲府第一高等学校　探究科

文部科学省指定グローカル型地域協働推進校探究成果発表委員会主催Glocal High School Meetings2022英語プレゼンテーション部門において金賞、日本語プレゼンテーション部門において銀賞を受賞。

社団法人未来教育推進機構主催のSDGs探究AWARDS2021にて、「音を用いたシカ撃退装置～楽で簡単な鳥獣対策を～」のテーマで探究している班が審査員特別賞を受賞するなど、毎年多様な部門で数多くの賞を受賞している。

山梨には、もう何年も帰ってないな…

今年のゴールデンウィークは、３年ぶりに新型コロナによる行動制限がありませんでした。久しぶりの自由な大型連休を、旅行や近場へのお出かけで楽しんだ方も多かったのではないでしょうか。
みなさん、山梨に、甲府に、お帰りになりましたか。最後に山梨に帰ったのはいつだったんだろう、もう何年も帰ってないな、と思っていませんか。

知らぬ間に、山梨は「富士の国　やまなし」と名乗り、「ワイン県宣言」を行っています。私たちが知っている山梨は、大きく変わってきています。新しい魅力を発信しつづけています。
鳥もつ煮や昇仙峡、桃の花だけではないのです。

このようななか、山梨在住の同窓生に、甲府の、古くてちょっと新しいスポットや、山梨で味わえるワインや料理を紹介してもらいました。

魅力いっぱいの山梨に帰ろう。

記念誌・懇親会連携企画

山梨に帰ろう！

先輩後輩39年の絆で巡る旅

私たちが高校時代を過ごした山梨県には懐かしい場所、新しいスポットが溢れています。
そんな場所を昭和53年卒の樋口雄一甲府市長と平成29年卒の服部廉太郎YBSアナウンサーの世代を超えた凸凹コンビがご紹介します。

山梨に帰ろう…これは、単なる甲府周辺の見所紹介に留まらず、39年の歳月を超える絆という「宝もん」を再確認する旅となりました。

案内人となる旅人は、昭和53年卒業、樋口雄一先輩、言わずと知れた甲府市長。そしてお供としてお話を聞くのは私、平成29年卒業、山梨放送2年目アナウンサー服部廉太郎です。

東京同窓会の皆さん、最後に一高を訪ねたのはいつでしょうか？我が母校が、観光名所になっているのをご存知でしょうか？

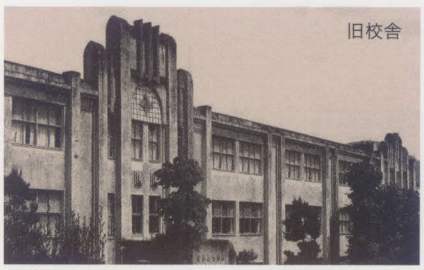
そう、大ヒットアニメ「スーパーカブ」で、一高が登場、アニメファンが、一高を訪れるのは聖地巡礼といわれ、校門で記念写真を撮るために全国からファンが押し寄せているのです。

市長「スーパーカブを制作したのは、僕らの同級生、勝村良一くん。こうした聖地巡礼などで、地域の活性化が促進されることは、有難いことだよね」

やはり、市長の頭の中は違います。僕は母校が有名になって嬉しい…だけだったのですが、39年の歳の差か、背負っている責任の違いなのか、なるほどですね。こんな学びがあるのも、先輩後輩の絆のお陰です。

ちなみに、樋口市長と、僕の通っていた時代の校舎は違っています。市長の頃の校舎は、1928年に建設されたもので、1993年に現在の校舎に建て替えられています。

市長「あの頃の校舎は、石造りで夏は暑く冬は寒かったなあ…」


旧校舎

しかし、あの校舎が多くの先輩の学びを育んでいたかと思うと歴史の重みを感じずにはいられません。

移設された日新鐘

古から現代へと続くタイムトンネル

続いてやってきたのは、甲府駅北口でした。東京同窓会の皆さん、甲府駅周辺の変貌には驚いてはいませんか？この変化を市長はまず楽しんで欲しいのだそうです。

市長「皆さん、帰省して甲府駅に降りたら実家に直行でしょ。是非ここを歩いてください。ここは古（いにしえ）の甲府と現代の甲府のタイムトンネルみたいな場所なんですよ」

甲府駅北口に出て、目を引くのは大きな城門です。ここにはかつて東日本最大規模といわれた甲府城がありました。しかし明治政府がそ

甲府駅北口に復元された城門

甲州夢小路

の真ん中に鉄道を通してしまったそうです。かつての面影が再現された城郭は、古の甲府城を再現したもの。皆さん是非、ここで時代を遡ってください。

ちなみに、市長は今、甲府城周辺の開発計画も進めているそうです。

その開発の中心となるのが甲府城の南側エリア。計画ではかつての甲府城の遺構や面影を生かし、「歴史や文化へのアプローチゾーン」へと生まれ変わる準備を着々と進めています。

甲府城南側の開発イメージパース

北口の城門を抜けると、ここにも市長が皆さんに立ち寄って欲しい場所がありました。それが、甲州夢小路です。石畳や古材を見事に配した街並みに飲食店や土産物店などが立ち並びます。そこには、明治、大正、昭和の甲府城下町の風情が息づいていました。確かにここ一帯は市長がおっしゃる通りタイムトンネルでした。

甲府城の城門を抜け、甲州夢小路を歩いてみれば、江戸・明治・大正・昭和と幾時代もの甲府が体験できるのです。

市長「甲州夢小路は、観光立県山梨のランドマーク。ここにくれば、山梨の特色がいろいろ体験できるため、都市観光となって甲府駅周辺の集客に役立っているんです」

その集客力は、観光客だけではありません。私の友人にも、帰省の折はまずここに寄ってご飯を食べて実家に帰るという友人が何人もいます。どうですか、帰省の折立ち寄ってみてはいかがですか？

お昼を頂いたのは、山梨県産の食材だけで運営する山梨レストラン「メリメロ」。全ての食材が山梨産ということで、一つ一つを味わいながら、より一層、山梨への理解と親しみが深くなるお店でした。

市長「昔は乾杯というと、とりあえずビール、トリビーだったんだけど…今、山梨のワインの醸造所のレベルが高いから是非、乾杯は、ワインかスパークリングワインで」

ここにも39歳の歳の差を実感しました。僕らの場合、一杯目からハイボールが多いんですが…。

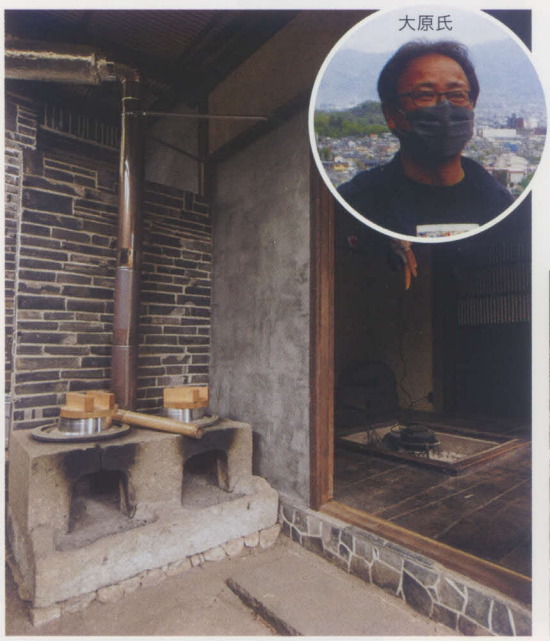
新たな暮らし方の提案

続いてやってきたのは、甲府市を一望でき、葡萄畑に囲まれた愛宕山の中腹でした。

市長「ここは、東京同窓会の人たちに、新たな甲府との付き合い方を提案したい場所なんです」

そこに建っていたのは、古民家を改築したシェアハウスが二棟とイベントスペースが一棟。

ここで展開されているのは、「結（ゆい）」事業。ちょっと、昔の日本の生活を取り込みながら暮らすことを目指しているのです。



結（ゆい）

事業を展開するのは大原勝一さん。実はこの方も昭和58年卒の甲府一高同窓生でした。

大原「入居希望者は、会社員からアーティストの方など実に様々です。甲府は東京からも近いですし、地方都市から持続可能な暮らし方が発信できるのでは、と考えています」

市長「東京同窓会の方でも、高齢のご両親の面倒を見るために平日は東京、週末は甲府という風に二重生活を送る方も多いのではないでしょうか…

甲府市では、移住対象者に補助や助成金を出すなど、様々なサポートを行っているので、是非ご活用ください」

コロナの影響は、本当に私たちの生活への向き合い方も大きく変えました。東京と甲府の二拠点生活やリモート生活をしながら、こうした古民家で豊かなスローライフを送るのも人生を変える選択肢かもしれません。

それにしてもこの古民家で驚きだったのが五右衛門風呂。僕にとっては、初めての体験。樋口市長は、薪を竹筒で吹いて湯を沸かした経験もあるそうです。またも実感する昭和と平成の違い。

しかしここで五右衛門風呂に浸かって、甲府盆地の煌びやかな夜景を眺める…これだけは、どの時代も共通に最高ですね。

初めての五右衛門風呂

甲府の文化発信基地を再認識

続いてやってきたのは、山梨県立美術館。言わずと知れた「ミレー」の名画が代名詞です。

しかし、美術館には入らず、市長が真っ先に指差したのは大きなモニュメントでした。

作品名「ザ　ビッグ・アップルNo.45」

世界で活躍される甲府市出身の現代美術作家、佐藤正明さんの作品です。

山梨県立美術館　ザ ビッグ・アップルNo.45

このモニュメントは、県立美術館創立30周年の記念に佐藤さんが寄贈したものです。

そう、市長にはミレーだけでなく、もっと他の素晴らしいものにも目を向けて欲しいという強い思いがあるのです。

市長「そこで私が紹介したいのが、甲府ミュージアムハウスです」

ここ県立美術館周辺一帯は、昭和53年に美術館が開館してから文化的成熟度を高め、山梨の文化の中心とも言える場所です。

そこに2020年の12月、オープンしたのが甲府ミュージアムハウスです。

ここに展示されているのは、館長の田辺文子さんが長年収集してきたアートファン驚きのコレクション。

入口を入ってまず目につくのは、パリで活躍した日本人画家、藤田嗣治氏の作品。藤田氏渾身の様々な猫作品が並んでいます。

もちろん、甲府市出身の佐藤さんの展示スペースもあり、ここに飾られる絵画は作品選びから見せ方まで、佐藤さんのプロデュースだそうです。佐藤さんの作品を一番良い状態で見ることができる場所ということですね。

田辺館長のコレクションはとても貴重なものばかりで、あのピアニストフジ子・ヘミングの絵画コレクションも展示されています。

しかし、中でも一際目を引いたのは、エルメスのスカーフコレクションでした。

エルメス第一号は、1937年。ここには、1940年のスカーフからコレクションさ

佐藤正明氏の作品の数々

甲府ミュージアムハウス

エルメスのスカーフコレクション

れており、1964年の東京オリンピック記念スカーフなど全てが貴重品ばかり。エルメス好きにはたまらない世界が展開されています。

エルメスのスカーフ、ここにも先輩からの有難い教えがありました。

服部「樋口先輩は奥様にエルメスのスカーフをプレゼントしたことあるんですか？」

市長「あるよ、一度だけ…」

服部「喜ばれましたか？」

市長「何か悪いことしたんでしょ、だって（笑）」

子供の頃の思い出に再会…

そして、最後にやってきたのは遊亀公園の中にある甲府市立動物園でした。

ここは全国で4番目に古い動物園として1919年にオープン。当時は、山梨だけではなく長野や静岡からも家族連れが押しかけ、子供たちは珍しい動物たちに目を丸くしたそうです。

私も小さい頃、家族や友達と何度も訪れた記憶のあるこの場所。皆さんの、脳裏にも甲府市立動物園での記憶は鮮やかなことでしょう。

大きな象を間近で見た感動…動物と触れ合った思い出…家族で撮った貴重な記念写真…どれもかけ替えのないものばかりです。

市長「この100年続く動物園を未来の子供達にずっと残したい…小さな子供たちに、バーチャルではなく、実物を体験する感動をいつまでも味わって欲しいのです」

そうした強い思いのもと、この市立動物園はこの秋から、4年ほどの改修期間に入ります。そのため、甲府市立動物園で刻んだ懐かしい思い出と再会するなら猶予はあとわずか。ラスト何ヶ月かは無料開放となるそうです。

ゾウの「てる」と

動物体験ができるスポットも！

最後に

今回、樋口市長と巡った場所は、甲府に新たな活力を生み出すエネルギーに満ちていました。そして、39年の歳月を超えた新たな「絆」は身に余る光栄であり、僕にとって貴重な学びの場でもありました。

改めて樋口市長から、東京同窓会の方々に寄せる思いとは…

市長「少子高齢化、地方の衰退などが叫ばれる中で地域を盛り上げようとする人々の多くが、甲府中学、甲府一高生です。どうぞ、東京同窓会の皆さん、お帰りの際は地域の活力のアップにお力をお貸しください」

以上、市長のお供は山梨放送アナウンサー、服部廉太郎でした。山梨にお帰りの際は、是非私もご贔屓にお願いいたします。

甲州夢小路
〒400-0031 山梨県甲府市丸の内1丁目1-25
http://koshuyumekouji.com

結（ゆい）
https://r-shoei.com/yui/

甲府ミュージアムハウス
〒400-0065 山梨県甲府市貢川2丁目1-17
https://kofu-museum-house.com

甲府市立遊亀公園附属動物園
〒400-0865 山梨県甲府市太田町10-1
https://www.city.kofu.yamanashi.jp/zoo/

山梨に帰ろう

ワインでつながる 3人の同級生

山梨県は、日本ワイン発祥の地であり、その生産量及びワイナリー数は日本一を誇ります。山梨ワインの更なる発展を図るため、2021年8月7日、知事が山梨『ワイン県』を宣言しました。
かつて一高の同じ組で一年間を共に過ごした昭和58年卒の3人。偶然にもワインに深く関わる仕事をしています。卒業後、東京やフランスで過ごした後に山梨に戻ってきました。ワインについて、また「ワイン県やまなし」だからこそできる、それぞれの取り組みについて聞きました。

シニアソムリエ

吉村 幸一

2005年に資格を取得（当時のシニア・ワインアドバイザー）。勝沼のワイナリーに勤務。

学生時代にワインに興味を持ち、趣味としてワイン関連の本を読んで勉強を始め、仕事ではバイヤー業務、店舗出店と様々な経験を積みました。

ワインを販売する仕事でのソムリエの役割は、プロとしての知識、経験をふまえて個々のワインの個性（特徴）を正確に理解し、そのワインの持つ良い点（魅力）を消費者の方にわかりやすく伝え、また食事との相性（マリアージュ）など、より一層そのワインが楽しめる提案をして、ワインという素晴らしいお酒の魅力を多くの方に紹介していくことだと思っています。

日本ソムリエ協会
ソムリエバッジ

愛用のソムリエナイフ

前職では、酒類全般を扱い、絶対的な上位品質でいえば外国産が優位と認識していました。

勝沼のワイナリーに勤務するようになり、日本ワインについて勉強し、その成り立ちから現在の世界に挑戦する成長までの過程を学びました。

そして、今まで見えていなかった日本ワインの良い点を知り、勝沼のワイナリーで日本ワインだけを売る立場だからこそ、ワイナリーを訪問して購入してくださるお客様との接客と、日本ワインの良さを伝えるソムリエとしての役割の重要性を感じています。

ワインの造り手

清水 昌行

シミズ酒販 代表取締役

私（吉村）が清水君の取り組みを紹介します。

39年前から、シミズ酒販の店舗が所在する甲府市里吉地区の甲州種ぶどうを100%使用したワインを県内ワイナリーに委託醸造。毎年地元の方に地元のぶどうで作ったワインを届けるというコンセプトで長く販売を続けています。まだ、山梨ヌーボー（新酒）という言葉もなかった時代に、収穫したぶどうをその年の内にフレッシュなワインに仕上げて販売する、一歩先行く商品でした。

現在では地産地消も、オリジナルワインも当たり前かもしれません。しかし、一軒の酒販店が毎年2000本（現在）のワインの販売を39年間も継続できていることこそ、そのワインが多くの方に認められているなによりの証（あかし）です。

農家の方との対話を大切にし、ワインの品質もワイナリー任せにせず、納得のいくワイン造りを更新しています。現在は、甲府市の認証する「甲府之証」ブランドに認定され、ふるさと納税の返礼品にもなっています。

里吉2021ティスティングコメント（吉村シニアソムリエ）

輝きがあり、透明感のある、無色に近い色合い。粘性はさらっとしており、若々しさや軽さを感じさせる外観です。

フレッシュでさわやかな柑橘系や青リンゴのような生き生きした香りや白い花のようなやさしい香りを感じます。

味わいは軽く、酸は穏やかで甲州種によくある苦みやえぐみも少なくきれいな味わいです。フルーツを思わせる心地よい風味と後味にはやさしさやまろやかさを感じます。余韻は短くあっさりしているので、とても飲みやすく、今までワインを飲んでいなかった方にもおすすめのワインです。

フレンチ シェフ

ぶどう畑の中のフレンチレストラン「キュイエット」オーナーシェフ

山田　真治

近年、料理ではテロワール（その土地の地域性）が、とても求められています。私も現在、山梨ガストロノミーの追及・実現をテーマにして、県内の複数のシェフと県の観光振興課とでチームをつくり活動をしています。

その中で山梨にとって欠かせないのが、やはりワインです。近年の県産ワインの質の向上には驚かされます。そこには、県内ワイナリーの努力があります。

山梨県内に複数点在しているワイナリーのワインには、それぞれにテロワールがあります。私達料理人がつくる料理や県産食材にあるテロワールとうまく組み合わせて、山梨の食とワインの魅力をもっと発信していきたいと考えています。

山梨県産ワインのトレンド

最近の山梨のワイン業界は、先駆的な各ワイナリーの次の世代の方がその意思を継ぎ、海外で醸造の修行をするなどして、高品質な山梨県産ワインを生み出し、更なる高みを目指しています。

また、ワイン製造免許の緩和により、異業種からワイン醸造に参入する新規ワイナリー（近代的な設備を保有）もあり、コンクールで活躍しています。

さらに、個性的なブティック（小規模）ワイナリーも増え、大手メーカーにはできない、自己主張のあるワイン造りをしています。スタイルも無濾過、野生酵母、有機栽培など様々な切り口で、個性的なワインを醸造しています。

「日本ワイン」として純国産ワインをアピールする機運も高まり、大手から小規模な各ワイナリーまでが切磋琢磨しながら県全体のレベルを上げて、様々なワインを提供しています。

日本ワインコンクール

国産ぶどうを100%使用した日本ワインを対象としたコンクールが例年7月頃に開催されます。赤・白・日本品種など12部門で専門家の審査により金・銀・銅（全部門で約200点が受賞）などが決まります。山梨のワインも数多く受賞しています。意外にも、価格の高いワインが金賞を独占するわけでもありません。銀賞や銅賞のワインを含めてセレクトすれば、おいしいワインが手に入りやすいでしょう。

ワインと料理のマリアージュ

吉村シニアソムリエのアドバイス

ポイント	
ワインの色と素材の色味付けが同じ要素のものを合わせること	
赤	肉ー牛　鹿　猪 魚ー鮪　鰹
旨味や味わいの強さがあるのでそれに負けない赤ワイン	
白	肉ー鶏　豚 魚ー鯛　平目
味わいが淡白なのですっきりとした白ワイン	

アワビの煮貝
＊醤油ベースの淡い味付け。
＊新しいスタイルの甲州種のオレンジタイプ（皮の要素の入った）のワイン。

甲州鳥もつ煮
＊素材は白身だがコクのある味付け。
＊軽めのベリーA。

八ヶ岳の白カビ系のチーズ
＊独特の風味のある味わい。
＊旨味の多いシュール・リー製法（澱の要素を活かした醸造方法）の甲州種のワイン。

山田シェフの提案

＊八ヶ岳山麓の鹿肉のソテー
ソースポアブラード
＊グレイス・あけの
中央葡萄酒（グレイスワイン）

果実味が豊かでビロードのようなタンニン、ほのかなスパイス香が魅力の北杜市明野産の赤ワインは、キメが細かく柔らかな八ヶ岳山麓の鹿肉のソテー、黒コショウを効かせたソースとよく合います。

＊八ヶ岳湧水鱒とホワイトアスパラガス 蕗の薹ピュレ
＊穂坂甲州&ヴィオニエ
マルス　穂坂ワイナリー

桃などのフルーツと白い花の香り、果実味に富みふくらみのある味わいが印象的な韮崎市穂坂産の白ワイン。

余韻はフルーティーな酸味と心地よい苦みがながく続きます。ねっとりとした食感の旨味のある八ヶ岳湧水マスと蕗の薹のほろ苦さとよく合います。

祝 第62回
甲府中学・甲府一高
東京同窓会

昭和55年度卒業　二宮　公俊

起て撃て勝て

起て撃て勝て
甲府一高　一高
その名ぞ我が母校
仰ぐ芙蓉の峰さやか
穹天まさに轟かむ
見よ精鋭の集へるを
結べる眉に必勝の
誓ひは固しわれらが精鋭
おお
起て撃て勝て
甲府一高　一高
その名ぞ我が母校

一高からつながる今の私

10代の頃の夢が自分を育ててくれた、高校時代にその後の人生を決める出来事があった、振り返るとそのような感慨を覚えることがあります。誰もが持っている現在までのそれぞれの道程の物語。
同窓生3人に高校時代、そしてその後の歩みと今について語っていただきました。

（平成8年卒）

望月啓太

KEITA MOCHIZUKI

NHKチーフアナウンサー
1977年6月13日生まれ
石田小-南西中-甲府一高-慶応義塾大商学部
2000年、NHK（日本放送協会）入局。熊本や前橋などを経て東京へ。「おはよう日本」スポーツキャスターとして国内外を取材し、2010年バンクーバー五輪現地キャスターを務める。その後、報道キャスターに転身、「NHK正午のニュース」など全国放送で多くの緊急報道に携わる。
2021年4月より地元・甲府放送局で「Newsかいドキ」を担当。

25年ぶりの帰郷

「山梨の皆さん、帰ってきましたー！」と盆地から富士山まで一望できる甲府城から叫んだ番組オープニング。2021年春、NHK甲府の「Newsかいドキ」のキャスターとして、甲府一高卒業以来25年ぶりに山梨の地に戻ってきました。

番組は月曜から金曜まで夕方6時10分から、最新のニュースや話題、スポーツや気象情報などを県内向けにお伝えする50分間の生放送。すでにお目にかかっているかもしれませんね。毎日、甲府の〝中心〟の変化を感じながら平和通りを歩いて通勤、山梨再発見のため放送の合間を縫って取材にも出掛け、大好きな故郷の皆さんのために仕事ができる喜びを噛み締める日々です。NHKの根幹は「皆さんの命と暮らしを守る報道」。この1年、コロナ禍を生き抜くためにどう皆さんに呼びかけ伝えるのかが番組の中心ですね。災害から命を守る防災・減災への思いも強く、それについては後述したいと思います。

敢えて高いレベルに身を置く

一高ではサッカー部のキャプテンをさせてもらいました。現在の自分の礎は山梨でのサッカー経験だと思っています。中学時代は朝練に始まり、夕方の部活動を終えると、夜は塚田雄二監督（韮崎高出身、元ヴァンフォーレ甲府監督）が教えるUスポーツクラブに自転車を30分こいで通い、他校の優秀な選手たちと技術を磨きました。Uスポでは中学生として県内初の海外遠征も経験しました。前年まで強化校だった一高進学が決まると高校に電話して頼み込み、入学式を待たずしてサッカー部の練習に参加しハイレベルな先輩たちの中に飛び込みました。そして1年生の冬には県ベスト8メンバーの1人となりました。私は正直、上手な選手ではありませんでした。それでも敢えてレベルの高い環境に身を置き一流から学び世界を広げる、この精神だけは持ち続け人間としての成長に繋げてきたのだと今振り返ると思います。

NHKと結び付けてくれたのもサッカーでした。大学時代の就職活動中、自分には何ができるのか、強い気持ちで働けるのはどのような仕事か、自問自答の末に導き出した答えはサッカーへの恩返しでした。W杯にJリーグ、最も中継していたNHK、そこでスポーツを伝える仕事をしようとがむしゃらに掴みにいき、何とかご縁を頂いたのです。

〝スポーツ魂〟を仕事に

熊本、前橋、東京、名古屋、東京、岡山、甲府。NHKで渡り歩いてきた放送局です。地方で高校サッカーや高校野球などを取材し、若手の登竜門である甲子園での実況デビューも果たし、念願かなった最初の東京は、朝の全国ニュース「おはよう日本」のスポーツキャスターの仕事でした。紅白の司会を何度も務めた阿部渉アナや、今はあさイチのMCをしている鈴木奈穂子アナらと共に日本の朝に情報を届けました。朝の番組は夜中2時半起床の過酷な生活。しかし、せっかく頂いたチャンス、私はとりわけサッカー取材に奔走。全国の様々な方が見てくれる番組で、サッカーをあまり知らない人に日本代表戦などをゲスト解説者の力を借りながらわかりやすく伝え、その面白さを理解してもらうことを目指しました。海外での仕事を通じ、他競技の魅力もお伝えしました。あの浅田真央選手が銀メダルを獲得した2010年カナダでのバンクーバーオリンピックの現地キャスター、アメリカでは大リーグ・ダルビッシュ有投手の挑戦、韓国ゴルフの強さの秘密を探るためにソウルに飛んだこともありました。そして必ず実

現したいと思っていたのが私にとってJリーグが開幕した高校1年の時からのヒーロー、サッカーのキングカズこと三浦知良選手への単独インタビューです。

カズさんが通う東京のオーダーメイドスーツのお店に自ら頼み込みインタビュー会場をセッティングしました。メチャクチャ、かっこよかったです（ミーハーですね…笑）。

私はトップアスリートの言葉の力には、全ての人に通じるものがあるとずっと信じているのですが、数々の栄光を掴んできた当時44歳のレジェンドが選んだ言葉は「何をしてきたかではなく、今、何ができて、これから何をしていくかだ」。これは今でも私の心の中に刻まれている言葉です。

三浦知良選手と

命を守る報道キャスターへ

東京での44年間のスポーツ担当卒業の際、私は報道キャスターへの転身を決意します。きっかけはスポーツ担当だった最中に起きた2011年の東日本大震災。もっと救えた命があったのではないか、未曽有の大災害に直面した我々NHKアナウンサー皆の思いでした。NHKは災害対策基本法で、報道機関で唯一、指定公共機関に定められています。つまり、ライフラインや通信、輸送などと共に緊急時に国民を守る役割を担っています。そうしたNHKの根幹である命を守る報道で役に立ちたい、もっと広い視野でニュースをお伝えしていきたいと考えるようになったのです。名古屋で報道キャスターとして経験を積み、2度目の東京は、NHK報道の中枢、ニュースセンター（通称：NC）の席に着きました。午前10時や正午の全国ニュースを中心に様々な報道に携わりました。関東東北豪雨、熊本地震、口永良部島の火山噴火。また、北朝鮮の弾道ミサイル発射によるJアラート（有事の緊急情報）、トランプ大統領の就任式の3時間生中継という仕事もありました。NCではひと時も気が休まることはありません。地震のアラームが鳴ればすぐにスタジオに飛び込み、災害だけでなく事件・事故、政治、経済、常に国内外問わずニュースが入り、重要と判断されれば即放送となります。いわゆるブレイキングニュースです。どれだけお役に立てたかは視聴者の方々のご判断ですが、私自身もアナウンサーとして大きく視野を広げることができた3年間、後半はニュース7にも参加し仲間たちとNCを守りました。

東京のニュースセンターにて

井上あさひアナらと

地域の人たちのために

2018年、岡山に赴任した年の7月、西日本豪雨を目の当たりにします。特に被害が大きかったのは倉敷市真備町です。私は直後に被災地に入り、水の恐ろしさ、高齢者避難の難しさ、何より私たちは異常気象の時代を生きていることを痛感しました。どうしたら命を守ることができるのか、被災した方々に話を聞く中で最も重要だと思ったことは「〝前もって〟安全な場所に移動すること」です。特別警報など危機が迫ってから動くのでは遅いのです。そのためには自分の住む地域の浸水や土砂災害のリスクを正しく知り正しく恐れることです。

そのことを胸に戻ってきた山梨。ふるさとの減災のため、まず私は山梨のリスクを正しく知ってもらう報道に取り組み始めました。山梨の人たちは災害が少ないと感じている人が少なくありません。近年大きな水害が起きていないことも影響しているでしょう。でも、過去の歴史はそうでないことを語っています。私が着目したのは「自然災害伝承碑」です。釜無川や富士川、大武川の大水害、旧足和田村の土石流など、先人たちがその歴史を石碑として残してくれています。岡山の真備町にも水害伝承碑のあった場所が再び大水に見舞われました。そうした伝承碑や経験者の声を取材し番組で何度も伝えました。皆さんの命を守るためこれからもしつこく伝えていこうと思っています。偶然にも、現在私はインタビュー当時のカズさんと同じ年、「何をしてきたかではなく、今、何ができるのか」を常に問いかけ、故郷のために働きたいと思っています。

2018年 倉敷市真備町

和久田麻由子アナ、阿部渉アナと

さて、2022年度、NHK甲府「Newsかいドキ」はリニューアル。〝山梨のみんなのチャンネル〟をキャッチフレーズに、若い皆さんを含め、より幅広い世代の方々に親しんでもらえるよう、様々な市町村からの生中継や観光グルメの情報など強化し、Twitterなどを通して番組へどんどん参加してもらう仕掛けも考えています。そして、もちろん、私には山梨で培われたサッカー魂が宿り続けています。サッカーへの恩返しとしてヴァンフォーレ甲府の試合を取材しスポーツの情報も充実させていきます。

最後に甲府一高同窓生の皆さんにワガママなお願いをさせてください。今、NHK甲府公式Twitter（アカウント@nhk_koufu）での発信にも力を入れています。これからの望月への激励も込めて！〝フォロワー〟になっていただければ嬉しいです。山梨のニュースを毎日更新していて、かいドキの動画もご覧いただけますのでチェックしてみてください。また皆さん、こんなところ取材してみたら？など地域の情報をぜひ教えてください。そして、在校生・大学生の皆さん！将来NHKで一緒に働きませんか？OB訪問いつでもお待ちしています。それぞれご連絡は下記からお願いします！

水害伝承碑 取材の様子

NHK甲府・問合せhttps://www.nhk.or.jp/kofu/contact/

（昭和58年卒）

河野玲子

REIKO KONO

1987年武蔵野音楽大学卒業。1989年コンセルヴァトアール尚美ディプロマコース卒業。木村和彦、塚田靖、百瀬和紀、安倍圭子の各氏に師事。1987年第4回日本管打楽器コンクール第3位（1位なし）。ソリストとしての活動の他、NHK交響楽団、東京都交響楽団、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、群馬交響楽団、アンサンブル金沢など多数演奏会に出演、またレコーディングにも参加。全国で吹奏楽コンクール、アンサンブルコンテストの審査員としても学生の育成に貢献している。
東邦音楽大学及び、同大学院特任准教授。日本打楽器協会理事。宮崎国際音楽祭に毎年参加。

音楽の扉を叩き続けて

東邦音楽大学、及び同大学院特任准教授として指導の傍ら、打楽器奏者、音楽家としてソロやオーケストラで精力的に活動を続ける河野玲子さん。教え子である齋木薫さん（東邦音楽大学大学院・器楽表現コース管打楽器領域・打楽器専攻）のご協力により、インタビューが実現しました。

音楽との出会いを教えてください。

父がモダンジャズ、母はクラシック音楽を聞くのが好きで、家でもよく音楽が流れており、自然と6歳からピアノを習い始めました。とても良い先生でピアノの他にクラシック音楽の基礎的なことを幅広く教えてくれ、できようになることが嬉しくて自信を深めていきました。小学校3年生のときに自分で作曲した曲を弾き語りする、というコンテストで、初めて人前で演奏をしました。全国大会に進みましたが、激しく自信を失い、コンプレックスを感じました。「全国にはこんなにいろんなことができる人がいるのか」と。

それで音楽にのめり込んでいったわけですね。

中学に進学するとバスケ部に入部しました。憧れの先輩がいて「ステキ！」という気持ちだけで。

意外ですね、どうやって打楽器と出会ったのですか？

ピアノのレッスンは続けていました。作曲のコンクールでは、山梨県でいつも一位を頂戴していて、音楽自体が嫌いになったわけではなかったです。ほどなくして担任の先生に「君はどう考えても音楽系だろう？リーダーになる素質がある！」と言っていただき、あっさりと吹奏楽部に転部しました。そこで「打楽器と運命の出会い」と言いたいのですが、まわりは楽器が決まっている状態で、余っている楽器は打楽器だけだったので仕方なく（笑）。楽譜が読めるという理由だけでシロフォン（木琴）を担当し、弾いていくうちに面白くなりました。幼馴染も打楽器で、切磋琢磨できたのもよかったと思います。

マリンバを買ってもらったのは中学生の時でした。親に「欲しい！」と言ったら、あっさりOKが出て（笑）。買ってもらったマリンバを学校に置かせてもらい、ひたすら練習しました。

「河野さんといえばマリンバ」という印象が強いですが、ここに出会いがあったのですね。そして一高へ入学してからも吹奏楽部へ？

偶然にも、高校も幼馴染と一緒になり、二人で吹奏楽部の打楽器パートに入りました。マリンバ専門にという思いはなかったのですが、ドレミ、と音階のある鍵盤打楽器なので、メロディーが弾ける、という理由でも興味を持ちました。音域が広く、柔らかで温かく、深い響きの音色のマリンバに憧れていました。当時はマリンバを持っている学校も少なく、その頃の一高にもマリンバはありませんでした。

当時の吹奏楽部の部室は旧日新ホールの2階にあり、先輩方が大変厳しかったり、夏は蒸し風呂のように暑かったり、と思い出深い場所です。2年生の時に吹奏楽コンクールやアンサンブルコンテストに初出場したら、いきなり県大会を突破し関東大会まで進むことができました。一高の吹奏楽部も私の打楽器も注目を浴び、今思えばまさに「井の中の蛙」なのですが、その頃は自信と意欲の塊みたいなところがありました。その勢いもあって、2年生の終わりに音大受験を決意しました。

音大の受験はスムーズでしたか？

藝大に行きたくて、3年生から毎週、土日に東京まで通いました。音楽の勉強、太鼓のレッスン、ピアノが忙しく、疲れ切って甲府に戻り、月曜日はふらふらで遅刻したり（笑）。恥ずかしながら数学は赤点を取ってしまい、先生にはご迷惑をおかけしました。共通一次試験も懸命にやりました。ところが不合格になり、当時実技を習っていた先生の縁で武蔵野音楽大学に入学しました。

そこで、甲府を離れて東京生活をはじめたわけですよね。いかがでしたか？

受験に失敗したことで逆にスイッチが入り、とにかく練習しました。寮で朝食前に練習、朝食後

にも練習、授業の後もひたすら練習。もちろん夕食後も練習。音大はそれぞれ大学のカラーみたいなものがありますが、私はそれを全く無視して、とにかく「自分の演奏をしたい！」という一心で打ち込んでいました。その姿を見て、先生が自由にやらせてくれたのも本当にありがたかったです。

卒業後はどのような道を考えていましたか。音大の打楽器というとオーケストラ団員を目指す印象がありますが。

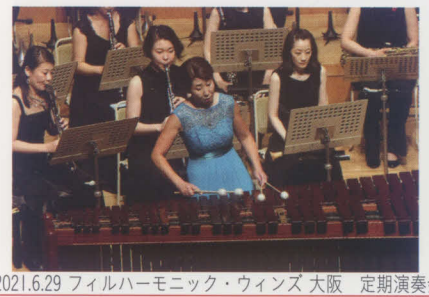
新設のディプロマコースのある学校に入りました。オーケストラを目指す人も多かったのですが私は「ソロでやりたい！」と思い、日本管打楽器コンクールを受けて3位に入賞しました。

コンクールに入賞してますます意欲的に活動していったわけですね。

そう思っていた矢先、人生の転機が突然訪れました。母が脳腫瘍で余命一年と宣告されたのです。母が病気になったこともショックでしたが、それ以上に闘病中の母がどんな音楽も受け入れることができなくなった事実に衝撃を受けました。全ての価値観が変わってしまうような出来事でしたね。「私のやっている〝音楽〟とは一体何なのだ？」「音楽は健康な人だけのものなのか？」と。ここで、初めて音楽の意味と真剣に向き合うことになります。と同時に、自分の「音」に対しても向き合うことになりました。母の入院先の近くに部屋を借りて、そこにマリンバだけを置いてひたすら練習しました。毎日、毎日、「ドレミファソ」、ただこれだけを録音して、納得いくメロディーが聞こえるまでやり続けました。そして出した結論は「私は人を幸せにする音楽をやる！」ということでした。これは母が遺してくれたものだと思っています。

お母さまのご病気により、今まで思っていた音楽の在り方が変わって、演奏活動にも変化はありましたか？

母は一年半の闘病生活の末、自宅で亡くなりました。母56歳、私は25歳の時でした。音楽、音と向きあうようになって、打楽器という枠をこえたいと思うようになりました。その頃、恩師が「オーケストラをやってみないか」と誘ってくれて。落ち込んでいた私を励ます意味だったと思うのですが、NHK交響楽団の打楽器奏者として出演をする機会をいただきました。これが私の音楽の扉を開くきっかけとなりました。素晴らしい音楽家、指揮者、ソリストから学ぶものは多く、同じステージに立ち、音楽を共有できる幸せを強く感じました。失敗もたくさんしましたし、そのたびに落ち込み、この音で良いのかと悩んだことも数知れずですが、必死に踏ん張りました。当時はまだ女性の打楽器のプレイヤーが少なく、先陣を切る思いもありました。東京フィルハーモニー交響楽団、東京都交響楽団、アンサンブル金沢など、全国の様々なオーケストラに出演する機会をいただき、その経験が今日の私を形成しているといっても過言ではありません。


2021.6.29 フィルハーモニック・ウィンズ 大阪　定期演奏会

河野さんは世界初のマリンバと吹奏楽のコンチェルトを、20世紀を代表する作曲家アルフレッド・リードに委嘱し、世界初演奏とレコーディングをされました。どういういきさつでしたか？

「マリンバと吹奏楽のためのコンチェルティーノ（小協奏曲）」という曲なのですが、これも母のことがきっかけです。健常者だけではなく、病を抱えている人、心が弱っている人にも届く、打楽器の曲、マリンバの曲が当時どこを探してもなかった。どうにかして自分が届けたい、ならば書いてもらおう、という気持ちでした。世界的作曲家のリード氏に快諾していただき、またたく間にリード氏自身の指揮でレコーディング、世界初演、同タイトルのCDのリリースと続き夢のようでした。

河野さんの、この曲と演奏に惹かれてマリンバを始め、指導してほしい、という人も多いと思います。かくいう私もその一人でした。教える時に心掛けていることなどはありますか？

音大は演奏家を育てる場所ですが、音楽を通じて感性を磨き、人間力を高め、社会に出て生き抜く力をつける場所に変わりつつあります。

誰もが、「表現の扉」というものをたくさん持っているのですが、それに気づかなかったり、開け方がわからなかったり。その扉を様々な方法でノックしたり、鍵を与えたりして、開かせようと思っています。扉が開いて視野が広がってくると、今度は自ら「音楽の扉」を叩くようになります。そして、自分を知ると共に、他者をも知っていく…。音楽によって自分を磨き続ける素晴らしさ、表現する喜びに気づいてもらえたら本望です。私にもまだまだ閉じたままの扉がたくさんあります。演奏家としても教育者としても、その「音楽の扉」を叩き続け、真の演奏家を目指すべく活動していきたいと持っています。

最後に一高生、同窓生にメッセージをお願いします。

私の音楽の基盤は間違いなく一高時代にあります。一高の自由な校風や素晴らしい先生方、同級生、先輩、後輩に恵まれ、チャレンジさせてくれる環境があったことに、ただ感謝しかありません。今の一高生のみなさんにも、好きなことや、興味があることにとにかくチャレンジしてみてほしい、と伝えたいです。コロナ禍で演奏活動や交流が制限される日々が続いている中で、こうしてまた同窓会の皆さまと発信し合えること、一高を誇りに思えることは本当に幸せなことだと改めて感じています。ありがとうございました。

今回、いちばん印象的だったのは「音楽の扉」、この言葉でした。その扉は河野さんの「愛情」というエネルギーが加わってこそ開かれていくのだと感じました。河野さんの想いが届き、打楽器やマリンバに少しでも興味をもっていただけるきっかけとなったなら幸いです。（齋木　薫）

聞き手の齋木薫さんと

(昭和58年卒)

三澤日出巳

HIDEMI MISAWA

1965年1月生まれ。1983年 甲府一高卒業。
1987年 京都大学薬学部卒業、1989年 同大学院薬学研究科修士課程修了。博士(薬学)。
東京都神経科学総合研究所研究員。
カリフォルニア大学サンフランシスコ校訪問研究員。
共立薬科大学助教授、同教授。
慶應義塾大学薬学部教授。2019年10月から薬学部長。
日本薬理学会理事、日本学術会議連携会員。
専門は神経薬理学、病態神経科学。

一高での一番の思い出は強行遠足です。それは、卒業後39年を経た今でも、貴重な体験として私の中に残り、人生の道標となっています。

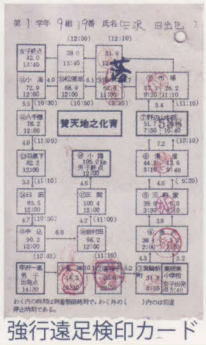
強行遠足での途中棄権と友人からのアドバイス

初めての強行遠足は、途中棄権という情けない結果でした。夜明けすぐに、野辺山の2つ先の海の口という検印所でリタイアを申し出て、そのまま電車に乗って甲府の自宅に戻ってしまいました。一高からの距離は63km、小諸は遥か彼方でした。足の痛みは確かにありましたが、それ以上に心が弱かったのは明白でした。夜の闇と寒さの中で集団から遅れ、「このまま続けても小諸までは行き着けない、どこかの検印所で制限時間になる」と思い、自ら歩くことやめてしまいました。本当はもう少し歩けたと思います。

その時、私の母親は、PTAに協力して小諸の一つ手前の三岡検印所で手伝いをしていました。他の親御さんの子どもは次々と通過していくのに、昼近くになっても私は姿を現しません。心配した人が、手前の検印所の幾つかを車で周ってくれたそうです。現れないのもその筈です。私はその時間には甲府で布団をかぶって寝ていました。母親に情けない思いをさせたことも、私の心にはずっしりと残りました。

2年生の強行遠足では「必ず小諸に行く」という目標を立てましたが、どうしたらよいか分からず不安でいっぱいでした。そこで、運動部で活躍し、強行遠足でも1年生から10位以内でゴールしている友人に思い切って「どうしたら小諸に行き着けるのか」と尋ねました。その時の友人の答えが「足を前に出せばいいんだよ」というものでした。私は、その言葉を聞いた時に、ストンと腑に落ちるものを感じました。彼の言葉を信じ、無心に、ただひたすら足を前に出すことだけに集中しました。幸いに2年、3年と小諸に到達することができました。

私の1年次の検印カードには大きく「落」と書き込まれています。なんとなく捨てられず、今でも手元に残っています。



強行遠足検印カード

大学進学と研究者の道

一高を卒業後は京都大学の薬学部に進学しました。その頃に注目を集めていた生命科学や遺伝子工学などの言葉に惹かれたのが薬学部を選んだ理由だったと思います。研究室はモルヒネなどの鎮痛薬の分野で有名な教室を選びました。若い助手の先生と連日夜中まで実験するなど、この教室ではだいぶ鍛えられました。修士課程の後は製薬会社に就職することを希望していましたが、ある時教授から、「学会の懇親会で偶然に隣り合わせた先生から、京大薬学部から人を採りたいと言われた。君に興味はないか」と聞かれました。

その先生は公立の研究機関である東京都神経科学総合研究所の部長であり、米国のノーベル賞学者の研究室で業績を挙げ、鳴り物入りで日本に戻って来ていた高名な研究者でした。偶々その頃に、後任の部長候補としてリクルートした方が京大薬学部出身であり、次世代の若いスタッフも同門・同窓の方が上手くいくだろうとの組織運営上の理由から、学会で隣り合わせた私の教授に声をかけた様です。

就職を前にして教授から「三澤君、研究者は年に数回賢くなればいい、あとは馬鹿になって手を動かすことが大切だ」とのアドバイスをいただきました。私はその時、ふと、強行遠足で友人からもらったアドバイスを思い出しました。研究の道も小諸への道も、正しい方向に足を出し続けることが重要なのだ、と学びました。

神経難病の研究

私が就職した頃は、神経難病と呼ばれる原因不明の病気の一部が遺伝子異常により発症することが分かり、神経疾患の研究が一気に発展した時期でした。研究所には、多くの若い医師が、この新しい研究に取り組むために集まってきていました。研究所の隣には神経疾患の専門病院があり、そこで私は筋萎縮性側索硬化症（ＡＬＳ）という病気のことを知りました。

ＡＬＳは運動神経が主として侵される疾患です。中年期以降に発症し、感覚や認知機能は正常に保たれたままで、自分の意志で体を動かすことが難しくなります。病気が進むと、外界との意思疎通や呼吸も困難となります。自分の体の中に自分が閉じ込められるような状態は、多くの専門医が「最も過酷な疾患」と形容することがあります。有効な薬剤や治療法は現在でもありません。病気のメカニズムを解明することは、新たな治療法の開発に必須のプロセスです。私は研究所で新たにできたＡＬＳの研究チームに参加したことをきっかけに、この病気の基礎研究に取り組むようになりました。ＡＬＳは現在でも私のラボの研究テーマの中心となっています。

研究所では部長から直接に研究の手解きを受けました。予想外の結果や困難に直面した時、「研究には３つの戦いがある」教えられました。１つめは「自分との戦い」つまり克己心です。２つめは「競争相手との戦い」です。研究では一番乗りは評価されますが、２番目以降はあまり評価されません。３つめが「研究対象（自然）との戦い」であり、これが一番難しいと言われました。自然（我々の領域では人体・生命）には法則性があり、それは大概美しいものですが、自然はその姿をやすやすとは見せてくれません。そこで、研究者は実験と思索により、諦めずに自然への問いかけを続けることになります。やはり「足を前に出し続けた者」だけに自然はその神秘を見せてくれると教わりました。

研究者から大学教員へ

研究所には、途中の２年間の米国留学も含めて16年間勤務しました。一方でこの間に、薬学部では大きな変化がありました。薬剤師養成課程は２００６年に４年制から６年制へと変わり、その前後で全国の薬学部の数は47から71へと急増しました。この薬学部の新設ラッシュに伴う教員の異動も相次ぎ、私の身近でも、共立薬科大学で助教授をしていた京大の後輩が、関西の新設薬学部へ異動することになりました。

彼とは以前から共同研究をしていた縁で、私は後任として共立薬科大学への異動を誘われました。私は、それまで大学教員になることは全く考えていませんでしたが、40歳を目前にして研究者としての自己の先行きに不安を覚えていた時期でもあり、思い切ってこの話を受けることにしました。２００５年４月に私は助教授として共立薬科大学に赴任しました。覚悟はしていたものの、研究所と大学ではその環境は大きく異なり、講義や実習の準備で目が回るような忙しさに、すぐに異動したことを後悔しました。このときは本当に「しまった」と思いました。

ラボの近影

合併とコロナ禍

異動して１年くらいすると、共立薬科大学と慶應義塾大学との合併交渉が耳に入ってきました。学内は賛否両論で意見が分かれている様子でしたが、新任助教授の私は全く蚊帳の外でした。異動から２年後の２００７年に私は教授に昇任し、その１年後の２００８年に共立薬科大学は合併により慶應義塾大学の薬学部となりました。

この時はブランドの威力というものを目の当たりにしました。慶應義塾大学薬学部の偏差値はいきなり私大薬学部のトップにランクされる様になりました。口の悪い先輩には、「三澤は棚ぼた」と言ってからかわれています。人の縁とタイミングは不思議なものだと感じました。

私は、令和元年10月から思いがけず所属の学部長を務めることになりました。学部長の仕事は、「挨拶（Ａ）、会議（Ｋ）、トラブル対応（Ｔ）」なのですが、右も左も分からないうちに、年明けから新型コロナウイルス感染症の対応が降ってきました。キャンパスのリモート化などの目前の課題への対応はもちろんですが、コロナ禍は少子化の加速という大学の存立基盤を揺るがす深刻な問題をもたらしました。日本の年間出生数は、この40年間で穏やかに減少し続け、第二次ベビーブームの頃（約２００万人）の半数以下、２０１９年には90万人を割り込みました。これがコロナ禍による生み控えの影響で、２０２０年、２０２１年は84万人とさらに減少しています。少子化は従来の予想よりも10年早い速度で進行しています。今、大学は危機感を持って進むべき方向を定め、歩み出さなければなりません。

私が大学教員になってから17年が経過し、研究所に勤めていた期間よりも長くなりました。これまでに学生と一緒に研究することで、自分と少人数のスタッフだけで研究に没頭していた頃とは別の沢山の学びがありました。今後も学び続け、歩み続けて行こうと思っています。

東京三一会有志

株式会社 山文

ワイヤロープ　土木建設資材・工事　太陽光発電　消防・防災機器

代表取締役会長
福岡経済同友会常任幹事筑豊委員長
廣瀬彰義
（昭和31年卒）

本社　〒820-0004　福岡県飯塚市新立岩１番20号
TEL 0948(22)0215
支店　福岡　北九州　東京　加工工場　飯塚　北九州
https://www.kabu-yamabun.co.jp/

おかげさまで 100年

特定公益増進法人 財団法人 日本盲導犬協会
JAPAN GUIDE DOG ASSOSIATION

理事長 **井上幸彦**
（昭和31年卒）

東京本部　TOKYO Office
150-0045　東京都渋谷区神泉町21-3-3F
TEL (03)5452-1266　FAX (03)5452-1267

脳神経外科　整形外科　麻酔科　リハビリテーション科

藤沢脳神経外科病院

院長：**数野隆人**
（昭和31年卒）

〒251-0032 神奈川県藤沢市片瀬2-15-36
電話　0466(27)1511(代)　FAX　0466(28)0882

交通ご案内
●電車……江ノ電鵠沼駅下車徒歩６分。
●バス……藤沢駅南口より 江ノ島バス 新屋敷バス停下車１分。

てんぷらの老舗

木挽町 天國

株式会社 甲斐國
代表取締役　剣持甲斐太郎（昭和31年卒）
新宿高島屋レストランパーク14階
TEL 03-5361-1875

HARD OFF　OFF HOUSE

ハードオフ・オフハウスFC加盟店運営会社
株式会社 京葉マツヤデンキ

代表取締役 **青柳守彦**
（昭和31年卒）

本部／〒272-0823　千葉県市川市東菅野2-19-22　TEL. 047-325-7571　FAX. 047-325-7572

ハードオフ
柏豊四季店／〒277-0863　柏市豊四季224-6　TEL. 04-7147-7188　FAX. 04-7146-0530
市川大野店／〒272-0804　市川市南大野1-14-10　TEL. 047-303-5586　FAX. 047-303-5587

オフハウス
柏豊四季店／〒277-0863　柏市豊四季224-6　TEL. 04-7144-2384　FAX. 04-7146-0530

医療法人社団　孝和会　介護老人保健施設
能見台パートリア

案内図

名誉会長 **柳澤和孝**（昭和31年卒）
理事長兼施設長 **柳澤和裕**
事務長 **佐々木隆行**

●交通案内：京浜急行能見台駅より徒歩8分
（車）横浜横須賀道路　釜利谷JCTより
並木方面へ堀口能見台出口下車1分

〒236-0058
横浜市金沢区能見台東 10-1
Tel. 045-790-5733
Fax.045-790-5737

Gallery Fuerte
Shimomaruko Gasubashi-dori

ギャラリー・フェルテ

代表：西村幸頼
顧問：岩本福喜
（昭和 31 年卒）

日本画・洋画・工芸品・ハンドクラフト雑貨
アートに関するご相談(作品売却・コーディネート等)

福井江太郎「慕」4号

TEL/FAX 03(6715)5535
MAIL info@g-fuerte.com
HP www.g-fuerte.com

カーサ・フェルテ

〒146-0092
東京都大田区下丸子3-27-15

101　ギャラリー・フェルテ(画廊)
102　花島歯科
103　お菓子と結び(洋菓子店)
201～206　ワンルーム賃貸

部活に夢中

教室に行かない日はあっても部活に出ない日はなかった…
そんな思い出をもっている同窓生もいるでしょう。高校時代の多くの時間を先輩、後輩、同学年の仲間と過ごし、強い絆を育んだ場所、部活動。今の一高生も熱心に打ち込んでいます。
令和３年度は、弓道部が女子団体でインターハイ決勝トーナメントに進出したこと、野球部が選抜高校野球大会における「21世紀枠」山梨県推薦校に選出されたことなどが話題となった年でした。
また、令和４年７月31日から東京都で開かれる全国高等学校総合文化祭には、一高から県下最多の８部門（吹奏楽部、ア・カペラ部、美術部、書道部、写真部、文学部、放送部、箏曲部）の出場が決定しています。「文化部のインターハイ」とも呼ばれる晴れ舞台。全国の仲間たちと交流を深め、切磋琢磨できる貴重な機会で日頃の活動の成果を存分に発揮してほしいです。
一高の44の部活動の中から、今回は５つの運動部と９つの文化部を取り上げて、活動の一端をご紹介します。

Kyudo 弓道部

弓道部では、技術と個人の人格を磨き、全国に通じる人づくり・集団づくりを目的として、日々活動しています。また、自分たちで部を運営することを通して、先を読む力や行動力など、将来重要となる能力を身につけることを大切にしています。部員たちは、毎日切磋琢磨して練習に励んでいます。

今年度は、新潟県でのインターハイや茨城県での全国選抜大会、東京都での関東個人選手権選抜大会に出場することができました。インターハイ女子団体出場は37年ぶり4回目、新人戦女子団体優勝は49年ぶり2度目で、全国選抜出場は初出場でした。インターハイでは、予選を突破して決勝トーナメントに進出することができました。決勝トーナメント1回戦では、予選2位通過の学校とあたってしまい、惜しくも敗退してしまいました。選抜大会は残念ながらあと1本というところで決勝トーナメント進出はなりませんでした。そして、関東個人では出場した女子3名のうち1名が準決勝進出を果たしました。

新型コロナウイルスの影響もあり、部活動の制限を余儀なくされる中で、このような大会に出られたことは今後につながる大きな経験になったと思います。また、先生方や保護者の皆様のご協力がなければこのような結果が残せなかったと思います。大きな大会に出られることを含め、多大なる協力や応援に感謝しかありません。

今後も、良い結果が残せるように精進していきたいと思います。

弓道部部長　西川絢野

Karate 空手部

空手部は、現在二年生一名、一年生四名で活動しています。人数が少ないため、他校と比べて練習できる内容は限られています。しかし、少人数だからこそできる一人一人の課題の改善に適した練習や体力強化のためのランニングや筋力トレーニングなどに日々取り組んでいます。また、私たちは主体的に考え、効率良く練習をすることを意識しています。

今年度は昨年度に比べ、猛威を奮っていた新型コロナウイルス感染症の影響も若干収まり、県総体をはじめとした多くの大会に参加することができました。それらの中でも特に強く印象に残っていることは、六月に男女共に団体形・組手で千葉県での関東大会に、八月に男女個人形で富山県でのインターハイに出場することができたことです。一高空手部の男女インターハイ出場は約十年ぶりとのことで、これを聞いた時は本当に嬉しかったです。大会では甲府一高、山梨県の代表としての誇りと自覚を胸に、正々堂々と勝負に挑むことができました。また、県外の強豪校の選手と同じ舞台に立ち、戦った経験は、自分たちの気持ちも技術も向上させることができ、部として大きく成長できたように感じます。そして同時に、コロナ禍で大会に出場できることへの有り難さや沢山の応援して下さる方々の存在を改めて実感しました。

来年度も今年度の経験を活かし、周りへの感謝を忘れずに、さらなる高みを目指して精一杯頑張っていきたいと思います。よろしくお願いします。

髙野英莉

Baseball 野球部

「21世紀枠 山梨県代表選出報告」

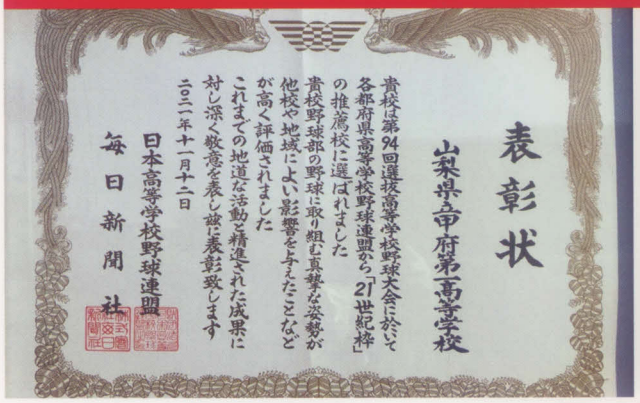
２０２１年11月９日、第94回選抜高等学校野球大会の21世紀枠山梨県代表選考会議が行われ、本校野球部が選出された。平成14年、16年に続く３度目の選出であった。困難な環境の克服、文武両道、強豪校との対戦による惜敗、創意工夫した練習、この４つを評価していただいた結果である。

グラウンドバックネットには「心はひとつ甲子園」という看板を掲げている。それに恥じないようなチームづくり、大会結果を目標に日々練習に励んでいる。短い練習時間のなか無駄を省き、必要性の高い練習の選択を実践し結果へ繋げる取り組みを続けている。

残念ながら21世紀枠としての関東代表選出には至らず、甲子園は夢で終わってしまった。しかし半世紀に渡り遠のいている甲子園再挑戦への大きな一歩であったことは間違いない。日々の取り組みを評価していただいたことは、ナインの大きな励みとなっている。またそのプライドを持ち、様々な場面で行動する責任も身に付いた。

平成14年、16年に選出されたチームにはまだ遠く及ばないが、今回の結果で少しでも支えてくださった方々へ感謝の気持ちを表すことができていれば幸いである。これに満足することなく皆様にもっとよい報告ができるよう取り組んでまいります。

野球部顧問　小田切孝之


表彰状

山梨県甲府第一高等学校

貴校は第94回選抜高等学校野球大会において各都府県高等学校野球連盟から「21世紀枠」の推薦校に選ばれました

貴校野球部の野球に取り組む真摯な姿勢が他校や地域によい影響を与えたことなどが高く評価されました

これまでの地道な活動と精進された成果に対し深く敬意を表し彼に表彰致します

二〇二一年十一月十二日

日本高等学校野球連盟

毎日新聞社

Archery アーチェリー部

日ごろ同窓会の皆様には、外部練習場使用料の補助、大会派遣費の補助等様々な形でご支援いただき非常に感謝しております。

現在アーチェリー部は男子２名、女子３名の計５名で活動をしています。もっと部員数を増やして活動を行いたいところですが、生徒数が全体的に減ってきていることや練習場が校内に無く生徒の目に触れる機会が少ないこと、道具が高額といった状況もあり、なかなか部員数を増やすのが難しい状況にあります。

練習は緑が丘スポーツ公園内の施設で行っており、今は東海大甲府高校、甲府城西高校にもアーチェリー部があるため、そこの生徒とともに練習を行っております。人数は少ないですが緊張感を持ちながらお互いに切磋琢磨し合い、どの学校の生徒も目を外に向け関東、全国の舞台等、県外の大会で活躍できるよう、日々努力を重ねております。

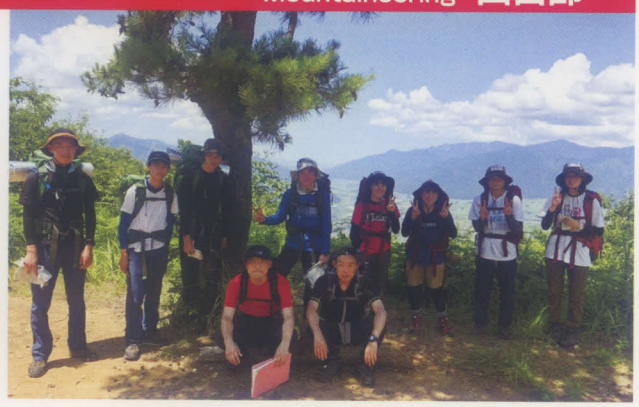
昨年度はインターハイにおいて個人36位、関東大会において個人９位の成果を上げる生徒が出ましたが、団体としては成果を上げることが出来ませんでした。

今後は部員を確保するとともに部全体の実力を上げ、団体としても結果を残し、同窓会の皆様に恩返しができるようよう取り組んでいきたいと思います。

今後とも引き続きご支援をいただけますようよろしくお願いいたします。

顧問　花輪秀剛

Mountaineering 山岳部



山岳部は、安全に登山を行うために必要な知識や技術を習得することを目的として、読図や気象知識などの学科に加え、日々体力トレーニングや炊事、幕営技術の練習に励んでいます。また、本校山岳部OB・OGにより構成される鶴城山岳会の先輩方との登山合宿を定期的に実施し、実践力の向上に努めています。

その成果もあり、令和3年度山梨県総合体育大会では、男子は初優勝、女子は9大会連続優勝を果たし全国大会への出場権を獲得しました。しかしながら、新型コロナウイルスの影響により狭い登山道における登山活動や、テントを張り炊事を行うなど山岳部本来の活動は大きく制限されてきました。「仲間と同じ苦労を経験し、同じ壮大な景色を眺め、自然の雄大さの中で「自分」という存在を知る」という山岳部本来の目標達成には程遠い活動となってしまいました。その中での、総合体育大会における結果は私たちにとってこれからの活動に対するモチベーションを維持する希望の光となったのは間違いありません。

まだまだ、通常の活動を行うことは難しいかもしれません。それでも、勉強や部活動が出来ることへの感謝の気持ちと、これまでの先輩方が築いてきた伝統を紡いでいく一員としての自覚をもち、これからも努力を重ねたいと思います。

Koto 箏曲部

私達箏曲部は2年生1名、1年生4名の計5名（令和3年度）で活動しています。全員初心者ではありますが、それぞれが積極的に意見を出し合い、試行錯誤しながら日々練習に励んでいます。

私達5名全員が芸文祭初出場だったため、早くから芸文祭に向けた練習に取り組み始めました。多くの時間を練習や綿密な話し合いに費やして全員が一致団結したからこそ掴み取れた「芸術文化祭賞」だと思います。

総文祭に出場するにあたっての私達の抱負は、山梨県代表という自覚をもって練習に励んで技術を向上させ、本番に悔いのない、よりよい演奏をすることです。これからも妥協することなく、頑張っていきたいと思います。

箏曲部部長　松木友佳

箏曲部の顧問となり、早2年が過ぎました。伝統ある甲府第一高校の伝統ある箏曲部、ということで身の引き締まる思いがしたのを思い出します。生徒たちは、外部指導者の内田美幸先生のもと、非常に熱心に練習に取り組み、初心者・経験者を問わず、確かな技術を身につけていました。

そして、現在は部員が5名となってしまい、生徒たちはその少ない人数の中でできる限りの努力を重ね、これまでの伝統を引き継ぎ、次世代へつなげようとしています。そのうちの一つが、令和3年度の芸術文化祭賞受賞と総文祭出場権獲得です。どうしても受賞を逃すわけにはいかない、というプレッシャーに押しつぶされそうになりながらも、精いっぱい頑張りました。

夏の総文祭でも力を発揮できるようこれからも練習に励んでいきます。

箏曲部顧問　森岡博美

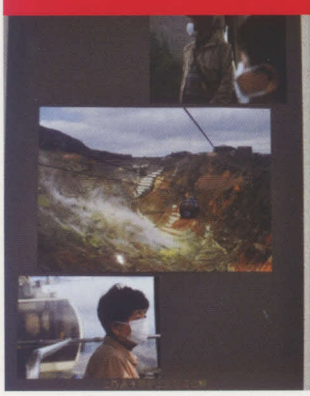
A cappella　ア・カペラ部

ア・カペラ部は「No Smile No Music, No Music No life」というテーマのもと、コンクールやイベントに向け個性あふれるメンバーが音楽活動に精進している部活動です。２０１３年に部活動になり、今年で10年の節目を迎えます。創立１４０周年を迎えた甲府一高の中では、新しい部活動であると思いますが、ア・カペラ部はとても熱量があります。練習は県のガイドラインに則り行いながら、以前は毎週のように県内の様々な地域のイベントや、介護福祉施設、商店街等で歌わせていただいてきました。コロナ禍前に甲府刑務所で歌わせていただいた経験やホテルのロビーでコンサートをした体験は、先輩方から後輩に伝えられています。また、毎年3月には定期演奏会を開催し、ミュージカルやコンクール曲、マイクを使ったア・カペラ曲を披露し、活動を支えてくださっている方々に感謝する場を設けています。OB・OGとの交流ステージもあるため世代を超えて仲が良く、先輩方は現役生の活動を後押ししてくださいます。さらに、以上の活動と毎年行われる各種の合唱コンクールでは、これまで数々の賞を受賞してきました。

昨年行われた山梨県芸術文化祭でも芸術文化祭賞をいただき、令和4年に行われる全国高校総合文化祭への出場権を獲得しました。また先日行われた山梨ヴォーカルアンサンブルコンテストでは、1位の金賞をいただき、関東大会にも出場します。これからもさらに歌に磨きをかけ、支えてくださっている方々への感謝の気持ちを胸に、誇りをもって私達らしいハーモニーを届けたいと思います。これからも仲間と共に切磋琢磨し、たくさんの方々に笑顔と感動を与えられるような音楽を目指し頑張っていきたいと思います。

ア・カペラ部部長　長沼穂

Photo　写真部



デジタルカメラの普及により、誰でも簡単に写真を撮れるようになり、写真部の部員も30名を超えました。先輩から後輩へ撮影技術を伝授できるようになったり、部員同士で撮影に出かけたり、積極的に活動しています。

コロナ禍では学校行事も減ってしまい撮影機会に恵まれませんでしたが、部員は生活の中で被写体を見つけ撮影に取り組みました。

令和3年の夏、3年の渡邉聡君が全国総文祭和歌山大会に出品、3年の竹内怜生君が関東大会に出品し審査員特別賞をいただきました。

また令和4年度には全国総文祭東京大会に3年山本沙枝さんと2年の中澤美結さんの2名が出品します。2年連続全国大会出品は一高写真部の歴史の中でも快挙と言えます。また各時期の県の審査会でも、ここ2年は毎回団体2位～5位に入賞し続け、層の厚さを評価していただいています。

一高写真部の部員は、自分の撮りたい物を自由に撮るという校風があり、高校生らしい規格に囚われない写真がよく見られます。なるべく「人」を撮るように呼び掛け合い、高校生にしか撮れない写真を撮ることを目標としています。豊かな感性を持つ生徒が多く、写真をプリントして互いに評価し合う時間も楽しいものとなっています。校内の至る所に写真が展示され、部員の励みにもなっています。これからも写真を通じて感性を磨いていきます。

顧問　安達栄子

Art 美術部

甲府第一高校美術部では、主に平日の朝練と放課後練を軸とした活動を行っています。朝練では7時35分からデッサンを中心に技術力を高め、放課後練ではそれを生かし、コンクール等に向けての作品制作を行っています。油絵などの平面作品だけでなく、身の回りにある素材を生かした立体作品や目に飛び込んでくるような感覚の半立体作品などにも挑戦するなど、個性を生かせる形を探しています。

また、作品の制作にとどまらず、「甲府第一美術館」として、校舎の廊下や階段等に部員の作品を展示させていただいています。展示の作業を通し、作品を大切に扱う心構えを学んでいます。また、展示を見た人が感想を言ってくださることが作品制作の励みになっています。

これらの活動を日々行い、各種コンクールでは受賞を重ね、県芸術文化祭では13年連続芸術文化祭賞、14年連続全国大会出場を果たすことできました。これらもすべて部員一人一人が真剣に絵と向きあったことと、顧問の石田先生の熱意あるご指導のおかげです。

総文祭は、全国の高校生のハイレベルな作品を生で見ることができる貴重な機会だと思っています。私は前回の総文祭和歌山大会にも出場させていただいたのですが、そこで見たレベルの高い作品群に圧倒され、今回の県芸祭などの作品制作に向けて、気持ちをつくることができました。今年の総文祭東京大会では、頂いた機会を大切に、経験すべてを作品に昇華させるような心構えで臨みたいです。

美術部　2年　堀田陽生

Literature 文学部

私たち文学部では、定期的に部会を開き、様々な大会やコンクールに出す作品に対して部員同士で互評を行っています。そのおかげもあってか、ここ数年の山梨県高等学校芸術文化祭では、最高賞である芸術文化祭賞や優秀賞を受賞しており、全国高等学校総合文化祭への出場も果たしています。また、毎年一高祭では、部誌を作成して販売しており、昨年は前売りだけで完売してしまいました。そのほかに、個人でもそれぞれ好きなジャンルに挑戦し、日々創作に励んでいます。

私も昨年度の山梨県芸術文化祭・詩部門で優秀賞をいただき、全国高等学校総合文化祭東京大会に出場できることになりました。全国総文祭では、多くの作品に触れ、自分の中の新たな作品の材料としたいです。また、自分が得意とする詩だけでなく、散文などの他部門の作品からも創作のヒントを見つけてきたいと思います。

私が普段作品を作る際に意識していることは、日常の何気ないシーンや感情の揺れなど、誰もが一度は体験したことがある心情や物事を中心に言葉を綴るということです。私は、日々の生活を送る中で、自分が触れた言葉やふとした瞬間に思い付いた言葉を、作品を作る時のキーワードとしてメモ帳に書き残すようにしています。また、作詩専用のノートに自分が感じた思いを率直に書き出しています。そして、自分の心の中に溜まった感情の渦を思うままに書いた作品を、日を改めて自分自身で推敲することで、またその作品から生まれてくる「詞」を大切にして、創作活動をしています。

これからも自分自身の中にある感性を大切にし、発想力豊かに日々の創作活動に励んでいきたいと思います。

文学部　2年　小野莉水

Brass band　應援團吹奏楽部

私達、應援團吹奏楽部は今年度も新型コロナウイルスによる活動自粛や演奏機会の減少に活動を妨げられながらも、過去の先輩方が積み重ねた成果と部訓の「向上心」を胸に、自分達の能力や個性を最大限に発揮させようと日々励んで参りました。

4月には1年生部員19名を迎え入れ、5月に2年ぶりに一般のお客様に演奏を聞いて頂くことが出来た第62回定期演奏会の開催から今年度の活動はスタートしました。6月には1、2年生のみで、初の本番である一高祭での発表や、7月には吹奏楽コンクール山梨県大会において銀賞受賞、甲府西高校吹奏楽部さんとの合同練習など、イベントや大会を経験する度に、当初感じていた活動への不安や部活動運営上の不甲斐なさは、自信と希望へと変わっていきました。しかし、その矢先に猛威を振るったのが新型コロナウイルスです。活動の停止と縮小は2ヶ月程続き、明日へと進もうと一致団結していた私達を散り散りにしてしまうようなものでした。そんな中でも活動内容に工夫を重ね、迎えた10月の芸術文化祭では、委嘱作品である「エスターテ～蒼穹の風」を演奏し、芸術文化祭賞ならびに、2022年8月に開催される、全国高等学校総合文化祭（とうきょう総文2022）への推薦を8年ぶりに頂くことが出来ました。その後もFM甲府さんのラジオ番組への出演や、1月の山梨県吹奏楽コンクール新人戦銀賞受賞など、例年よりは少ない本番の機会でしたが、一つ一つの機会を大事に活動して参りました。

総文祭に出場する際には、私達の活動を日々支えてくださっている全ての方々に感謝して、山梨県代表として堂々と演奏し、会場のみなさんと楽しいを時間を過ごしたいと思っています。また、今後の活動の参考になるような実りのある機会になることを願って日々練習して参ります。今後とも私達、應援團吹奏楽部への応援の程よろしくお願い致します。

部長　有井啓悟

Broadcasting　放送部

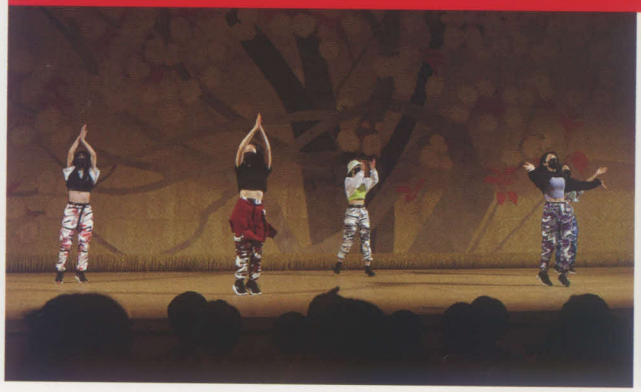
甲府一高放送部は、現在1年生5名、2年生6名、3年生4名が所属しています。兼部の部員も多いですが、和気あいあいと楽しく活動しています

主な活動は学校行事の撮影のほか、年3回行われる県大会のコンテストに向けて番組制作やアナウンス、朗読に取り組んでいます。平成3年度は8月に和歌山県で行われた全国総文祭へビデオメッセージ部門と朗読部門が出場しました。また、今年1月に行われた関東放送コンクールでは、録音したデータでの審査でしたが、朗読部門で優良賞に入賞することができました。さらに、今年の夏、東京で行われる全国総文祭へ昨年に引き続き、ビデオメッセージ部門で出場することが決まっています。全国の大会で発表することができるのはとてもうれしいことです。

学校内での活動は地味な活動であまり表に出ることがありません。それでも最近は、学校行事のオンライン配信が増え、機材接続の手伝いや撮影を担当しています。学校外でも、地元の放送局YBSラジオへの出演やテレビ山梨企画の高校生CM作りにも挑戦しました。少しずつですが、認知されてきているように感じています。

目下の願いは、早くコロナが収束し部活動が通常どおりできることと、番組制作のための編集パソコンが古いため、壊れずに働いてくれること。そして、甲府一高の放送部が今後も途絶えることなく、活動できることです。コロナ禍の状況で思うように部活動ができないのですが、次の大会に向け少しずつ頑張っています。

Dance ダンス部



ダンスは体育の授業にも取り入れられるようになり、注目が集まっています。最初は同好会から始まり、先輩方のおかげでダンス部ができて、今私たちが活動できています。

部活動では、コロナの影響で時間がかなり限られてしまいました。また、目指していた大会が中止になったり、数々のイベントも延期や縮小、または中止になったりしてしまいました。モチベーションを保つためにとても大変でしたが、家でできることを一人ひとりがしっかりとやることで、集まってできる短い時間の部活動を充実させてきました。個々に憧れのアーティストやダンサーの動画を見ながら日々研究し、努力しています。

ダンスの構成は、部員全員で意見を言い合って作品を作ります。いろいろと試行錯誤してようやく完成したときの達成感はとても大きいです。特に学園祭でのダンスは、曲の雰囲気やメッセージ性を自分たちなりに解釈し、衣装や小道具も工夫しました。また、曲を編集してみんなが知っている曲を効果的に使うことも考えて作っています。

これからコロナが収まり、活動ができるようになってくるときのために、基礎練習をしっかり行い、大会やイベントに参加できる喜びを爆発させられるようなダンスをみんなに見てもらいたいと思います。そしてこれからもずっと感謝の気持ちをもって活動し、ダンス部を後輩たちに残していけるように努力していこうと思っています。

Calligraphy 書道部

私たち書道部は現在、2年生6名、1年生10名で活動しています。学園祭での書道パフォーマンスや展示、芸術文化祭などの各種展覧会への出品に向けて日々、練習に励んでいます。

学園祭での書道パフォーマンスは3年生の最後の活動・発表の場です。一昨年度は新型コロナウイルス感染症のため学園祭が中止となってしまいましたが、昨年度は学園祭が実施されて、3年生の先輩方と思い出に残るパフォーマンスを創り上げることができました。2年生にとっても初めてのパフォーマンスで苦労することもありましたが、先輩方が工夫を凝らしたものを考え、的確に指示してくださったおかげで成功させることができました。

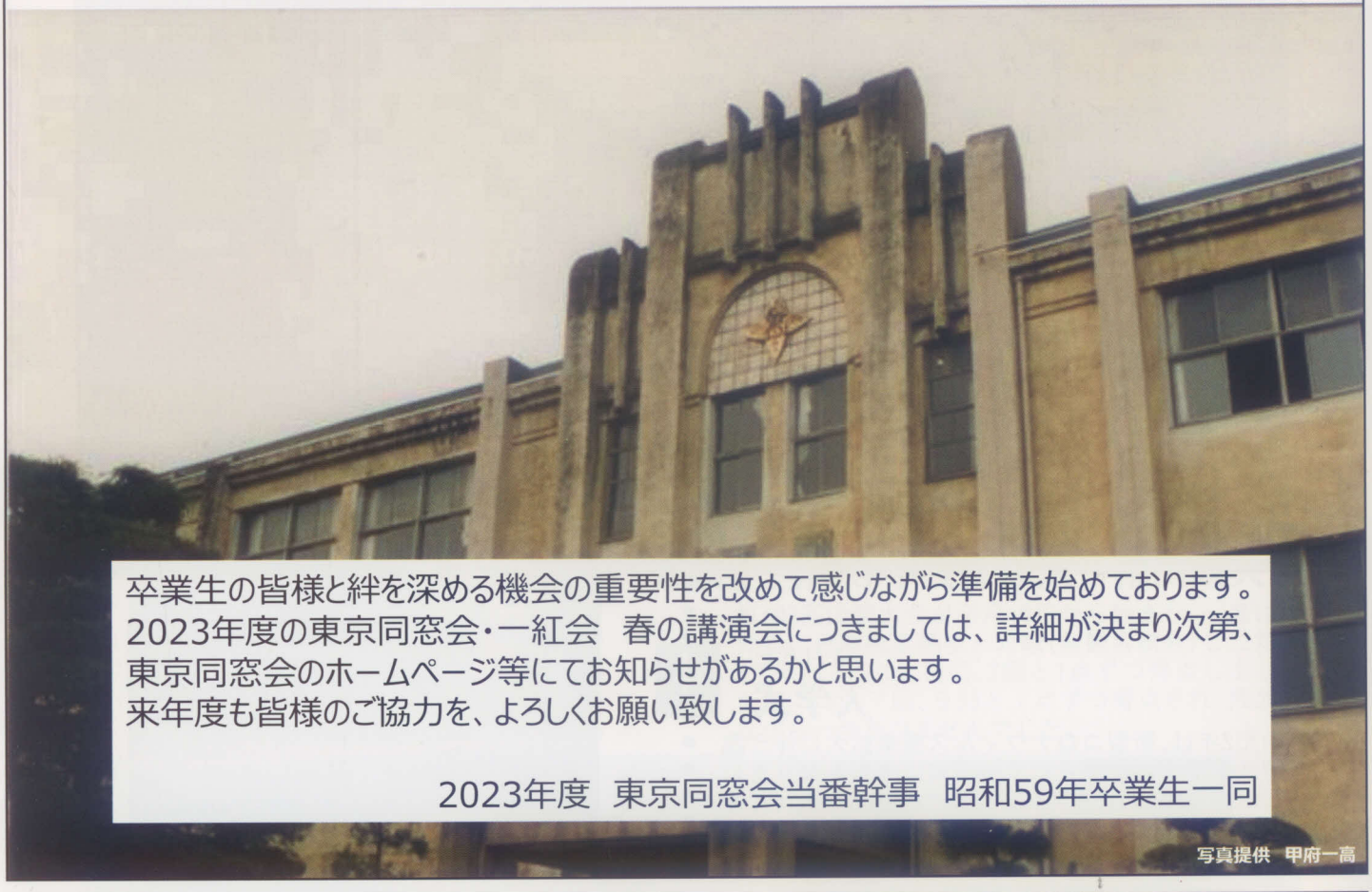
また作品制作では、それぞれが納得のいくまで試行錯誤を繰り返し、多くの時間をかけて一つの作品を仕上げていきます。納得のいく作品がなかなか完成せず、行き詰まることもありますが、仲間と励まし合いながら取り組むことの大切さを学びました。

令和3年8月には全国総文祭和歌山大会に3年の生原志歩さんの作品が出品されました。山梨県芸術文化祭では2年の駒田彩乃さんの作品『臨小島切』が芸術文化祭賞3点のうちに選ばれました。駒田さんは、非常に繊細な線で書かれた美しい仮名文字の作品を何日もかけて完成させました。令和4年度の全国総文祭東京大会に出品されることを部員全員が誇りに思っています。

これからも支えてくださる方々への感謝の気持ちを忘れずに、一人でも多くの人の心に残るような作品を作り続けていきたいと思います。

部長　熊谷綾奈

祝　第62回(2022年度)甲府中学・甲府一高東京同窓会



卒業生の皆様と絆を深める機会の重要性を改めて感じながら準備を始めております。
2023年度の東京同窓会・一紅会　春の講演会につきましては、詳細が決まり次第、
東京同窓会のホームページ等にてお知らせがあるかと思います。
来年度も皆様のご協力を、よろしくお願い致します。

2023年度　東京同窓会当番幹事　昭和59年卒業生一同

写真提供　甲府一高

CMIC
Pharmaceutical Value Creator

ヘルスケア分野の革新を目指し
挑戦を続けます

シミックホールディングス株式会社
代表取締役 CEO　中村 和男（昭和40年卒）

2020年6月開業 甲府駅南口から徒歩1分

城のホテル
Shironohotel Kofu

甲府の街を一望する露天風呂と
山梨の伝統文化でお出迎え

〒400-0031 山梨県甲府市丸の内1-4-18
055-233-7110

株式会社 内藤ハウス
専務取締役　飯島 登美夫（昭和45年卒）

一高の一年

2021年4月－2022年3月

4月8日

入学式

令和2年は、新型コロナウィルス感染拡大に伴う臨時休校期間が延長される中で式は中止となりましたが、令和3年は入学式が行われ、普通科182名、探究科56名の合計238名が本校の門をくぐりました。

4月15日

応援練習

昨年は行えなかった応援練習ですが、今年は生徒会の生徒を中心とした上級生の指導の下、新入生は校歌や応援歌、手拍子など真剣に取り組みました。今年は、体育館およびグラウンドで行いました。

5月3日

吹奏楽部定期演奏会

コロナ対策で、観客人数の上限を定員の半分としましたが、YCC県民文化ホールの大ホールで、2年ぶりに有観客で演奏会を行いました。

5月12日～14日

山梨県高校総合体育大会

山梨県下各会場で熱戦が繰り広げられました。学校対抗得点では、男子は12点で総合順位は11位、女子は総合得点4点で19位でした。登山が男女とも優勝しました。

5月29日

同窓会定期総会

同窓会奨学生の2年生5名，3年生4名に、定期総会の中でそれぞれ12万円の奨学金が授与され、代表者が、御礼と決意の言葉を述べました。

6月

6月20日～22日

一高祭

令和2年は中止になった一高祭ですが、令和3年は実施することができました。1日目は、学校で、クラス企画、文化局展示等を行いました。2日目はYCC県民文化ホールで、壮行会の後、文化局発表、午後は学年ごとにクラス発表を行いました。3日目は、グラウンドで、借り人競争、背中渡り、リレーなどを行いました。

6月27日

ア・カペラ部定期演奏会

YCC県民文化ホールの小ホールで、ジブリソングをメドレーにした演出をメインに、またリモート映像とリアルのステージをコラボにした定期演奏会を行いました。

7月

7月12日

全国高等学校野球選手権山梨大会

第103回山梨大会が7月10日から始まり、一高は12日に日本航空高校と対戦（無観客試合）し、2対3で敗れました。初回、2回と1点ずつ得点しましたが、3回、7回、9回と1点ずつ得点され、残念ながら一歩及びませんでした。

7月21日

同窓会奨学生1年生授与式

令和3年度から、新たに1年生5人にも奨学金が授与されることになり、2、3年生と同様一人12万円が授与されました。同窓会の皆様のおかげで、一高同窓会奨学金もますます充実してきました。

9月

9月18日

一探未来フォーラム

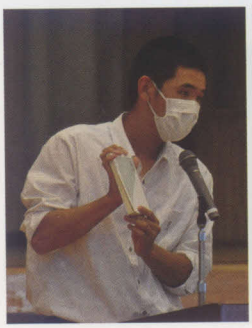
探究科1、2年生を対象として、アドバイザー講師として、小林是綱様（NPO法人地域資料デジタル化研究会理事長、S38卒）と中村和彦様（山梨大学副学長、S53卒）をお迎えして実施しました。「ポストコロナ時代に生きる私たちの未来」を主題に、活発な討議が行われました。

10月

10月2日

強行遠足

予定していた強行遠足は中止になりました。令和2年同様、県内1日コースで計画をしていましたが、新型コロナウィルスの感染拡大防止を講ずる中で、残念ながら中止となりました。3年生は、男子は小諸、女子は小海までのコースの強行遠足を経験せずに卒業することになりました。



10月8日・15日

新書スピーチ

普通科総合的な探究の時間では、3年間新書の読書を中心に探究活動を行っています。新書スピーチは、1・2年次に1度ずつ、自分が読んだ新書について、全員がその内容や自分の意見などを文章にまとめ、原稿を見ずに発表するものです。

10月

10月16日

イングリッシュプレゼンテーション実践セミナー

県内から招へいしたALT(Asssistant Language Teacher)に対して、探究科の2年生が英語でプレゼンテーションを行いました。
その後、ネイティブスピーカーであるALTから実質的なアドバイスを受けることで、プレゼンテーション力の充実を図りました。

11月

山梨県高等学校芸術文化祭

第42回山梨県高等学校芸術文化祭が開催され、令和4年の夏、東京で行われる全国総合文化祭に、吹奏楽部、ア・カペラ部、美術部、書道部、写真部、文学部、放送部、箏曲部が出場することになりました。

11月19日

LGBT講演会

女装パフォーマーのブルボンヌさんを講師に招き、LGBT講演会が行われました。
ブルボンヌさんは「自分らしさが社会を変える」をテーマに、他者との違いを受け入れることが大切であること、ありのままの自分でよいことを生徒に伝えてくれました。

12月

12月8日～10日

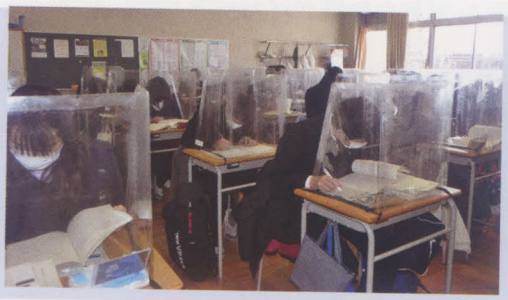
研修旅行（普通科・探究科）

普通科・探究科とも、三重・和歌山方面へ2泊3日の研修旅行に出かけました。
2年前までは、行き先が普通科は沖縄、探究科は海外でしたが、昨年から新型コロナウィルスの影響を受け、普通科・探究科とも研修旅行先が変更になりました。

12月24日

崎田哲教頭先生を偲ぶ会

9月13日に亡くなられた、崎田哲教頭先生(S60卒)を偲ぶ会が視聴覚室で行われました。
学校長挨拶の後、同窓会顧問 大西勉先生、県教育委員会事務局 権太正弘先生、生徒会長 木戸虎太郎君が追悼の言葉を述べました。



1月

1月17日

共通テスト自己採点

3年生は、1月15、16日に行われた令和4年度大学入学共通テストの自己採点を行いました。
理科系科目を中心に昨年より平均点が下がる科目が多く、生徒は厳しい表情で自己採点に臨んでいました。

2月

2月28日

同窓会入会式・表彰式

同窓会入会式・表彰式とも視聴覚室で行い、3年生は教室でリモート参加、1・2年生は自宅でリモート参加しました。
来賓の臨席はなく、同窓会入会式での同窓会長のあいさつは、ビデオメッセージで行われました。

3月

3月1日

卒業式

普通科187名、探究科65名、合計252名が卒業しました。来賓の臨席はなく、PTA会長の祝辞も印刷をして配付しました。コロナ禍での高校生活は、思うようにいかないこともたくさんありましたが、将来へ希望をもって巣立っていきました。

3月19日

山梨ブランドサミット

1、2年生および3年生の該当の探究科の生徒が探究成果を発表しました。
視聴覚室や百周年記念館、1年生から3年生までの教室を使用し、分散会場でリモート配信も利用しての発表会でした。2年生の英語プレゼンテーションの班には、県内ALTの講評もあり、さらに充実しました。

同窓会奨学金給付制度

一高の一年のなかでも紹介がありましたように、同窓会より奨学金を給付し、生徒の皆さんの夢の実現を後押ししています。令和3年度奨学生の話を聞きました（学年は令和3年度のものです）。

探究科　1年　堀内　美佑

この度は、「同窓会奨学金」の奨学生に選んでいただきありがとうございました。今年度から新入生5名も対象としていただき、入学早々のご支援に深く感謝し、大きな励みとなりました。

中学3年生の時、新たにこのような制度ができることを知り、まさか自分が対象者になるとは思ってもみなかったので、選ばれた時は嬉しさと共に身が引き締まる思いでした。授賞式の後、母校の中学校を訪れ、お世話になった先生方に報告させていただきました。先生方も大変喜んでくださり、3年間ご指導いただいたことに改めて感謝の気持ちでいっぱいになりました。

今はコロナ禍で分散登校のため、なかなかクラス全員が揃うことがなく、部活動や様々な行事も中止となり、本来の学校生活とはほど遠い毎日を過ごしております。目標を見失ってしまいがちですが、こんな時こそ今何をすべきかしっかりと考えていかなければならないと思っています。一高での学びの中で将来に繋がるものを得て、世の中に貢献出来る人間になりたいです。

まだまだ先の見えない毎日ですが、置かれた場所でしっかりと根を伸ばし、いつか大きな花が咲かせられるよう、日々精進して参ります。

探究科　2年　西川　絢野

私は、小学生の時から一級建築士になることを目指しています。きっかけは、祖父母の家の設計図を見たことでした。緻密に書かれた設計図を見てどうしたらこんなふうに建物を設計することができるのだろうかと、次第に興味を持つようになりました。また、両親に幼いころからいろいろな場所に旅行に連れてってもらうことが多く、たくさんの建築物を見させてもらう機会がありました。そのなかでも特に、光の美術館を見たときの衝撃は忘れられません。このときから、建築物と他ジャンルのつながりを生かした建築物を建てたいと思うようになりました。現在は、都市・建築デザイン学を学ぶことができるような大学に進学したいと考えています。

私にとって、今の甲府一高での学校生活はとても有意義です。部活動では弓道部に所属しています。部活動自体は忙しく大変ですが、毎日活動する中で、成長できるのがとても楽しいです。勉学においても、部活動との両立は大変ですが、分からないことや知らないことをなくしていくのが面白いです。今後は、部活との両立をしながらも、希望の大学に進学するためだけでなく、今後の人生に活かすためにも、勉学に励んで行こうと思います。

日新鐘に寄せて

一紅会会長
峯川文江

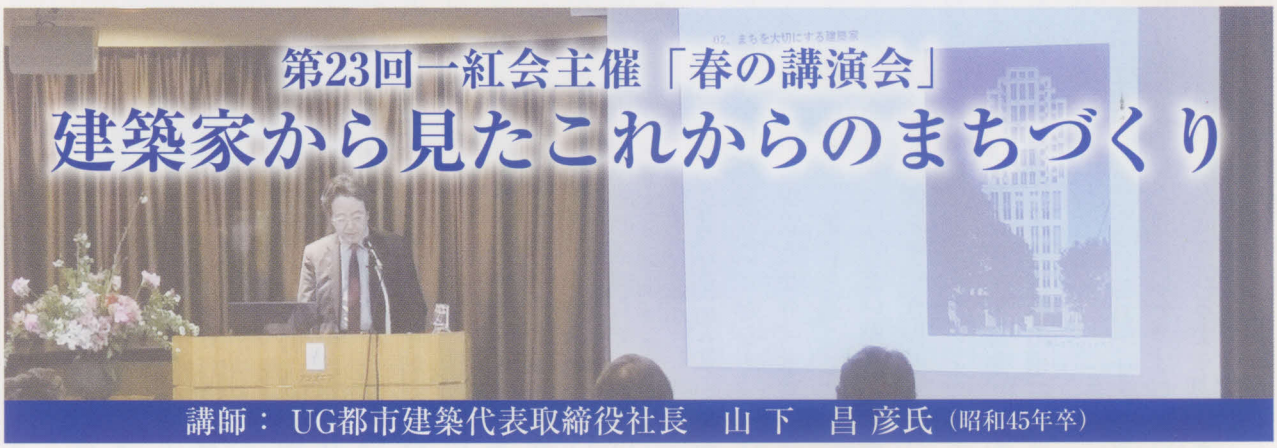
去る3月12日（土）二年越しで待っていた「第23回一紅会主催春の講演会」を、開催することができました。講師山下昌彦氏には、感謝の言葉しかありません。度重なる延期で、心も折れそうになっている主催者側の私達を、いつも温かな言葉で励ましてくださいました。心より感謝申し上げます。

今回は、２０１９年11月から幹事会も行っておりませんでしたので、昨年10月の東京同窓会にならい、一紅会も11月のＰＪ臨時会議で当番幹事を57年から58年に引継ぎ、そして、当日は最初に幹事会、終了後続いて講演会を行いました。感染対策上、参加者は各学年幹事1名とし、講演は講師の了解を得て録画撮りしました。講演会を楽しみにされていた同窓生には、一紅会ホームページに録画を掲載し、ご視聴頂くこととしました。

通常なら、一紅会は年3回の幹事会を経て、推薦された講師に講演を依頼し、講演会のチラシ作成、チラシ配布と、当番幹事を中心としたＰＪメンバーで準備し、講演会当日を迎えます。しかし、このコロナ禍の2年間は、幹事会も開けず、ＰＪメンバーが臨時会議で話し合うことしかできませんでした。

2年4か月振りの幹事会では「お久し振りです！」と会えた喜びに溢れました。「一高の同窓生の力は、他とは違うのよね。それは絆です。綿々と引き継がれている絆の力です」と言う先輩の言葉がズシリときました。コロナ禍の状況下にあっても活動できたのは、正に絆です。今年の同窓会のテーマ「未来first～絆という宝物を胸にがんばるじゃんけ～」は、この2年間を表すぴったりのテーマだと思いました。

「一紅会主催春の講演会」は、楽しみにされている同窓生の方々がいらっしゃるからこそ、長く続いていて、私達幹事も頑張れます。以前のように、講演会後の懇親会で更なる絆を深められるような日に戻れることを願いつつ……皆さまのご支援、ご協力を今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



第23回一紅会主催「春の講演会」

建築家から見たこれからのまちづくり

講師：UG都市建築代表取締役社長　山下　昌彦氏（昭和45年卒）

新型コロナウイルス感染症の影響で3回の延期を経て、ようやく3年ぶりに一紅会主催「第23回春の講演会」は、令和4年3月12日（土）プラザエフに於いて開催されました。

今回は、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、第75回一紅会幹事会終了後、幹事会参加者（各学年1名）のみ参加での開催となりました。

講師には、山下昌彦さんをお迎えし『建築家から見た　これからのまちづくり』というテーマでお話をしていただきました。山下さんは、１９７０年（昭和45年）甲府一高を卒業され、東京大学工学部建築学科に進み、１９７６年同大学大学院修士課程を修了。卒業後は、松田平田設計に在籍されたのち、ドイツのフォン・ゲルカン・マルク事務所を経て、１９８９年にＧＬ建築設計を設立。現在に至っては、ＵＧ都市建築の代表取締役に就任され、これまでに１００件ほどの建築プロジェクトに携わられています。みなとみらい線新高島駅や、大崎ウエストシティタワーズ、アクシア麻布など、また、地元山梨においては、山梨県防災新館、山梨県立図書館、山梨県庁内の公園化の設計、甲府駅南口駅前広場の修景などに携わられました。講演では、大型スクリーンに山下さんがこれまでに携わられた建築物の写真や、世界を旅して集められた写真、また、お気に入りの建物・風景・場所などが映し出され、その美しさと情景に魅了させられました。講演後には、参加された方々から「世界旅行をしているみたい」との感想もあったほどです。

◆まちを大切にする建築家

前半は山下さんの代表的な建築物の紹介から始まりました。デビュー作は千葉県御宿近くにある「外房デザインセンター（１９９４年）」で、特に思い出深い建物は「みなとみらい線新

高島駅（２００３年）」とお話がありました。同駅は、海をモチーフとしてデザインされ、地下５層の各階は、波や水流を表現し、訪れた人々が歩いて楽しい雰囲気を演出したそうです。

山下さんは、人をびっくりさせるような建物を造るつもりはなく「ひかえめで美しくて居心地の良い空間をつくること」を、モットーにしているとおっしゃっています。そして建築家として標榜していることは「まちを大切にすること」「散歩をすること」で、人が生き生きとしているまちを見ていると、ウキウキするとお話しされていました。

また、山下さんは、少年時代から散歩をするのが好きで、甲府の横沢通りや朝日町通りをよく歩き回っていたそうですが、大学院修士２年生の時に大きな転機があったとのお話がありました。大学院では原広司先生の研究室に入室されました。（原研究室の後輩には、国立競技場を設計された隈研吾さんがいらしたそうです。）原先生は、その後著名な建築家になられますが、当時はまだ若手で、世界中の集落調査をされており、山下さんは修士２年生（１９７５年）の時に、原先生の第３回東欧中近東集落調査に参加されました。総勢８名で３か月間休みなく、ドイツ・ポーランド・チェコスロバキア・ハンガリー・ルーマニア・ユーゴスラビア・トルコを渡って、イランの砂漠まで進みました。来る日も来る日も写真を撮ったり測量をしたりして調査を進めました。この経験が山下さんの大転機となり、散歩好きになった究めつけとおっしゃっていました。

大学院卒業後は松田平田設計に就職されますが、29歳の時に奥様とドイツに渡ります。ドイツでは、ヨーロッパ中のまちに出かけて行ってまち並みや建物・庭園を見て回ったそうです。帰国後は、自ら都市と建築のバランスや調和を重視した事業を行うために独立し、その後合併にてUG都市建築の代表取締役に就任されます。同社は都市計画と建築設計が両立する日本でも珍しい会社と山下さんはおっしゃっています。

◆山梨はどうしたらよいか？

講演は後半に進み、山梨はどうしたらよいか？という内容でお話をしていただき、山下さんは、山梨の観光について次のように提案されました。

いずれ新型コロナウイルス感染症が収まれば、インバウンドの方々が戻ってくるであろう。今迄は日帰りの観光客が多かったが、この方々を通過型観光から滞在型観光に変えなくてはならない。何日も滞在してその土地のおいしいものを食べてのんびりする農村観光や、まちに滞在して観光するアルベルゴディフューゾ（分散した宿）。後者は、ホテル機能が町中に分散しているという考え方で、お風呂はまちなかの銭湯を使い、食事はまちなかの居酒屋を使い、まちなか全体がホテルになっているという形態である。

そして、滞在型観光はリピーターになりやすく、リピートすると移住につながっていく。これからはマルチに拠点を構えていく時代になっていくので、例えば都市部と田舎町両方に住まいを持っていて、２か月おきに住み分けたり、夏と冬で住み分けたりと、滞在型観光はそのような住み方につながっていく。そう考えると、観光と滞在と住むことの間には垣根はなく、住宅もみんなのものだと捉えて、流動的に考える必要が出てくる。

山梨が進むべきことは、まちや農村を山梨県の人がもっと楽しく軽やかに住んで、山梨県外の人がもっと気楽に滞在ができ、入ったり出たりができる流動性のあるまちに整備しなおしていくことである。そして山梨らしい魅力を備えることも大変重要で、甲府の旧市街地には、馬刺しやワインが楽しめるレストランや、地場産業を生かせるジュエリーストリートがあってもよい。吉田や台ケ原も魅力的なまちになる可能性を秘めている、とお話しになりました。

最後に、山下さんがこれまでに訪れた都市の中からお気に入りの場所を紹介していただきました。イギリス、アメリカ、フランス、デンマーク、そして日本の伊勢や倉敷、どれも美しく魅力的で、新型コロナウイルス感染症が落ち着いた際はぜひ訪れたいまち並でした。

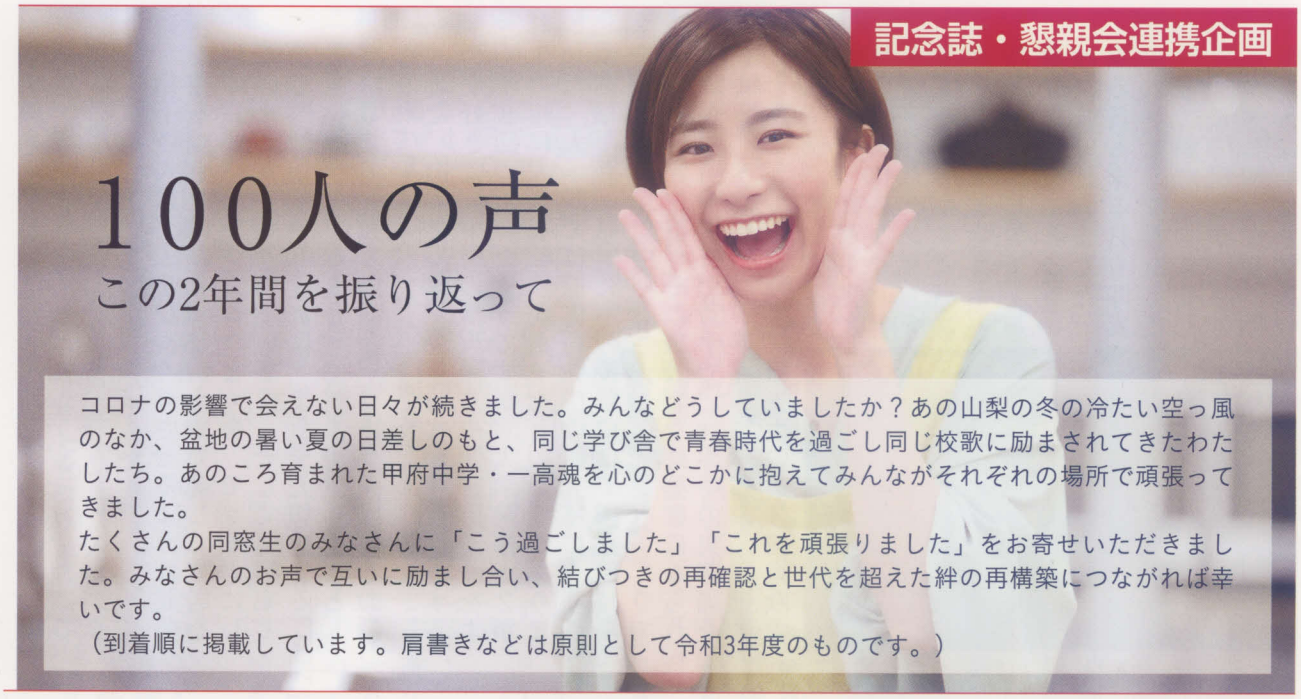
質疑応答では、３名の方の質問に山下さんが答えられ、講演会を終了いたしました。

今回の講演会の模様は録画され、東京同窓会と一紅会ホームページに掲載されています。どうぞご覧ください。

（昭和58年卒　宇津木吉美）

一紅会ホームページ　https://1kokai.kf1-tk.jp/20220312koenkai_movie.html

記念誌・懇親会連携企画



100人の声
この2年間を振り返って

コロナの影響で会えない日々が続きました。みんなどうしていましたか？あの山梨の冬の冷たい空っ風のなか、盆地の暑い夏の日差しのもと、同じ学び舎で青春時代を過ごし同じ校歌に励まされてきたわたしたち。あのころ育まれた甲府中学・一高魂を心のどこかに抱えてみんながそれぞれの場所で頑張ってきました。
たくさんの同窓生のみなさんに「こう過ごしました」「これを頑張りました」をお寄せいただきました。みなさんのお声で互いに励まし合い、結びつきの再確認と世代を超えた絆の再構築につながれば幸いです。
（到着順に掲載しています。肩書きなどは原則として令和3年度のものです。）

茂田　優作　平成25年卒

私は4年前に山梨県内の公立中学校の教員として採用され、現在は北杜市立小淵沢中学校で3年生の担任をしています。この2年間を振り返ると新型コロナウイルスに翻弄された年になりました。昨年度は甲府市立東中学校で3年生の担任をしていたため、受験や卒業式に向けて運営や準備が本当に大変でした。また、生徒たちもコロナ禍での生活にストレスがかかり、なかなか勉学に励むことができない生徒もいました。最終的にすべての生徒が無事に卒業することができ、心から安心したことを覚えています。現在は北杜市という新たな土地で、人生二度目の卒業生を送り出すために奮闘しています。特に山梨県外の受験を予定している生徒が何人もおり、高校とのやりとりや慣れない書類の作成に苦戦しているところです。3月無事に卒業式が挙式できるように、環境の整備と生徒の心のケアを大切にしていきたいと思います。

また、家庭においてもコロナ感染に注意しながら過ごす日々が続きました。仕事柄もしも感染したら多くの人に迷惑をおかけしてしまうため、手洗いうがい、手指消毒、外出自粛など、今の自分にできることをやり続けました。幸運なことに身近な人に陽性者も出ることなく過ごすことができましたが、報道を聞くたびに「明日は我が身だ」と言い聞かせています。

今後もコロナとの生活が続くと思いますが、今の教育現場でできることを最大限実施し、生徒の成長につなげていくために努力していきたいです。

金丸　和富　昭和51年卒

振り返ると、この2年間はコロナの影響で、自宅と勤務先・東京都健康長寿医療センターの行き来の繰り返しでした。

秋山　直哉　昭和59年卒

それまでは、これと言って、不自由なことも、不都合な事情もなく、日常を過ごしていました。唯一、あの震災直後の数日を除いては。

また、2年前は、半年くらい経てば、いつもの日常に戻れるものと、何の根拠も無く妄想して過ごしていました。それまでの日常に戻れる出口が見えないまま、改めて振り返ると、今まで当たり前にあったことのありがたさ、尊さを深く実感しております。

この投稿依頼をいただいたからという訳ではありませんが、今の中高2年生がコロナ禍の中高生の学生生活しか知らないというニュースを見聞きすると、平凡ながらも幸せだったと思える学生生活を想い出します。

幸い、仕事上では、早い段階からリモート勤務対応でき、業績的にも激しい落ち込みを回避することができています。医療従事されている方々、エッセンシャルワーカーの方々には敬意を表すことしかできません。定年退職までの年数を片手で数えられる年齢になり、その頃もまだコロナ禍かもしれない状況下、実家の家族の更なる高齢化もあり、どうあるべきか、どのように身を振舞うべきか、毎日のように考えますが、取り巻く周辺事情もあり、ハッキリした目標を立てたられるような特効薬が見つからないでおります。

猪股　利史　令和3年卒

この2年間を振り返って先を読むことを意識して生活することが大切になっていたと感じる。

世界的にみてもコロナの影響で今後を予測した行動が重要になってきているのは事実である。また個人的な経験として自分にとっても大学の勉強を高校生の頃からやったほうがいいと思い頑張っておこなったことが今では功を奏していて、現在大学の勉強をスムーズに取り組めている。

コロナは収束の目処はたってはいないが、コロナ同様、さまざまな出来事に対して先を見据えて考えることで生活が充実していくのではないかと思う。

（大学生　ヒューマンケア学部）

古屋　愛貴　昭和32年卒

今年83歳になりました。私の地域も少子高齢化が進んでいますし、又空き家も目立ち始めました。それに伴い地域のコミュニティが低下しています。

コロナ禍の影響もあると思いますが、最近は仲間

の集まりでも地域住民間の連帯感の希薄化が話題になります。現状では数年後には担い手不足に陥り自治会も自然消滅することも考えられます。この先少子高齢化が進むなか災害が発生した場合、私達はどんな対応を取るべきか不安です。

令和2年7月、81歳を含め5名の有志で防災検討会が発足しました。防災は行政の立場からでなく、自分自身が災害にどの様に対応するのか考え、行動すること、各自の自覚が必要だと、今まで防災に関わりのない私達ですが、そのように思います。防災検討会は 地震、水害に絞り三つのステップに分けて計画を立てました。

ステップ1　私達のレベルに合う防災規約、計画書等の作成

ステップ2　計画書に基づく運営方法、防災組織の検討

ステップ3　プライバシーに関わる課題、防災倉庫、備品購入管理

ステップ1の作成は令和3年10月に完了しました。後は自治会総会で予算を含めて審議の予定です。

ステップ2は令和4年2月9名で検討会を開催しました。新たに4名の方が検討会へ賛同して頂けました。ありがとうございます。それから甲府市で推奨しております「いきいきサロン」を取り入れ活用方法を工夫し、住民間の親睦を図ることも提案されました。今後が楽しみになりました。

防災は自守、近助、共助、公助の順序ではないでしょうか。水害＝避難、地震＝救助の行動が基本ですが、防災発生時の初期対応は、まず自分と家族を守る、そして近隣に救助の必要を確認したときはお手伝いをする。自治会は住民へのお手伝い、必要に応じて応援者の確保、住民の安否確認、行政へ対応(共助)をすることです。防災検討会はまだ道半ばですが私も健康である限り微力ですが検討会の一員として地域に協力するつもりでおります。

立川　芽依　令和4年入学

一高は学習の面で充実しているだけでなく、強行遠足や一高祭をはじめとした学校行事、充実した部活動、140年以上の歴史があり、社会に出るための様々な力を身につける事ができると考え志しました。4月からは、自分が得意としている表現することを高めるために、ア・カペラ部とダンス部に所属することを検討していて、同時に、大学進学のための豊かな学力を身につけたいと思っています。

勝村　広樹　平成24年卒

コロナの影響で、2020年3月に海外駐在から帰国を余儀なくされました。帰国後は、好きな仕事を好きな土地でできないもどかしさと、これまで当たり前だと思っていた環境にどれほど依存していたか、自分の無力さのようなものを感じる日々が続きました。

しかしこれを機に、今後のキャリアについて改めて自分自身と向き合い、1年後に希望する日系電機メーカーの海外マーケティング職に転職することができました。予測ができない時代だからこそ、とことん自分と向き合い、これからの世界で何をして生きていきたいのか熟考することの大切さを実感しました。

またプライベートでも新しいことに挑戦しようと、ピアノを習い始めました。絶望的なセンスに辟易しながらも、日々奮闘しております。

大変な状況が続きますが『苟日新、日日新、又日新』の精神を忘れずに、様々なことに挑戦、学びを続けていきたいです。

保坂　律夫　昭和61年卒

ウォーキングを始めました。ルートは気分次第。石和の役場前から笛吹川沿いを進み、万力公園、恵林寺、勝沼大善寺。車ばかり乗っていた日々が一変。地元の空気と眺望を楽しむ新たな日々。裏路地にある美味しいパン屋も発見しました。しかし昨年秋、脊髄血管奇形という聞いたことのない病気に。下半身に若干の麻痺が残っていますが、幸いにも日常生活はおくれています。歩くスピードや日常の楽しみ方は変わりましたが、この変化も一興。人生飽きないです。

井上　ウィマラ　昭和53年卒

（株式会社山梨放送 編成局）

コロナ禍が騒がれ始めた頃、医療などの最前線で頑張ってくださっている人たちが短い休み時間により良い休息をとって頂けるように、マインドフルネスの指導者たちに声をかけて10分ほどの短いインストラクションを作ってもらい、知り合いの編集者が担当している医療雑誌のHP上に誰でも無料で閲覧できるサイトを作ってもらいました(【日総研】病院安全教育　この時期に最前線で活躍されている皆さまへ(dtp-nissoken.co.jp))。

冒頭に置いた「新型コロナウィルス蔓延を生き抜くための情報ガイド」には、東日本大震災以来トラウマケアやグリーフケアの専門家たちと続けてきた被災地支援からの学びが組み込まれています。ここで紹介してある情報のいくつかは、子どもたちが通っている小学校などでも活用してもらえるように校長先生たちに届けておきました。オミクロン株による第6波が押し寄せ子どもたちが通う小学校でも陽性患者が複数出るようになってみて、「病気→不安→差別」という連鎖を起こさないように日本赤十字の「新型コロナウィルスの3つの顔を知ろう　負のスパイラルを断ち切るために」という資料を届けておいてよかったなぁと感じています。

家族を守ることを最優先にしながらも、自分の専門領域で少しでも地域に貢献することはないかと常に考えていますが、日常生活の中でできないことは、こうした非常事態の中でも実践することは難しいものです。だからこそ、常に非常事態を想定して日常生活をレベルアップしてゆくように心がけることが大切だと思っています。

（マインドフルライフ研究所オフィス・らくだ主宰）

小林　香里　平成3年卒

塩部、緑が丘、美咲、朝日町……半径2 km圏内で18歳まで過ごした私。

2年前コロナウィルス蔓延のタイミングで以前から予定していた勤務先の会社の移転により、遠距離通勤が始まりました。(「ほぼ山梨」の東京都下から新宿へ)無理ゲー!と思いました。満員電車での痛勤、見えない敵との闘い……朝早く夜遅い帰宅の毎日、家庭内での主婦としての在り方……悩み多き2年が過ぎていきました。

学校行事はほぼ中止、入学式・卒業式の縮小、部活動の大会の制限、在宅ワークする家族との距離感にも悩みました。いろいろなものが2年経って当たり前になり、みんなが我慢我慢。これからしばらくはこの日常が続くと思います。

同窓会の通常開催も実現するなら、コロナウィルスとの共生で日常生活を通り戻せる日も近い？そう願い今日も「痛勤」して います。

（オリックスグループ社員）

佐野　直樹　昭和54年卒

私はまず、歴史におけるパンデミックの期間とその終息後について調べてみました。20世紀はじめの「スペイン風邪」の世界的大流行は3年間にわたっており、グローバル化した現在では少なくとも5年間は続くのではないかと覚悟しています。いっぽう、14世紀のヨーロッパにおけるペストの大流行後にルネサンスが始まったように、このコロナ禍後にもかならず新しい時代がやってくるものと考えます。

石橋湛山先輩は、太平洋戦争の敗戦の10日後（！）の昭和20年8月25日に「更生日本の針路」を発表され、「単に物質的の意味でない科学精神に徹底せよ。しからば即ちいかなる悪条件の下にも、更生日本の前途は洋々たるものあること必然だ」と述べられました（「石橋湛山評論集」岩波文庫）。更生とは「立ち直る」という意味であり、石橋先輩のこの言明は現在の難局にも大いに通じると思います。

次に、私はテレワークは全く未経験でしたが、山梨の実家に帰省していても東京の勤務先の仕事ができ、会議にもリアルタイムで出席できており、きわめて便利です。これまで長年続いてきた向都離村（都へ向かって村を離れる）と東京一極集中が、今後はテレワークによって変わっていくのではないでしょうか？

それでは皆さま、引き続きご健康・ご安全に！

（東京都市サービス勤務）

森澤　善人　昭和62年卒

コロナの自粛生活が始まった一昨年の春、愛犬（ポメラニアン♂）との生活が始まりました。子どもの頃から飼ってみたかったものの、50歳を過ぎてやっと実現しました。

それまでは、犬や猫の飼い主がペットを「家の子」と言うことにすごく違和感を感じていましたが、飼ってみると本当に可愛く、ペットも家族だと実感しました。柱やじゅうたんを噛ったり、壁紙を破いたりとやんちゃ坊主なところは困りますが、帰宅すると大歓迎してくれるし、遊んでほしくて寄り添ってくるなど、可愛い限り。

昨年の春、次女も進学で家を出て、夫婦だけの生活となりましたが、愛犬が居ることで何とかやっています。我が家にとって犬はかすがい。

（テレビ山梨勤務）

樋口　正俊　昭和61年卒

荒川サイクリングロードでジョギングに励む日々です。昨年は一年で1，000㌔を突破。苦しい時は強行遠足の涙を思い出します。コロナ太りの予防・解消に、今後も続けたいです。（山梨新報社勤務）

落合　祐介　平成26年卒

社会人として現在4年目の終わりに差し掛かり、この2年間では若手から中堅と呼ばれる年次となり、自身や周りの環境も大きく変わりました。2年前には上司に指示を受けていましたが、今は2人の後輩に指示しています。また、この半年でIT系の資格を2つ取得したこともあり、査定もここ数年は最高評価をもらえるようになりました。

今年は転職に向け活動しています。今は人との距離がある時期ですが、また集まれた時に恥ずかしくない姿が見せられるよう励みたいと思います。

（システムエンジニア）

上矢　洋久　昭和38年卒

この原稿執筆を幹事から依頼された3月中旬、ロシアがウクライナに侵攻し、多くの市民が生死をさまよう異常事態。このようなことが21世紀になっても許されるのかと、世界中の多くの市民と同じように怒りを覚え、一人ひとりの市民が何もできない状況に無力感を感じた。しかし一つだけ、かすかに、かすかに、私にも出来ることがあった。私は学者ではないが、私なりの民主主義の理論をつくり、それをNPO法人の活動を通して22年間実践した結果を本に纏め、もう直ぐ（4月）Amazonにて出版するからである。

民主主義は、選挙によって選ばれた人、もしくは政党が、権力を握って政治を行うのを基本とする制度であるが、この制度に従って政権を握ったヒットラーが独裁政治を行った例があるため、民主主義も今のままでは安心できない制度でもある。今回のロシアのウクライナ侵攻も現在の民主主義の盲点をついているように思う。しかし民主主義は、王政、独裁制などの強権政治に対して、市民が長い年月を経て育んできた人間の知恵であり、私はこの民主主義は絶対に守らなければならないと思っている。甲府中学・一高同窓会が行われる7月、ウクライナ危機がどのように展開しているか分からないが、この一大事を他人事にしてはならない。インターネットを多くの市民が活用する新しい時代である。このような時代を想定してまとめた上記の本の内容を、少しでも実現するように余生を過ごしたい。多くの同窓生が私の長年の想いをご理解してくださり、共に行動してくだされば幸いである。（NPO法人理事長）

勝村　久司　昭和55年卒

この2年、思わぬステイホームで運動不足が気になり、自宅近所の散歩を始めました。すると近くの新川という川沿いに遊歩道を発見。それは川筋を歩く信号の無い道で、歩きだせば止まることなく歩くことができる道でした。最初は30分くらいの散歩が、ついつい歩いてそのうちに1時間以上に。そんな歩きながら見る川の自然、春には千本桜とも言われる見事な桜並木が広がり、また川魚だけでなく、季節毎には鴨の親子や亀、蟹も見かけるような、ちょっとした都会の中の癒しを感じる時間にもなりました。最近では新川のある江戸川区の歴史にも興味が沸き、体力作りで始めた近所の散歩も、飽きることなくまだまだ続けられそうです。

（会社員再雇用）

中込　知佳　平成29年卒

私は今、管理栄養士として病院で働いています。この2年は就活、国家試験、社会人1年目と節目の

時でした。ちょうどコロナ禍と重なり、リモートでの授業や就活、病院実習がなくなったりと前例のないことばかりで、試験に受かるのか、仕事は通常通り始まるのかなど不安なことがたくさんありましたが、なんとか落ち着くことができました。

まだまだこれからもコロナ禍で病院で働くことは不安なことも沢山ありますが、患者さんのために頑張ります。

田中　資時　昭和35年卒

コロナ発生の時とほぼ同じくして、この2年間私は間質性肺炎を患い闘病の生活を送りました。原因不明で完治する事のないと言う厄介な肺炎です。2019年12月中旬に入院して57日目に退院しました。それから2年以上経過しています。治療には、ステロイド系の薬と、肺の中にいるカビを退治する薬、その他に2種類の薬を服用しています。これまでにいろいろな副作用がありましたが、治療のためには必要な薬なので飲み続け、徐々に良くなり何とか日常生活が送れるようになってきました。

この2年間 健康回復を目指して心がけたことは、『歩く』ことでした。思えば教職を退いてから21年間、歩くことは自分を大切に生きることにつながると捉え、着実に実践してきました。病気になる前には毎日のウォーキングとストレッチ、更に階段運動で体を鍛え登山にも備えました。古希を迎えてから5年間で富士山・奥穂高岳・北岳・間ノ岳・槍ケ岳と日本の高峻ベスト五山を踏破しました。この時培った気力、体力は今も有形無形に遺っていて、病気の回復に役立っているものと確信しています。それに妻が手を掛けて作ってくれる食事も健康回復の大きな要因であると感謝しています。

健康づくりは、「よく食べて、よく運動する。」これに尽きると心得、満81歳になりましたがまだまだ頑張る所存です。

H・N　平成24年卒

私はコロナが日本に入ってくる数ヶ月前に、ふとしたきっかけで、自分で着物を着てみたいと思いました。動画を見て練習したり、着付け教室で習ったりしたことで1人で着られるようになり、今は着物友達と一緒に出掛ける事がとても楽しいです。

（会社員）

清水　昭　昭和44年卒

この2年間、仕事も異業種交流も会議は、ほとんどがオンライン開催になり、懇親会は激減した。自分の時間ができ、運動や読書が増えたが、何となく物足りなさを感じていた。

この間もいくつかの講演を頼まれ「どのライフスタイルがいちばん長寿に影響しているのか」を考えていた時、Brigham Young University Holt-Lunstad」等の「普段の生活の中でのつながりが長生きや健康に良い影響を与えている」という研究に出会った。地縁、血縁、仕事上の付き合いも大切であるが、同窓生同士のつながりも社会とのつながりの一つであり、健康長寿に繋がっていると得心した。

リアルで集まることが最良だが、ネットを通じても良いので、これからも甲府一高東京同窓会の縦横の繋がりを大切にして行きたい。

参考文献　東洋経済オンライン『人の健康は「社会とのつながり」が決めていた』村山 洋史　東京大学高齢社会総合研究機構・特任講師より
https://toyokeizai.net/articles/-/222178

内藤　浩　昭和41年卒

毎日変わり映えしないルーティンをこなすだけの生活。唯一ストレスを解消できたのは、人混みを避けたウォーキングや友達とのリモートミーティングでした。人と会い顔と顔を合わせておしゃべりをする事は生活の中には必須であったと再確認しました。「人との絆」を自由に確かめる事が出来ない悶々とした蟄居生活。そんな非日常的日常を耐え凌いで頑張ってきました。

佐藤(石川)　浩　昭和34年卒

白内障手術を受け経過良好、積読だった本を120冊読了。健康維持に自彊術体操とウォーキングを実施。

橘　清光　昭和34年卒

コロナ自粛の中でも、身体の劣化(フレイル化)を少しでも止めゴルフが出来るよう、「トリム体操教室」にてシニア女性に交じって汗をかいてます。

鶴田　駿人　平成27年卒

昨年度、私は建設会社で勤務していたにもかかわらず、縁あって愛知県にある中高一貫校で高校生と寝食を共にしながら仕事をしていました。これは、この学校特有の制度で、企業から派遣された社会人が自らの経験やマインドを学生に伝えることで将来のリーダー育成に寄与するというものです。毎日生徒と過ごす中でコロナ感染拡大の影響を受け、学校行事がことごとく縮小されることに私はやるせなさを感じていました。しかし、一度しかない思い出を作ろうと奔走する生徒の姿に心を打たれました。生徒と教職員が一丸となることで、体育祭も文化祭も感染対策を考慮しながら斬新な演出を考案し、これまでにない新たな感動を生みだしてくれました。逆境をチャンスに変え、邁進する生徒に負けないよう、私も明るい生活が返ってくる日まで辛抱強く過ごしていきたいと思います。

（会社員・清水建設㈱）

山田　正樹　昭和51年卒

コロナ禍の中、「職場の仲間と一緒に昼飯にも行かず、飲みにも行けない」という生活が続いています。気が付けば、私はもう64歳になっており、サラリーマン生活も終わりに近づいています。この2年間は、「退職後何をするか？どう生きるか？」について、必死に答えを出そうとしていました。

いつもは、八王子にある社員寮で暮らしていますが、テレワークも増え、土日と合わせて甲府の実家に帰る事が増えました。やはり、生まれ育ち、高校時代を過ごした甲府は、心落ち着ける場所であります。甲府一高周辺への散策や、強行遠足を想い出しながらの野辺山へのドライブは、これからの人生を考える絶好な時間でもありました。ところがいっこうに「自分が今後何をやりたいのか？どう生きるのか？」を決められません。想い返してみると、「将来の自分の夢を見つけられなかった一高時代の自分

と全く同じだ」と、進歩のない自分に、苦笑いしている今日この頃であります。

（東日本旅客鉄道株式会社勤務）

浅川　浩一　平成元年卒

私はエンターテイメント業界の仕事に携わっています。11年前の震災時には「何かやらなければ、頑張らなければ」と寧ろ気力も湧いたものですが、今のこの騒ぎの2年間は頑張りたくても頑張れない、動けないあの時とは似て非なる状況です。エンターテイメントは結局贅沢品なのでこういう状況には非常に弱いと感じました。お題に反する内容になり心苦しいです。

個人的には この余りにも仕事ができない期間で趣味のギターやドラム、筋トレを頑張った位ですかね（苦笑）。

Y・K　平成3年卒

山梨県の西部の、とある街の教育委員会に従事しています。この2年間、そして現在進行形で、学校教育はコロナという目に見えない大きな敵に立ち向かい、子どもたちの学びを守る戦いの日々を送っています。子どもたちの健康と安全を守るとともに、保護者・地域の心配を軽減しながら、学校を運営していくことの難しさを目の当たりにしています。日々できることにベストを尽くすとともに、この事態が好転していくことを毎日願っているところです。

さて、そんな中で、学校教育の未来を創る「GIGAスクール構想」という施策がこの2年で並行して進められています。私はこの施策の推進担当として、市内の小中学校での一人一台端末のICT環境を整備し、授業で積極的に活用されるよう支援を行ってきました。一人一人が端末を使って学習する初めての授業を参観したとき、子どもたちが嬉しそうに学ぶ姿を見たとき、それまでの不安や苦労も吹き飛びました。子どもたちが素敵な未来を創造してくれることを願いつつ、これからも学校教育が子どもたちの未来にとってよりよいものになっていくよう、努力していきたいと思います。

清水　まり子　平成元年卒

コロナ禍で、在宅時間が増え、新聞をよく読むようになった。卒業以来、歌手として活動をつづけてきた関係から、コロナ自粛と、エンタメの関係、女性の生き方、人生100年時代のお金の問題など、これまであまり関心がなかったことにも目を向けるようになった。50歳を過ぎ、まだまだ学ぶことが多いと感じさせたコロナの2年間だった。一高で身に付けた挑戦する精神を生かし、これからも力いっぱい命いっぱいに生きていきたい。

塚田　美佐子　平成元年卒

看病から介護へと続いた母との毎日が私の内側を満たし豊かにしてくれた。人生の季節が巡り 肉体と心が変わりゆく母を知り 私を知り 愛を知った。全ては最善のこと 愛と光。そう心から想える今とかけがえない母との毎日を与えてくれたことに愛と感謝を込めて私は私を生きていく

原口（塩沢）　直美　平成元年卒

一高を卒業後、結婚して甲府を離れて25年。3人の子育てもボチボチ終え、今度は親の介護に入る矢先にコロナ禍になった。高齢の親が気になるが、その親が「今はコロナ禍で大変な時だから、来なくていいよ」と言う。時間が出来たのに山梨に、親の側にいけない。それが切なく寂しい気持ちになった。

また昨年の暮れ、甲府同窓会の打合せのため久々に同級生と一高で集うことになり校舎を訪れた。35年前の校舎と違い不思議な気持ちにもなったが、それよりも瞬時に数十年会っていない友と、まるで昨日の続きのように、戻れたことがとても嬉しく「私は、良い青春時代を一高ですごしたのだな。」としみじみ感謝の気持ちで胸がいっぱいになった。人とのつながりのたいせつさも味わう2年間だった。

藤原　麻子　平成元年卒

この2年間で様々な変化が起こりました。不自由なことも増えましたが、良くなったこともいくつかありました。例えば、ウェブ会議サービスが普及したこと。仕事でもプライベートでも、場所の制約を越えて気軽に話せるようになったのは嬉しい変化でした。またテイクアウトの充実。気になっていた人気店の味が自宅で楽しめるのはちょっとした息抜きになりました。さらには音楽や舞台のライブ配信が増えたこと。チケット代も控えめなので気軽に観ることが増えました

まだまだ先行きが不透明な状況ですが、少しでも「良かったこと」を探して心穏やかに暮らしていければと思っています。

Always look on the bright side of life!

小泉　一昌　昭和57年卒

2019年9月のS56からの引継ぎを経て、S57東京同窓会幹事の本格的な活動を開始しました。テーマを決め、各部会での活動もスタートし、主要行事である東京同窓会幹事会（5月予定）および東京同窓会総会・懇親会（7月予定）を進めて行こうとするさなか、2020年4月、首都圏に新型コロナウイルス感染症対策・特別措置法に基づき緊急事態宣言が発令された。それまでは当番幹事の打ち合わせも月に1回程度集まって行っていましたが、それからはグループLINE通話による電話会議になりました。その後、役員会にて2020年度の幹事会、総会・懇親会は中止となり、日新鐘の記事・広告にご協力いただいた皆さんにお詫びを申し入れました。結果、約1年間活動は休止しました。

2021年4月の東京同窓会役員会の協議により、5月から再度、準備活動を再開しました。しかしながら幹事会の打合せは電話会議を継続せざるを得ず、総会・講演会も限定した人数の会場参加とオンライン視聴という今までと違う形式での開催を検討することになりました。それでも何とか、7月10日に東京同窓会・幹事会、そして、10月23日に東京同窓会総会・講演会を実施しました。山梨の同窓会長および校長先生からのビデオメッセージ、ビデオによる講演など、今までとは違った形の開催にはありましたが無事終了しました。

今回の活動にご協力いただきました皆様に感謝し、開催できたことをうれしく思っています。ありがとうございました。（S57　東京同窓会・幹事）

杉山　岳　平成29年卒

私は2020年3月に大学を卒業し、現在は石油・天然ガス開発系企業に勤務しております。私は折しも新型コロナウイルスが流行し始めた年に入社しました。配属初日からの在宅勤務や飲み会の中止によるコミュニケーションの軽薄化。それに加え新型ウイルスは世界経済にも大きく影響を及ぼし、原油市場も一時大暴落しました。「なんでこんな年に入社してしまったのだろう……」と初めの頃は悩む日々の連続でした。

そんなある日、写真フォルダを見ていると強行遠足の写真が出てきました。私は1年生の時、気力と体力の限界で海の口でリタイアしてしまい悔やみました。その悔しさを胸に翌年からは家族の協力も得ながら周到に準備し、2、3年生の時は何とか完走できました。

「歩み続けたから成功できた」これは私が身をもって強行遠足で学んだことです。これからも立ち向かわなければいけない困難な局面があると思います。自分一人でできることには限界があるものの、強行遠足で学んだことを胸に歩み続けることを怠らず、コツコツとこれからも仕事に邁進します。

小林　岩魚　平成27年卒

この2年間はコロナに翻弄され、生活も大きく変わってしまいました。特に最初の方は仕事であるJリーグの試合も中止になったり、チームの活動もストップ、友人にも気軽に会えないなど、とてもストレスの溜まる日々でした。その中で自由に使える時間が増えた分、サッカーの映像を見て研究したり、今まであまりやってこなかった勉強をしたり、本を読んだりと自分の中でできることを見つけて有意義に時間を使うことを意識して過ごしてきました。

また自分がそういった日々を過ごしている中でも最前線で命を削ってコロナと戦ってくださっている人がいること、自分の好きなサッカーを仕事として毎日やれていることなど普段では気付けないことを再認識できるきっかけにもなりました。

これからもコロナと戦っていく日々は続いていく可能性はありますが、その中でも周りの環境、周りにいてくれる人たちに感謝の気持ちを忘れずに毎日を送っていけたらと思います。

（ヴァンフォーレ甲府所属）

永島　龍太　平成22年卒

私は生命保険会社の本社内勤社員として勤務しています。生命保険業界は対面営業が大前提であったため、コロナで大打撃を受けました。しかし、これを「仕方がない」と諦めるのではなく、「だからこそできること」を模索し、非対面の営業方法を考え、業界で最初に実現させるに至りました。何事においても、環境のせいにせずに、置かれた環境で何ができるか考え、変化に即応することが大切なのだと学ぶことができました。

松岡（清水）　啓子　昭和41年卒

「リラの会」は、二年前の3月11日に生まれた1966年甲府一高卒の女子七人のグループラインです。メンバーは山梨、千葉、東京在住。在学時から親しかった人も初対面に近い人もいました。メンバーの一人の家のリラの木に因んで「リラの会」と名付け、色とりどりの花を形どったアイコンも出来ました。コロナ禍を吹き飛ばすように、富士山や花々の写真、美味しい献立の紹介、旅の報告、歌唱の動画などの投稿が始まり、時には読むのが追い付かないほど。「リラの会」誕生と前後して生まれた三人の幼な子の成長を見守るのも、おばあちゃん世代の楽しみの一つです。時にはビデオ通話で合唱もします。

特筆すべきは聡子さんの手作りマスクです。障碍を持った方や高齢者に着やすい洋服を研究してきた聡子さんが、皆にオリジナルマスクを縫ってくれたのです。闘病中だった聡子さんは料理も上手で、その前向きな生き方にどれほど励まされたか分かりません。聡子さんのマスクをかけて集まるのが夢でしたが、コロナ禍でなかなか実現しませんでした。1年が過ぎ、グループラインはますます盛況。ますます楽しくなりました。でも、悲しいことに昨年の夏、聡子さんが亡くなりました。火が消えたようでした。

秋、メンバーの一人の踊りの発表会でとうとう再会を果たした私たちは、初冠雪の富士が見守る県立文学館前の丘で校歌を歌いました。卒業後半世紀あまり。聡子さんも見守ってくれていたと思います。

それからまた半年。強行遠足や部活、暖房無しの授業など思い出を分かち合うとともに、自分の知らなかった一高生活の一面に触れるのも快い驚きです。そして今のそれぞれの生活ぶりを聞くと、元気が湧いてきます。

私たちの絆の基を作ってくれた高校3年間。人生の荒波を乗り越え、コロナ禍でも励まし合い悩み事も分かち合えるのは本当に幸せなことです。参加を呼びかけてくれた千永子さんに皆で感謝しています。これからも元気で、それぞれの花を咲かせて行きたいと思います。

志村　昌也　昭和35年卒

同窓会も忘年会も出来ないこの2年、メール網も着信不能が何人かあり、音信の無い人も増えました。生存確認をハガキでやらなければなりません。

M・T　平成29年卒

社会人となり、仕事を頑張っています。

東京に上京し就職しましたが、コロナ禍のためなかなか友達にも会えない状況でした。昨年の秋、久しぶりに高校時代の友達に会うことができ、遊んでいる場所の近くに別の友達も住んでいる事を知り、連絡してみたところ急遽会いに来てくれました。高校の卒業式ぶりの再会で、とても楽しい時間を過ごすことができました。私の事を覚えてくれていた事、会いたい！と言ってすぐに来てくれた事、嬉しかったです！ありがとう！

（会社員）

石川　光男　昭和43年卒

「石川さん、弦間先生を知っているか？」。約45年前、小生が20歳後半に国語の初任教員として勤務した、千葉県（現在、いすみ市）の千葉県立大原高等学校で、重鎮のI先生（数学）からある日突然、唐突に訊かれた。話を聴くと、驚いたことに嘗て弦間正友先生が英語の教師として大原高校に勤務していたとのことだった。その弦間先生は私が一高3年生の時の英語の先生であった。奇蹟に近い事実である。当

時を知っている美術のK先生、書道のH先生も後日、驚いた様子で準備室にいらっしゃった。「石川さん、甲府一高は出来るんだってね。勉強が」とはK先生の言葉。

そのことが縁で数年前から弦間先生と遣り取りしている。コロナ禍で弦間先生の卒論がフォークナーであったこと、漱石も相当読み込んでいらっしゃることも判った。現在、先生は川中島の老人ホームにいらっしゃる。数年間まで出荷していた地元・千葉県産の玉葱を今年から送ろうと思っている。1年生時の担任・神宮司誠先生、2年生時の担任・川手千興先生、3年生時の担任・渡辺弘先生には間に合わなかったが、今年は間に合いそうである。是非召し上がって頂きたい。天が与えてくれた縁(えにし)を大切にしたい。先生のご健康を祈るばかりである。(私立市原中央高等学校・非常勤講師)

川手　一郎　昭和46年卒

コロナが「ダイヤモンド・プリンセス号」の船内で700人もの乗客を感染させるという報道があってから既に2年を経過した。東京ではオミクロンの新たな変異株が新規発症者の2割に達するとのこと。地元での無尽は殆ど止まった。

私は、30代の頃から、一高の同級生の1人と日本百名山を全山踏破すべく年間2~3峰を登頂してきた。7・8年前の男体山における登頂後の下山中、大きな石を踏み外し転倒打撲するという事故(簡単な滑落である)を経験した。それ以来800m以上の高低差がある山には登らないことにした。この目標は、56座をもって断念だ。

代わりに同じ同級生と目指しているのは、中山道の全踏破である。月に1回位の頻度で、週末の早朝、普通電車で互いの自宅に近い竜王駅から乗車し、中山道の最寄り駅で下車する。そこから、5・6時間ゆっくりその日の目的地の宿(しゅく)のそばの駅まで歩くというものだ。コロナ禍の昨年から始めたが、上諏訪から木曽福島までの間はほぼ制覇した。

帰りに塩尻駅に下車する。駅の近くに古くからやっている居酒屋がある。「知(ち)春(はる)」という。芸者のような名前の店だ。そこで生ビールの中ジョッキ1杯を飲み干した後、冷蔵庫でよく冷やした塩尻ワイン(井筒ワイン・メルローのミディアムボディ)1本を2人で空ける。乗客が3割も乗らない普通電車の中で移動するため、コロナへの感染可能性は絶無だ。相当な体力消耗の後、友と語らいながら地元の新鮮な食材を肴にアルコールを飲する時間は、まさに至福の時だ。快い酔いの後の帰路の電車の揺れは、数十分であれ友と私を夢心地に誘う。

桑本　拳汰　令和2年卒

コロナによりズームでの授業が増え、サークルでは活動停止のところも多くあり、思うような大学生活が送れていませんでした。その中でも友達作りには難しい部分もありましたが、授業中や終わった後に出来るだけ話すようにしてきました。(大学生)

根岸　晃芸　平成22年卒

2年間、勉学を頑張ったとか、努力して何かを成し遂げたということは特になかった。しかしコロナ禍によって不本意に手に入れた時間を利用して、昔夢見てはいたが未熟で挑戦すらできなかったことに挑戦した。奇跡的に夢は叶い、今私は南極・昭和基地で生活している。(南極観測隊)

神宮司　房義　昭和30年卒

高校時代は体が弱く、強行遠足に参加できたのは高2(1953年)の一回だけ。足袋に草鞋の出で立ちだった。その上、私は、沿道の台ヶ原に住む叔母(母の妹)に届けるための塩ふりの生サンマをたすき掛けに背負わされていた。サンマはだんだん重くなり足の爪は歩くたびに足袋で押され悲鳴を上げ、途中の茅野でダウン。ところがこの体験こそがチャレンジ精神の源になった。

大学では後輩達を誘って調布から甲府まで徒歩でチャレンジするも、あまりにも無謀との反抗にあい途中で断念。日本テレビに入り43歳の夏、妻の勧めで中一の長男と、八王子から甲府までの約百キロを徒歩で3日かけて父の墓参りを敢行した。この経緯は社報に紹介し、その結びに「亡き父の　墓に向かいて伝えたる　はるばる来る　父子の健脚」の短歌を載せた。そして次なる目標を満50歳で甲府から松本までの100kmと定め、一日8時間3日で歩くことにした。誕生日1986年4月29日の午前8時スタート。韮崎の桃源郷を眺め、新府城に登り、戦国時代に思いをはせ、田園風景を眺め、短歌の三十一文字を指折りながら歩を進めた。「なぜ歩く　繰り出す一歩　また一歩　目指す目標　近づくと思えば」。携帯ラジオはチェルノブイリ原子力発電所の爆発事故を伝えていた。そして自らが設立に関わったテレビ信州の松本本社を訪ねてこの旅を終えた。その後5年毎に既に行った先から歩を進め、65歳の誕生日、日本海の糸魚川に抜けることができた。

こうして培われたチャレンジ精神は、7年前脳梗塞で倒れて左半身不随になりパンツも靴下も一人で履けない状態を、自ら脱却する自助具を開発するバネとなった。さらに、手を使わずに傘がさせる補助具「傘さしエイド　ベルト君」の開発にもつながり、ベルト君は2021年11月特許庁に商標登録し、毎日新聞電子版にも紹介された。これら自助具は自分のみならず、悩める多くの人のお役にも立てると思うと、若き日の強行遠足の挫折体験に感謝する気持ちである。

仲田　道弘　昭和53年卒

「甲府一高を出て、旧前店の十字路を左折し東に進む。美咲神社、喜久乃湯を過ぎて、武田通りの交差点を直進。すぐ左手に六角堂がある。この先に今は亡き大翁院という寺院があった。ここが日本のワイン発祥の地である」。このような日本ワインの歴史を、大学の授業で社会人に教えています。コロナの影響で授業はすっかりオンライン化。その代わり、東京や大阪はもちろんロンドンからも受講してくれる方がいます。今年の秋にも開催しますので、ワインや歴史にご興味のある方はどうぞ。(山梨県立大学特任教授)

藤巻　芳文　昭和48年卒

現在、社会福祉法人 いずみ苗場の会の中の障害者支援施設で働いています。障害のある方の日中活動の場です。精神的にも体力的にも厳しい仕事内容ですが、すでに働き始めて4年目に入りました。

ここ数年のコロナ禍で施設はどんなに感染者が増えても休むことができません。それは国からの援助で運営していますので勝手に休むわけにいかないのです。運営はしていますが外部との接触はなるべく避け仕事やレクリエーション活動を行っています。障害と言っても身体的、精神的に……と色々なケースがあります。障害がある方の支援とともにその家庭にも寄り添って支援していると自負しています。創設者の「すべての人々はその世に必要があって生まれてきている」との理念に感動して日々仕事に従事しています。

早期のコロナ終息を願っています。

大村　紘一郎　昭和38年卒

甲府ゴスペルクラブに入り、老人介護や障害支援施設を訪問しています。そこでの歌と思いをＹＢＳラジオで披露したのですが、私の考えは伝えきれませんでした。じゃあと私の心に火がつき、いきおい『宮沢賢治「銀河鉄道の夜」を読み解く―ビー・ジェントルマンの種子に乗って―』を書き上げました。

「宮沢賢治学会イーハトーブセンター」の副代表理事も務められた　望月善次氏（本校卒）からは「クラークの宗教的側面を継いだといわれる大島正健に連なる一高生でなければ書くことのできないもの」と、本校 小林俊一郎前校長からは「素晴らしい執筆活動をされる方が卒業生であることは、本校生徒にとって大きな励み…、調査研究等に有効活用させていただく」とお言葉をいただきました。

拙著は本校卒業生が起業したアスパラ社（TEL055-231-1133）から出版しました。ぜひお読みください。

祝　聖之（ほうり　せな）　平成28年卒

この2年間は仕事中心の日々で、「どうしたら会社の未来を担う素敵な方を採用できるか」ばかり考えていました。

その中で、もともと興味のあった〝デザイン〟の専門性も身に着けたいと思い、現在は土日を使ってデザインの専門学校にも通い、仕事もプライベートも刺激的で、充実した日々を送っています。

生活しにくい環境が続きますが、未来の自分に大いに期待をしつつ、自分の「やりたい」にとことんまっすぐ、貪欲であり続けたいと思います！

（株式会社ADKホールディングス（総合広告会社）新卒採用担当）

勝村　良一　昭和53年卒

子会社であるアニメ制作会社への出向を最後に40年間勤務した広告会社を今年3月で退職しました。それを機に、鹿児島指宿、霧島から別府、四国へ渡って足摺岬と祖谷、瀬戸大橋を渡り、明石、大阪を経由して南紀白浜まで2週間の温泉巡りひとり旅をしてきました。

功刀　悠久　昭和34年卒

2年前、たくさん子犬を産まされた末に保護犬にされたミニチュアシュナウザー（白、推定7歳）を引き取りました。穏やかな性格で、躾けを覚えるのも早く、近所で評判の可愛い家族となりました。毎日2回の散歩がとても楽しく、ねぎらうつもりでしたが、かえって心癒され元気をもらっています。

長く続けてきた同級生や、多くの友人との会（ゴルフ、飲み会、その他）などコロナ禍で途切れがちですが、一日も早く平常に戻れるよう願う日々です。

堀口　修　昭和44年卒

コロナ禍の中でどう頑張ったか、ということを書け、とのことでしたが、正直、我等湘南同窓会は全然がんばっていません。2年連続中止となり、今年もまだ開催のめどは立ってないという状況です。我が幹事の中には医師もおり、やりようによってはできないこともないとの意見もありましたが、世情を鑑みた（KYともいう、嗚呼情けなや日本）次第です。

さて我が会は、次回開催の時は第　24回になる（第1回は1996年）という長い歴史を誇り、例年参加者数は30数名と、首都圏のローカル同窓会としては屈指のものではないでしょうか？アット・ホームなところが良いのでしょう、「湘南」といっても参加者は、遠く東京や甲府からいらっしゃる方もいます。ただ今幹事一同、開催に向けて検討をしており、初めての方も大歓迎ですので、時々ブログをチェックされますようお願いします。

検索→「一高湘南同窓会」

http://ichikoshonan.livedoor.blog/

※今年は中止になりました。（湘南同窓会幹事）

広瀬　義武（父・故広瀬　忠義　昭和36年卒）

一昨年8月、父は癌を患い、77歳の生涯を終えました。生前、一高では剣道に励んでいたと聞いております。その縁もあり、静岡で教師となっても、定年まで剣道部の顧問として土日もなく生徒を指導しておりました。一高剣道部が原点だったと思います。厳しくもあり、優しい父でした。

この機会に、お世話になった皆様にご報告と、少しでも父を思い出していただければ天国の父も喜ぶのではと参加させていただきました。

コロナ禍、戦争と本当に世の中が変わっています。皆様におかれましても、くれぐれもご自愛いただければ幸いです。

川口　隼人　平成25年卒

大学卒業後一般企業に就職した。Uターン就職した理由はもちろん「地元愛」。高校時代から地域密着型の典型ヴァンフォーレ甲府のヴォランティアにも参加してきた。コロナで入場者制限されようが、売り上げなんかなくたって、そこに来てくれる熱いサポーターのためならと。行きついた先は山梨の困っている人を助けるための「便利屋」。困っている人を見るといてもたってもいられなくなる性分は一高で培ったもの。これからも人のためになれる人生を、ライフワークを探していくつもりだ。

山村　高基　平成25年卒

大学を卒業して入社した温泉旅館が自分の思っていたような職業とかけ離れていたため見切りをつけて東京の飲食業へ、そこもコロナの影響で退職。そのおかげで仲間とともに立ち上げた宅配会社が大ヒット。趣味で始めたヴァンフォーレ甲府を解説したYouTubeも登録者数が激増中（笑）。可能性ってどこに隠れているのかわからないもんだな～。

山本　海吹　令和4年卒

今年の3月に一高を卒業した。コロナに支配された3年間を振り返っても何も生まれてくるわけはなく、将来の自分の可能性を伸ばすには何をすべきかを考え続けた3年でした。

そして今。夢を形にする時がやってきました。賃金が30年間上がらない日本を飛び出して、アメリカで一花咲かせてみるぞ。成功して帰ってくる僕の将来を見ていてください。

赤池　由佳　平成17年卒

なかなか会えない友人とリモート飲み会したり、遠くで行われる講習会がオンラインとなったため参加することができたり、今ある環境でも楽しめることがたくさんあると気づかされた日々でした。

でも、本当はオフラインで友達と会って話したい。

高井(安達)　正恵　昭和61年卒

大学卒業後、ずっと幼稚園に勤務してきました。コロナが広がり始め、我が園も子どもの安全を守り続けるためにはどうしたらいいのか、園長と共に職員で考えてきました。緊急事態宣言がでた時は休園となりましたが、幼稚園を楽しみにしている子どもたちのために、不慣れではありましたが、動画配信を送り続けました。歌、手遊び、体操、製作、リトミック、ゲーム、クイズ、お話など。

2か月遅れではありましたが6月に入園式が行えたのはとても嬉しかったです。それからは、日々コロナの状況に左右されながら、子どもたちとの生活を楽しんでいます。行事も縮小したり中止となって、なかなか保護者の方に園児の姿をお見せできずにいる中、おゆうぎ会ではビデオ業者に依頼して、発表の姿をDVDでお渡しすることが出来ました。また未就園児対象のプレ保育はオンライン、クラス懇談会はZoomで行いました。

まだまだ通常の保育には戻れていませんが、この2年で、ICTを教育に有効活用していく勇気と、何よりも子どもとの大切な時間を充実させていこうという意識が強く持てるようになりました。

(幼稚園教諭)

白川　うらら　平成31年卒

コロナ禍でも出来るボランティアとして、週に1度、小規模ながらピアノ教室の後輩である地元の高校生にアンサンブルの指導を行っています。

私とピアノの先生を含めると、ヴァイオリン3人、ヴィオラ1人、ピアノ1人の異色の五重奏ですが、毎週の楽しみです。

(大学生)

渡辺(雨宮)　たま緒　平成4年卒

見えない、会えない、行けない、開かない。マスク顔しか知らない、ワクチンを信じない(人も)、ないないづくし。いつになるのか、アクリル板、検温、消毒と無縁の日常は。そんなことを考える日々。

やれないことばかりを見て、諦めたりもしたものの、やれるを見つけて、やる気で進めば、意外とできると感じた日々でもあった。

混沌の不安に溺れるか、混沌の先に希望を見出すかは、結局は気の持ちよう。自分次第なのかもしれない。

(シンクタンク)

金子　滉克　平成31年卒

一高で山岳部に入ったことをきっかけに、大学でも登山を続けています。昨夏は10泊11日の長期縦走を無事に行うことができました。

早くコロナ禍が落ち着いて、気兼ねなく山に登れることを願っています。

(大学生)

一瀬　真也　平成21年卒

コロナ禍で子供たちと遠出や旅行に行くこともできず、休日は専ら公園で遊んでいます。

そのせいか、山梨県の公園にとても詳しくなりました。

(会社員)

永井　博　昭和43年卒

我々43年卒は、2006年の甲府中学・甲府一高東京同窓会の当番幹事を担いました。この時集まった同級生の絆を繋ぐため、男女一緒に小諸を目指す強行遠足を中心に様々なイベントを行ってきました。2019年秋には東京で、翌2020年1月には甲府で古稀祝いのパーティを行いました。その直後にコロナ感染が起きたのです。計画していたイベントは中止、以来2年余、活動がすべてストップしました。約200名が加入しているよん燦会(43年卒の愛称)メーリングリストでの交信もそれまでの10%に落ち込んでしまいました。

そのような時に、Zoomというツールを知りました。手始めにオンライン飲み会を始めたところ好評で、毎月の行事となっています。43年卒では駄風なる文集を発行しています。編集グループは山梨と首都圏に散らばっており、これまではメールでのやり取りでしたが、オンライン編集会議ができるようになりました。43年卒の同期生が主催する講演会などもZoomによるオンラインで行われるなど、Zoomによって絆を繋げる事ができたと思っています。

とは言え、対面で語り合う場に勝るものはなく、緊急事態宣言やまん延防止措置の解除とともに、新宿御苑の芝生の上で車座になってのピクニック、高尾山や陣馬山登山など、少人数でのイベントを通じて絆を保ってきました。

コロナ禍はまだまだ収まる気配はありません。引き続きZoomを使ったイベントにより、同級生の絆をつなげていきたいと思っています。

(甲府一高東京同窓会　学年幹事)

八田　政仁　昭和48年卒

この2年は、全世界の生活様式が一変してしまいました。友人達とも会えず、喜びの声をあげるのもはばかられ、人混みを避け、ただ黙々とおとなしく過ごさなければなりません。リモートなどが発展しましたが、やはり直接会うのとは雲泥の差があります。

私の生活も、2年の内4か月ほどは隔日の出勤でしたが、他は毎日、埼玉県草加市から東京を通過し、神奈川県の川崎市の勤務地まで片道2時間半ほどかけて通勤しています。結構混んだ電車にも乗るので、「cocoa」の接触記録でも、「この14日間で2名の陽性者との接触が確認されました」と表示され、ログの接触人数は35名となっています。コロナワクチンも早めに3回接種し、家族も皆、感染や濃厚接触者にならずにすごせています。

早くコロナが落ち着いて、同窓生の皆様と直接会

えるのを楽しみにしています。（現役会社員）

山本　秀彦　昭和41年卒

SDGs（SDGs：Sustainable Dosokai_katudo Goals）とは国連サミットで採択された、「世界を変革する　持続可能な開発のための2030年までに達成すべき目標17項目」ですが、ここでは、持続可能な「同窓会活動目標」として、2年間のコロナ禍中の東京同窓会活動サポート経験から思ったことを述べてみます。

少子高齢化で運営を支える当番幹事学年の人数は往時の半分以下、参加者は過半数が60歳以上です。

ウィズコロナでは従来の様な3密（密集、密閉、密接）の懇親会は開催できません。コロナ後もその復活は難しいと思います。では持続可能な同窓会とはどの様にすればよいのだろうか。

まず、当番幹事の負担を減らすことが必要です。ITツール等を駆使し、出来るだけ定型作業で処理できるようにすることです。しかし何といっても運営資金の調達です。総会・懇親会参加者の会費のみでは、不足するため、日新鐘への協賛広告に頼っています。これを会員の皆様からの支援金で賄う、具体的には、会場とリモート参加の組み合わせ、オンライン配信（有料）、クラウドファンディング（返礼は日新鐘）等にて多くの人から、少額でも集める方法を定着させることで解決してゆければと思います。このような方法は若い方はなじみがあるので、参加・協力が得られやすいと思います。

（東京同窓会事務局長、甲府一高あおぞら会事務局）

小河原　正己　昭和34年卒

平成26年3月、思いがけず一紅会で、老いらくの弧悲に墜ちた万葉集について話をさせてもらった。つまんない話で失礼したが、今だったらもっと面白い話ができたかも。

というのは、この万葉集宣伝係のその後は波乱万丈、まるで舞台劇のような展開をたどった。一紅会までが第1幕としたら、第2幕は3度の万葉劇公演の成功とその直後の万葉由来の令和による降って湧いたようなブーム。第3幕が、図に乗って夢の東京公演を決断、その後悪夢のごとく奈落に墜ちて中止。

その直後コロナ禍、おかげでネットにその一部始終を連載。そして、また懲りずに第4幕の幕を開けようか、など等、山あり谷ありの物語。

「万葉集ナウ」（chikyukotobamura.org）をご笑覧ください。（フリー・プロデューサー）

土屋　初海　昭和34年卒

社交ダンスを頑張りました。はた目には「濃厚接触の最たるもの」と見る方もありましたが、しっかり上半身を離して、良い姿勢で踊ります。個人レッスンで、毎回同じ先生としか踊りませんので、コロナ禍の中でも休まずレッスンに通いました。

はじめた動機？77歳になった時、今まで全く知らなかった分野、それも、わが身にとって、一番不得手な「運動」の分野に敢えて身を置き、残り僅かかもしれない日々を有効利用したかったのです。楽しいですよ。

大芝　淳　平成12年卒

コロナ禍の中、2年間で何を頑張ったかと言うと「引越し」です。まずは家を買い引越ししました。その9か月後、転勤でまた引越ししました。単身赴任で一人だけなので作業は簡単でしたが、家族と離れること、コロナ禍で、飲みにも行けず、モヤモヤした日々を過ごしました。これもあるあるで家を買ったら転勤もよく聞く話です。最後は、転勤先で支店の移転がありました。支店の移転は、なかなか経験することがないため、貴重な経験で大変でしたがやり切り、2年間で3回引越ししました。結果、捨てる勇気や決断力がついたと思います。よーく頑張ったと思います。（りそな銀行虎ノ門支店勤務）

服部　廉太郎　平成29年卒

山梨放送新人アナウンサーの服部廉太郎です。

高校時代、探究活動のリーダーだった私は、東京で活躍されている先輩を訪問する「はじめまして、先輩」を企画し、日新基金をいただきました。コロナ禍での就職活動中も、先輩から伺った「ハングリー精神が人を成長させる」という言葉を思い出し、自分を奮い立たせました。

そして昨年、小学生の頃からの夢が叶い山梨放送アナウンサーに。YBSの服部は一高の後輩だ！と皆様に思っていただけるよう、ご恩を忘れず日々努力いたします。

種田（平島）　由梨　平成12年卒

コロナの影響で、子どもの保育園の休園や登園自粛が続くなか、テレワークでの慣れない仕事に家事育児……と、朝から晩までノンストップで動き続けることの多い2年間でした。思い通りに進まずイライラしたこともありましたが、主人の協力や子どものかわいい笑顔に励まされ、仕事と家事育児の両立を頑張ることができました。当時は毎日必死でしたが、きっとこの先、こんなに家族でずっと一緒に過ごすこともないのかなと思うと、貴重な時間だったなと感じます。（公務員）

堀内　裕史　平成12年卒

この2年間はワークスタイルとライフスタイルの著しい変化にひたすら適応することに腐心しました。大学入学のタイミングで上京し、そのまま東京で就職、結婚し、息子2人にも恵まれましたが、2019年末頃に長男の就学を機に故郷へ戻ることを決断。2020年春から地元塩山に戻り、卒業以来あまり乗っていなかった車の運転を始めたりしながら、家業を継ぐ予定でしたが、間もなく新型コロナが一気に流行。地元に戻ったのに友人にもろくに会えずもどかしい日々でしたが、リスクヘッジの趣旨もあり東京の仕事を山梨からリモートでしばらく継続していました。

その後、新しい働き方や生活にも慣れ、そろそろ東京の仕事にもメドをつけようと考え始めた矢先、不思議なご縁が重なり、2022年からはなぜか米国ニューヨーク州へ移住し、日々四苦八苦の連続ですが現地でなんとか働き、家族と生活しております。

出国にあたり温かい送別の言葉をくれた一高の同期と今も分け隔てなく繋がれていることは、私にとって非常に大きな財産であると改めて感じます。（Deloitte Tax LLP ニューヨーク事務所勤務）

中丸　純　平成12年卒

子育てと仕事です。2人のやんちゃ盛りの子供がいるのですが、コロナ禍ということで外に遊びに行くということもなかなかできず、子供もカミさんもストレスがたまるだろうと思い可能な限り家事や育児を頑張ったつもりです。

仕事に関しましては、観光業に密接に関係しているものですから、この2年間は新商品開発やコラボ企画など県外の方にも発信できるような仕事に取り組みました。皆様方にも楽しんでいただけるよう頑張っていきますので今後もよろしくお願いいたします。

（株式会社桔梗屋 代表取締役社長）

上村(丸登)　早織　平成12年卒

2年前、新型コロナで全国一斉休校になりました。その時、長男は思春期になりかけの小学5年生の終わり。急激な身体の成長、反抗期が訪れた時期でもあります。そこからの2年。長男との向き合い方を試行錯誤の日々です。今中学2年生ですが、まだまだ反抗期は続いています。

関西在住（ダウンタウンの地元近く）なので、息子の言葉は思いっきりテレビで聞くような関西弁です（笑）。「もうええって！！！」「アホ、ボケ、カス！！」などなど。めちゃめちゃこわーい！！！

ラグビーしている時だけは、かっこよくて素敵なんですけれど……。そんな長男の反抗期を、可愛い3歳の次男で癒されながら、乗り切ろうと思います。

（理学療法士）

諸角　進介　平成12年卒

長男の少年野球に精を出しました。息子のプレーする姿に昔の自分を重ね、タイムスリップしたかのようでした。

菊地　平薫　平成12年卒

僕がこの2年間頑張ったことは、子供のやりたいことを全力で一緒に楽しんであげたことです。

トイ・ストーリーのウッディやバズの声真似で過ごしたり、習い事のダンスや英会話も一緒に楽しみながら全力投球してきました。一時期は、アニメキャラの声真似をしすぎて自分の声が分からなくなったくらいです。

それから、40歳にして20年以上ぶりにバスケを始めました。地元の社会人サークルに所属し、バスケ部だった頃を思い出して頑張っています。20代を中心としたバスケサークルにもかかわらず、今でも20年前のバスケ部の経験が通用していることに高校時代の部活動のありがたさを感じています。

そして最後に、第二子を授かり3時間おきの授乳という寝不足拷問に耐えながら仕事をこなしてきたことです。夜中の3時に寝て8時半に出勤の数か月は昼間の睡魔が拷問的でしたが、それもまた今しかできない金の思い出です。

（盛田甲州ワイナリー株式会社勤務@勝沼町）

八巻　友也　平成5年卒

5年前に結婚し、昨年第一子が誕生しました。

独身時代を充分すぎるほど謳歌したので、これからは妻と息子、そして愛犬のために人生を謳歌したいと思います。

佐々木　知菜　平成16年卒

3月末まで都内保育園勤務でした。社会情勢により制限されることもしばしばありましたが、子どもの成長は一時も待ってはくれません。常に「子どもがどんな経験をしたがっているのか、それに対して私たち大人がどんな願いを込めるのか」を念頭に子どもたちと対峙してきました。人との交流なくして健全な成長はありえません。安心安全な心の通う場を大切にしたいと改めて感じています。

未来first
～絆という宝物を胸にがんばるじゃんけ～

ご協力くださった皆さま、友人知人のかたにお声がけくださった皆さま、
ありがとうございました。
続きは懇親会に繋いでいきます。

日新鐘2022
協賛会社
協賛者

（敬称略）

本年も多数のご協賛をいただき、誠にありがとうございました。

アーキシップ帆
認定こども園　朝日幼稚園
㈱アールピージーラボ
㈲アウテリアあかざわ
アソシアコーポレーション㈱
飯田 冨美子（S33卒）
井上税務会計事務所
小田切 仁（S56卒）
勝村 良一（S53卒）
甲府一高昭和55年卒同窓会（五五会）
こんちゃんと楽しい仲間たち
こんちゃんと楽しい仲間たちPART2
㈱サイキ商事 レストランバーSAIKI
㈱シオザワ
島田 敏男（S52卒）
清水 洋一
清水 喜彦（S49卒）
谷口 百合子（S36卒）
医療法人　なかざわ歯科医院
原　護（S40卒）
パンちゃんの会
串揚げ 深澤亭
VECTOR㈱
三田雀鬼会
向山 敬介（S56卒）（書士）
リーガルエキスパート司法事務所
甲府一高　昭和58年卒業生有志
赤池　修／赤池 正男／安達 実名美／跡部　亨
穴水　努／雨宮 裕樹／有賀 久浩／井上 文人
上野 千鶴／宇津木 吉美／大塚 喜久美／加賀美 聖一
金丸 隆夫／川合 孝徳／北 美竹代／小泉 徳昭
駒形 かおる／櫻井 直美／塩澤 英洋／塩沢 充正
志賀 由美／清水 成美／清水 由美／庄司 和彦
白川 さおり／鈴木 信幸／高坂 正巳／高山　中
竜澤 光朗／鶴田 香予子／東福寺 愛美／土橋 八恵
中澤 敏明／中塚 裕子／長田 孝子／中山 浩文
橋本 百合／長谷部 亮子／濱　悦子／春山　操
深澤 宏樹／福田　薫／福田 千絵／藤原 千津子
古屋 文月／保坂 邦子／前田 朝美／松谷　俊
三浦 博美／三井 貴美也／簑和田 直子／矢野 佳作
山本 淳仁／若尾 一広

この他にも多数のご協賛をいただきました。

日新鐘2022 広告目次

本年も多数の広告掲載 誠にありがとうございました。

あ
㈱ＡＣＴクリエイティブオフィス……64
㈱アセッツアールアンドディー……63
㈱アドヴォネクスト……54
荒川外科肛門外科……58
㈲アンリミット・ジャパン……53

い
石原ヒサシダンススクール……61

う
㈱うちだ……60

え
ＳＴＭＡ……59
ＮＰＯ法人 Ｃ＆Ｃクラブ……52

お
王文社……55
大泉はなわクリニック……57
沖ガラス㈱……62
おぐちこどもクリニック……55

か
㈱甲斐國……22
笠井クリニック……57
カーサ・フェルテ……22

き
KIMMY's AHEAD㈱……58
ギャラリー・フェルテ……22
キュイエット……56

く
㈱草津温泉……61
群芳園……64

け
㈱京葉マツヤデンキ……22

こ
㈲小穴鋳物所……63
甲府一高東京51会……53
甲府一高59会……31
甲府一高湘南同窓会……64
甲府一高東京50会……56
甲府南ライフケアセンター……62
医療法人社団 孝和会 能見台パートリア……22
㈱コスモエナジー……65

さ
サイキデザイン……65
さいとうクリニック……62
佐野工建㈱……60
茶房 どんぐり……65
㈱サンキョー……54
㈱サンリオ……63

し
ＪＭＣ甲府……65
㈲篠原電研……63
㈲シミズ酒販……59
シミックホールディングス㈱……31
㈲ジャパンアートメモリー……62
順聖クリニック……64
㈱ＳＨＯＥＩ……62
㈱正直堂……58
昭和42年卒一同……63
昭和43年卒 よん燦会……65
昭和44会……55
昭和53年卒業生一同……54
昭和54年卒業生一同……53
昭和57卒 東京同窓会【Team57 TOKYO】……56

す
須貝整形外科医院……54
すが建設……62
鈴木製菓㈱……63
住友不動産㈱……64

せ
㈱清流舎……64

た
大志堂薬局……63
泰和電気工業㈱……57
㈱タカラレーベン……53
武田神社……65
㈱たけまる……60

㈱たまパッケージ……65
㈱タンザワHD……表4
ち
千代田セレモニーグループ……52
て
㈲ディレクターズ東京……55
㈱でり坊……60
㈱テレビ山梨……60
と
東京31会有志(7社)……22
東京三五会……65
東京38会……54
東京47会……62
東京49会……55
㈱東和……61
凸版印刷㈱……61
㈱トミオカテニス(エストテニスクラブ)……63
な
㈱内藤ハウス……31
㈲中川看板店……63
中澤経理事務所……64
なかざわ耳鼻咽喉科・頭頸部外科クリニック……62
㈱中嶋文夫プラスディー・エイ設計事務所……61
㈱中村……63
ナチュラルファーム溝口……62
に
二宮 公俊……14
日本テレビ放送網㈱……65
財団法人 日本盲導犬協会……22
㈱ニュー平和……62
ね
ネッツトヨタ甲斐㈱……63
の
㈱NOBU……65
は
㈱はくばく……57
㈱早野組……表2
ひ
ひはらクリニック……60
百新会一同(昭和56年卒業生)……61
平井幸男事務所……60
ふ
㈲ファーブル保険ガイド……60
フォネットグループ……56
富国生命保険相互会社……56
富士観光開発㈱……62
富士急行㈱……52
藤沢脳神経外科病院……22
へ
㈱ベストアドバイス……59
み
ミートプラザ よだ……64
みかみ歯科医院……64
ミキ建設……64
三井歯科医院……64
㈲宮川レッカー……65
め
明和税理士法人……65
も
望月事務所(あいおいニッセイ)……62
㈱望月商会……59
門西栄一法律事務所……63
や
㈱やさしい手甲府……54
医療法人社団慈広会 矢崎胃腸外科……57
八巻法律事務所……61
山梨新報社……59
㈱山文……22
ゆ
㈱UG都市建築……59
㈱ユーティーワイ企画……60
り
林野内科医院……61
ろ
㈱ロード……65
わ
特定非営利活動法人 わたげの会……60

千代田セレモニーグループは首都圏と山梨で全44施設

千代田セレモニーグループ

株式会社アピオセレモニー
〒409-3897 山梨県中巨摩郡昭和町西条3600
アピオ セレモニー
☎055-222-1212(葬儀)
アピオ グランドステージ
☎055-222-1111(婚礼・衣裳)

HOTEL春日居
〒406-0004 山梨県笛吹市春日居町小松855
☎0553-20-2000

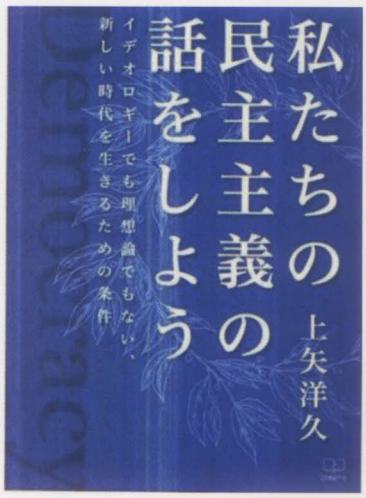
現在は、日本も、世界も、混迷する時代です。

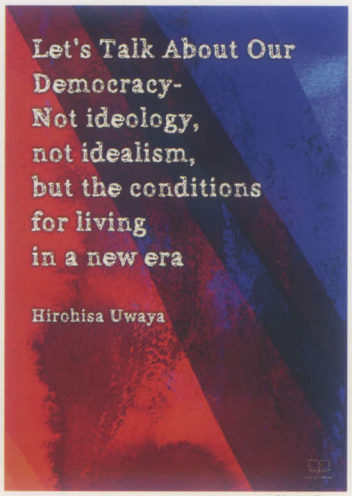
災害、原発、沖縄、格差、農業、財政、近隣諸国との外交・・・。

ロシアのウクライナ侵攻問題では、民主主義と平和が更に危機となりました。

そこで私は学者ではありませんが、約20年間のNPO活動をとおして、一つの理論をつくり、それを実践し、本にしました。

多くの同窓生がお読みになって下されば幸いです。

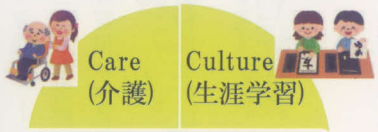




<英訳版>

amazonにて購入可能

NPO法人 C&Cクラブ運営理念



新たな民主主義を目指す！

https://tetote.or.jp/toppage

NPO法人 C&Cクラブ
上矢 洋久(S38卒)

美味しさそのままサスティナブル。

富士山が育んだ天然水を環境に優しい紙パックにしました。

プラスチックゴミ削減で環境保全

手にフィットする持ちやすさ

軽い力で開けられるキャップ

栄養成分 100mlあたり

- 熱量・蛋白質・脂質・炭水化物・・・0
- ナトリウム 0.54mg(食塩相当量0.001g)
- カルシウム 0.95mg
- マグネシウム 0.36mg
- カリウム 0.13mg
- pH8.0
- 硬度 38mg/L
- バナジウム 60μg/L

FUJI MINERAL WATER
富士ミネラルウォーター株式会社
TEL:03-3370-3357

WEBサイト

祝 第62回 甲府中学 甲府一高 東京同窓会

応援！母校と私たち

第58回当番幹事 昭和54年卒業生一同

第62回 甲府中学・甲府一高 東京同窓会

感　謝

長期間にわたり新型コロナウイルスの感染拡大防止や治療などに日々ご尽力されている行政機関、医療従事者の皆様に深く敬意を表し感謝申し上げます。
また、東京同窓会の開催に向け、努力されてきた幹事学年の皆様に心から御礼申し上げます。

昭和51年卒業生（東京51会）一同

有限会社アンリミット・ジャパン

代表取締役　大澤　敬造（昭和59年卒）

プライベートと仕事を
両立し、活躍できる方を
求めています！

〒206-0025　東京都多摩市永山1-1-4 プレゾンビル
TEL：042-355-7118（担当：小林）　FAX：042-355-7118
E-mail：info@unlimit-j.co.jp　HP：https://www.unlimit-j.co.jp/

レーベン甲府中央
総戸数／70戸　竣工／2021年11月

株式会社タカラレーベン
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-8-2 鉄鋼ビルディング16階

山梨そして全国の受験界を開拓し続ける。

甲斐ゼミナール
甲斐大学予備校

Boys, be ambitious.

個別指導 T.O.P　無学年進級方式 学力向上 わかるくん　個別自立学習 学力増進 Best Navi（ベスト ナビ）

SMARTree English　パズル道場　通信教育　でてこい、未来のリーダーたち。四谷大塚　東進衛星予備校　推薦対策予備校

甲斐ゼミ高等学院　甲斐ゼミ学習支援スクール　VRライブ講座　オンライン個別指導

公式HP

山梨・長野・静岡に広がる総合進学塾・予備校

山梨県甲府市武田 1-2-19 ☎055(251)5560(代)

日本一おいしいお米ができました。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS × たとみ農園

https://tatomifarm.myshopify.com

井上雅雄（第18代同窓会長・昭和27年卒）
井上尊晶（昭和63年卒）

中　高

祝

甲府中学・甲府一高東京同窓会

令和４年

東京38会

医療法人　幸仁会

須貝整形外科医院

院長　須貝　敦（昭和 58 年卒）

㈳日本整形外科学会認定　整形外科専門医

HAND TO HEART

在宅介護
やさしい手甲府

ホームページ

甲府本部：山梨県甲府市上石田 1-7-14

☎: 055-236-6210

祝

第62回 甲府中学・甲府一高東京同窓会

～たて・よこ　織りなす絆～

東京四四会

祝 第62回 甲府中学・甲府一高 東京同窓会

昭和49年卒業生一同

S49甲斐犬
のイチコウ

末永い同窓会のご発展と皆様のご健勝を祈念しております。

難病の子どもたちのためのキャンプ場
あおぞら共和国を支援しよう!

みんなのふるさと　7月発刊予定

あおぞら共和国物語

甲府中学・甲府一高同窓生の皆様に、ご寄付のお願いをしてきました「みんなのふるさと夢プロジェクト」(難病の子どもたちのためのキャンプ場(あおぞら共和国＝北杜市白州町-レスパイト施設)の建設)も、おかげさまで順調に進行しています。多くのご支援を賜り、心より御礼申し上げます。引き続きご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。この度、"あおぞら共和国"の意義と素晴らしさを伝える小冊子を作成しました。ご興味のある方はぜひ、ご連絡をお願いします。

甲府一高あおぞら会 会員募集中

〒252-0233 神奈川県相模原市中央区鹿沼台1-7-7 おぐちこどもクリニック内
甲府一高あおぞら会行　https://ymkp.net/aozora/

おぐちこどもクリニック院長　小口 弘毅（45年卒）

いしだ壱成

公式 YouTube

チャンネル登録
お願いします！

登録はこちらから▶

D2

お問い合わせ先
有限会社
ディレクターズ東京
03-5733-0830

---

total printing company
business card & envelope
computer form
web design
& more
we will make you happy

obunsha

1-6-9 shimoiida,kofu,yamanashi 400-0064 japan
phone:055-226-2497 facshimile:055-222-4785

フコク生命は、
「ハローキティ」とともに
夢と安心をあなたにお届けします!!

© 2022 SANRIO CO., LTD. APPROVAL No. L621729
「ハローキティ」は、フコク生命のイメージキャラクターです。

富国生命保険相互会社　〒100-0011 東京都千代田区内幸町 2-2-2　☎ 03-3508-1101(大代表)

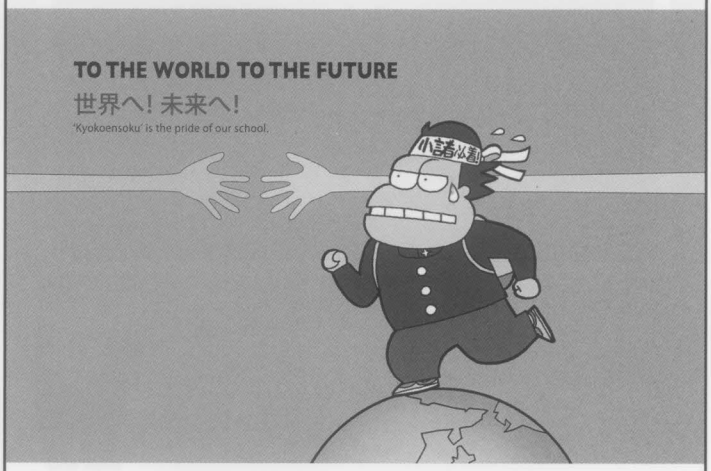
すてきな未来応援します
フコク生命

㊞広 - 秘書 -0154（2022.7.9）

Restaurant Français
キュイエット
La Cueillette

ぶどう畑の中のフレンチレストラン
キュイエット
オーナーシェフ　山田　真治（昭和58年卒）
〒407-0174 山梨県韮崎市穂坂町三ツ沢 1129 番地
TEL ／ FAX0551-23-1650 URL http://www17.plala.or.jp/Cueillette/

祝
第62回 甲府中学・甲府一高 東京同窓会



昭和50年卒一同（東京50会）

スマホ、ケータイ、インターネット…
通信のことなら
フォネットグループ
https://phonet.jp/

フォネットグループCEO
清水 栄一
（昭和55年卒）

フォネットグループCOO
上田 昌之
（昭和55年卒）

祝 第62回 甲府中学・甲府一高東京同窓会
TEAM57 TOKYO
S57年卒東京同窓会一同

Staple Foods Frontier

～ 穀物の感動的価値の創造 ～

はくばく

The Kokumotsu Company

人と穀物をおいしさと健康で結ぶ

本社・工場／〒409-3843 山梨県中央市西花輪4629
お客様相談室（受付時間9:00～17:00 土曜・日曜・祝日を除く） TEL.0120-089890

株式会社 はくばく
www.hakubaku.co.jp

配電盤・制御盤・継電器メーカー

泰和電気工業株式会社

代表取締役会長 **小泉 敦夫**
（昭和 29 年卒）

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-16
第 3 小森谷ビル 2F
TEL 03-3432-2521 FAX 03-3432-2527

笠井クリニック
KASAI CLINIC

院 長 医学博士
㈳日本内科学会認定内科専門医 **笠井 富貴夫**

診療科目
内科／小児科／心療内科／胃腸科／皮膚科／内分泌代謝科／尿もれ

特殊外来
糖尿病／高血圧／甲状腺／肥満／肝胆膵胃腸／高脂血症／心療内科／花粉症／ピアス／ニキビ／スキンケア外来（ニキビ、アレルギー、アトピー、急性・慢性の皮膚トラブル）／各種診療

有名大学病院、一流大学病院との連携強化

当院の3つのお約束
1. 待ち時間を短くします
2. やさしさと笑顔を忘れません
3. 病状、お薬の説明をていねいにします
どんなことでもご質問ください。

企業・住民健診事業

随時受付 診療時間 休診日 水・日・祝日
平日／AM9:00～12:00 ／PM3:00～7:00
土曜日／AM9:00～12:00

☎042-551-6611
http://www.kasai-clinic.com/

大駐車場あり
福生市加美平 1-15-6 フルヤビル1F
福生駅東口バスのりば ①②から2つ目・六小バス停前

大泉はなわクリニック

院 長
花 輪 滋
（昭和41年卒）

〒178-0063 東京都練馬区東大泉 1－28－7
フォンターナ琴坂 6F
TEL（03）5933-3870

日新鐘の活動を応援いたします。

医療法人社団慈広会

前理事長 **矢崎 浩** （昭和 35 年卒）
理事長・院長 **三神 俊史** （昭和 44 年卒）

http://www.jikoukai.com/

矢崎胃腸外科【診療科目：消化器外科・内科・肛門外科】
〒252-1113 神奈川県綾瀬市上土棚中 1-1-16
TEL 0467-76-6211

介護老人保健施設メイプル
〒252-1124 神奈川県綾瀬市吉岡 2361-7
TEL 0467-76-8001

医療法人社団 松田会

ARAKAWA PROCTOLOGY

荒川外科肛門医院

肛門疾患手術　胃・大腸内視鏡検査　痔核注射療法

•女性医師常勤　•日曜午前も診療　•入院設備有　•点滴鎮静麻酔による検査実施

院長 **松田 好雄**（昭和35年卒）　**大高 京子・松田 大助・山村 冬彦**

JR常磐線三河島駅より徒歩5分　京成線新三河島駅より徒歩5分　千代田線町屋駅より徒歩8分

03-3806-8213　東京都荒川区荒川4-2-7（荒川区役所近く）

共感動画を創るテレビ集団

未来を動画で切り拓く

KIMMY's AHEAD

共感動画クリエイター

キミーズアヘッド株式会社

代表取締役 佐藤公彦

tel : 03-6432-0909　mail : info@kimmys.jp

オフィス環境づくりで、働き方を変える会社です。

株式会社 **正直堂**

取締役会長　宮城 秀治郎（昭和28年卒）

営業部長　斉藤　恭一（昭和56年卒）

トモエソース販売元

有限会社 シミズ酒販

代表取締役 清水　昌行（昭和58年卒）

〒400-0822 山梨県甲府市里吉４－４－１６
酒販部 055－235－7725 ／食品部 055－232－1666 ／ FAX 055－227－0380
E-mail: simizu3@alto.ocn.ne.jp
http://www.simizu3.com

TRUSTED SINCE 1992

株式会社ベストアドバイス

井　上　　隆　（昭和54年卒）

〒171-0022 東京都豊島区南池袋1-16-4 NKビル1F
T. 0120-010-492　F. 0120-894-492
www.bestadvice.co.jp
info@bestadvice.co.jp

S・T・M・A

日本人の心に刻まれた 魅力あふれる神様たちの物語

現代文付

古事記繪はなし

日本乃神様

遊川玄耳 説明　名取春仙 編画

好評発売中!!

B5版 312ページ ソフトカバー
山梨新報社 刊 ISBN978-4-9900752-0-0 1,500円（本体価格）

お申し込み お問い合せ　株式会社 山梨新報社
TEL:055(237)8121 FAX:055(237)8142
URL http://www.y-shinpou.co.jp

UG都市建築

代表取締役社長　山下 昌彦　（昭和45年卒）
〒160-0004 東京都新宿区四谷三丁目12番地 フロンティア四谷 5F
TEL 03-5369-3120　FAX 03-5369-3600　URL http://www.ugtk.co.jp

◎宝石・貴金属・製造仲間卸
◎不動産賃貸業　アパート・マンション・貸しビル店舗

株式会社 望月商会

代表取締役社長 望月正美
取　締　役 望月聖二（昭和58年卒）

本社：山梨県甲府市湯田二丁目19－9　TEL.055－237－0355　FAX.055－226－1670

特定非営利活動法人　わたげの会

共同生活援助事業所　フォルティナ
共同生活援助事業所　ファミール

NPO法人
わたげの会

所　長　山本　淳仁（昭和58年卒）

〒400－0011 山梨県甲府市積翠寺町1003番地　TEL.055－253－2611　FAX.055－253－0881

チラシ・パンフレット・連続伝票・看板・のぼり・うちわ
TAKEMARU
株式会社たけまる
〒400-0105 甲斐市下今井3539
TEL 0551-28-4655　FAX 0551-28-4590
働くママのフォトブック
1冊 980円（税抜，送料込）～
※サブスクリプション・プランの場合
Citrus
http://hello-citrus.jp

UTY

おいしいお魚と旨い地酒　各種宴会承ります。
築地 魚よし
田中與志子（昭和50年卒）
〒105-0001 港区虎ノ門5-2-8 加賀ビル2F
TEL 03-3433-5611
東京メトロ日比谷線神谷町駅2番口 徒歩1分

UTY AD.
総合広告代理店
ユーティーワイ企画
http://utyad.jp

sano
佐野工建株式会社
engineering & construction inc.
〒409-3843 山梨県中央市西花輪4027-8
TEL.055-273-1230　FAX.055-273-3254
山梨県知事許可　給排水衛生設備工事　上・下水道工事
冷暖房・空調設備工事　水廻りのリフォーム　土木工事
NPO ECO-CITY 特約エコアート舗装指定工事店
https://www.sanokoken.rimiyu.com
佐野（旧姓　成島）真弓　昭和58年卒

ひはらクリニック
日原　徹（昭和52年卒）
〒158-0094 東京都世田谷区世田谷玉川3-21-10 ドミルチエ1F
TEL 03-3708-2005

うちだの着もの
株式会社うちだ
内田 幸雄（昭和40年卒）
〒161-0033 東京都新宿区下落合3-21-2
TEL 03-3951-8528
FAX 03-3951-8538
URL ：http://www.uchidanokimono.co.jp/

豊かなる人生のお手伝い
㈲ファーブル保険ガイド
深澤　満 昭和58年卒
山梨県甲府市中央2－5－21 TEL055－221－1166

京王線／国領駅5分
●不動産売買、相続、贈与等の登記　●会社設立、役員変更、増資等の登記
司法書士
平井幸男事務所
〒182-0022 東京都調布市国領町4-46-17 エクレール国領301
TEL. 042-485-4330　FAX. 042-485-4388
（昭和41年卒）

すべてを突破する。
TOPPA!!!
TOPPAN
凸版印刷株式会社 https://www.toppan.co.jp/
昭和55年卒　専務執行役員　穴水 芳光

石原ヒサシ
DANCE SCHOOL
162-0843 東京都新宿区市谷田町1丁目2番地
ランゴスタビル3F
Tel 03-3235-5311
Fax 03-3260-2133
WebSite http://ishiharadance.com
Email info@ishiharadance.com

八巻法律事務所
〒400-0024
山梨県甲府市北口3－9－18
TEL 055-288-0228
FAX 055-288-0238

草津温泉
加温加水せずに
源泉掛け流しの天然温泉です
甲府市上石田1－10－12
TEL 055－222－4216
堀内 美保 昭和58年卒

祝
第62回　甲府中学・甲府一高東京同窓会
Boys be Ambitions!
William Smith Clark
百新会一同　(昭和56年卒業生)

設計監理
●分譲マンション　●事務所ビル
●賃貸マンション　●テナントビル
●住宅　●教会他
一級建築士事務所
株式会社 中嶋文夫+D・A設計事務所
代表取締役 一級建築士 中嶋 文夫
(昭和46年卒)
〒180-0006 東京都武蔵野市中町2-5-24 中嶋ビル4階
TEL:0422-51-8417（代表） FAX：0422-51-8436（代表）
0422-51-8140　0422-51-1146（専用）
E-mail:da-sekkei@tokyo.email.ne.jp
http://www.ne.jp/asahi/da-sekkei/nakajima

林野内科医院
院長 林 野 久 紀 (昭和48年卒)
林 野 妙 子 (昭和48年卒)
〒400-0117　山梨県甲斐市西八幡2436
TEL 055－276－2816　FAX 055－276－8935

東 株式会社 東和
一般貨物自動車運送事業・取扱事業・貸倉庫業
本社営業所
〒400－3853 山梨県中巨摩郡昭和町築地新居1598－3
TEL 055-275-1080　FAX 055-275-1081

suga woodworking

太陽光発電取扱店

すが 建設

S W スーパーウォール工法

代表 一級建築士

須賀 俊夫

須賀建設一級建築士事務所

〒400−0007 甲府市美咲 2-8-12

TEL&FAX 055-254-7567

E-mail・t-t-suga@mx2.nns.ne.jp

アレルギー科 気管食道科 補聴器相談

なかざわ耳鼻咽喉科・頭頸部外科クリニック

NAKAZAWA ENT&HN Clinic

※花粉症の方は当クリニックへ

診療時間のご案内

	月	火	水	木	金	土
午前9:00〜12:00	○	○	○	○	○	○
午後3:00〜6:00	○	○	○	×	○	△

水曜日午後:補聴器外来(予約制)

〈休診日〉日曜・祝日・木曜午後

※土曜は午後2:00〜4:00まで

甲府市飯田2-3-9

(国際交流センター南)

☎(055) 233-8744 (ミミ ハナヨシ)

(薬袋レディースクリニック1F)

ホームページ https//nakazawa-ent.com

さいとうクリニック

院長 **齊藤 昭人** (S47 年卒)

〒257-0034 神奈川県秦野市大秦町 1-8 トミービル３Ｆ

TEL.0463-84-5222

祝 第62回東京同窓会

東京47会(昭和47年卒)一同

有限会社 **ジャパンアートメモリー**

東京都中野区新井 1-11-8-3F tel.03-3388-8266

http://www.artmemory.co.jp/

代表取締役 朱宮 明美 (S54 年卒)

株式会社

SHOEI

Human,Handcraft,Creative

〒400-0014 山梨県甲府市古府中町4914-1

頑張った成果が形に残る仕事です！

NSG GROUP 沖ガラス株式会社

〒130-0004 東京都墨田区本所 4-19-3 本所吾妻橋 DJﾋﾞﾙ 3F

TEL:03-5637-7480 FAX:03-5637-4200

常務執行役員 本部長 山口 芳宏(S.56卒)

医療法人 立星会

リハビリテーションを強化していることを特徴とし施設です。

通所リハビリテーション（介護予防）

リハビリ目的の短時間利用もできます。

短期入所療養介護（介護予防）

機能維持・向上を目的とした短時間に集中的な個別リハビリがご利用できます。

施設サービス

在宅復帰に向けた、３ヶ月間の短期集中リハビリがご利用できます。

お気軽にお問合わせください。スタッフ一同お待ちしております。

介護老人保健施設

甲府南ライフケアセンター

◆甲府市南地域包括支援センター（甲府市委託）

◆甲府南指定居宅介護支援事業所

電話 055−241−3333

http://kofuminamilife.jp

美味しいお米・新鮮なお野菜を丹精込めて作ってます

ナチュラルファーム溝口

溝口（旧姓 本間）暁美 昭和48年卒

山梨県北杜市武川町山高

秀麗な富士山を眺めながらプレイを楽しむ個性豊かな３コース

富士レイクサイドCC・富士桜CC・敷島CC

富士観光開発株式会社

TEL0555-72-1188 http://www.fujikanko.co.jp/

ENEOS

笑顔いっぱい・元気いっぱい・あふれる心くばり

(株)ニュー平和

甲府市伊勢4-34-10 TEL055−237−9450㈹

カースタレンタカー

カースタ CARLIFE STADIUM

甲府市伊勢4-31-1 TEL055-231-5921

セルフ&カーケア 湯村店・平和通り店・貢川店

車検＆修理センター・鈑金＆塗装センター

あいおいニッセイ同和損保

代理店 望月事務所

望 月 真 (昭和 53 年卒)

〒400-0042 甲府市高畑 2-17-12

TEL.055−228−6677 FAX.055−228−5596

祝
第62回東京同窓会
昭和42年卒一同

保険薬局
大志堂薬局
どちらの処方箋も受け付けます
〒154-0004　東京都世田谷区太子堂３丁目20－７
TEL・FAX：03－3411－9115

当面の間、パーク内のキャパシティ制限をするため、ピューロランドの入場にはパスポート（年間パスポート含む）と、来場予約が必要となりますピューロランドHPもしくはピューロランド公式アプリより「ピューロランドファンクラブ」にご登録いただき、来場予約をお願いいたします。ご来場日当日でもキャパシティに空きがあれば来場予約いただけます。（当日パーククローズ90分前まで）

●営業時間・休館日はホームページをご確認ください。
※ここに記載されている内容については予告なく変更する場合がございます。(2022年4月現在)
●所在地：〒206-8588 東京都多摩市落合1-31
「多摩センター駅」下車徒歩5分

営業日時、イベント、各種情報などのお問い合わせ
サンリオピューロランドゲストセンター
9：30～17：00（休館日を除く）
TEL.042-339-1111

お得で楽しい情報いっぱい
www.puroland.jp

© 2022 SANRIO CO., LTD. TOKYO, JAPAN 著作 株式会社サンリオ

SIGN
有限会社 中川看板店
〒400-0112
山梨県甲斐市名取676-3
TEL（055）206-0353
FAX（055）206-1184
mail：sign-n@nns.ne.jp

株式会社 中村　住宅　商業店舗
新増改築・リフォーム
山梨県知事許可（般-22）第8957
代表取締役　中村　和雄（S60年卒）
〒400-0214 山梨県南アルプス市百々2101-1
TEL.055-280-0177 FAX.055-280-0178

Netz Another story
ネッツトヨタ甲斐
“人と人の繋がりの大切さに感謝”
新車　U-car
サービス　保険　au
ヴォクシー

山梨県甲府市朝気 3-10-21
☎055-232-5511
https://www.netz-kai.co.jp/
代表取締役社長 小林 達也

EST TENNIS CLUB
https://estclub.co.jp
株式会社 トミオカテニス
甲府／〒400-0822 山梨県甲府市里吉3-8
八田／〒400-0202 南アルプス市下高砂305
明野／〒408-0204 北杜市明野町上手8304

SHINODEN シノデン
有限会社 篠原電研
〒400-0048 甲府市貢川本町4－35
TEL 055(222)8885(代)
FAX 055(222)8891

一高校章焼印　どらやき
㈱鈴木製菓株式会社

栗しぐれ

京桃山
ひとつ、ひとつ、丁寧にあんから造る半生菓子。
代表取締役社長 鈴木浩文（S61年卒）
〒400-1508 山梨県甲府市下曽根町3400-1（山梨県食品工業団地内）
TEL:055-266-5188(代) FAX:055-266-3681
info@suzukiseika.co.jp

その鈍い輝きと、感触に魅せられて
融通のきく鋳物屋
山梨県甲府市下飯田4丁目4－18
TEL.055(222)9021 FAX.055(222)9272

ASSETS R&D
不動産鑑定評価・建物状況調査
株式会社アセッツアールアンドディー
東京都新宿区信濃町12-1信濃町SANMOビル8階
TEL 03-5366-0421　〒160-0016
HP https://assets-rd.jimdofree.com/
代表取締役　飯窪光隆（昭和53年卒）
不動産鑑定士　一級建築士

門西栄一法律事務所
弁護士 門西栄一
（昭和43年卒）
〒160－0004 東京都新宿区四谷4－3－29
伸治ビル7F
TEL 03－5363－7283　FAX 03－5363－7284

Fresh Meat &
Home made Delicatessent

URL http://www.mp-yoda.com
E-mail:info@mp-yoda.com

ミートプラザ よだ

斉 藤 義 一

〒400-0123
山梨県甲斐市島上条187－4
TEL 055(277)2037
FAX 055(277)6311

MIKA DENTAL CLINIC

みかみ歯科医院

三神 厚　S48年卒　　三神智美　S50年卒

〒187-0032 東京都小平市小川町2-1971エッグビル2F TEL042-345-3060
http://www. mikami-dental.jp

祝

第62回甲府中学・甲府一高東京同窓会

永遠の1（一高）
～未来への襷～

Ask what we can do in TOKYO for ICHIKO

昭和53年卒業生（東京53会）一同

Miki KENSETSU

ミキ建設

登録番号　梨第3641号
山梨県知事　許可（般-19）第9142号

赤 池 俊 樹（昭和58年卒）

http://mikikensetsu1.com
〒400-0053 山梨県甲府市大里町1331 TEL.055-288-1692 FAX.055-288-1693

祝

第62回 甲府中学・甲府一高 東京同窓会

甲府一高 湘南同窓会

http://ichikoshonan.livedoor.blog/

会　長　　丹沢 富雄（昭和40年卒）
幹事長　　堀口　修（昭和44年卒）

全国にあなたのお花が贈れます
お花の専門店

Florist **群芳園**

〒400-0026 甲府市塩部1－9－10
TEL·FAX.055(252)8084
代 表 榛 原 洋 一（S58年卒）

三井歯科医院

三井　豊
（S58年卒）

山梨県中央市布施2101-2
TEL（055）273－2027

JGJA
JAPAN GOLF JOURNALIST ASSOCIATION

日本ゴルフジャーナリスト協会 会長
Yahoo!ニュース公式コメンテーター

小川　朗
（昭和53年卒）

日刊ゲンダイ毎週金曜日「ホントにゴルフは面白い！」
ゴルフ・グローバル「幻のゴルフ場」
GEW「ゴルフ プラスアルファ」
ALBA Net「名勝負ものがたり」
ウェブサイト「みんなの介護」　連載中
「終活ジャーナリストが明かす、発信力を身につける方法」セミナー開催中
日本運動記者クラブ会友
（一社）終活カウンセラー協会認定終活講師

株式会社清流舎　代表取締役社長
〒135-0016 東京都江東区東陽4-12-20-511
TEL&FAX　03（3646）7919
e-mail:tochro@outlook.jp

住友不動産

〒163-0219　新宿区西新宿2-6-1新宿住友ビル

中村 芳文（S44年卒）

順聖クリニック

内科・皮膚科
リハビリテーション科
睡眠時無呼吸外来
医療用光治療

入院設備有

甲府市湯村1－5－19
TEL（055）251－2121㈹
FAX（055）251－0485
院長 内 藤　修（昭和58年卒）

中澤経理事務所

税理士 中　澤　謙一郎（昭和53年卒）
村　松　直　樹（昭和58年卒）

〒400-0031 甲府市丸の内一丁目14－3
TEL(055)235-1296 ／ FAX(055)235-1280

トータルビルメンテナンス

株式会社 ACTクリエイティブオフィス

代表取締役　山 村　周 三（昭和58年卒）

〒400-0003 山梨県甲府市塚原町905
TEL／FAX.055－254－0426

祝

東京三五会

昭和35年(1960年)卒業生 有志

優れたソフトウェアを開発する「e職人」のプロ集団です

株式会社 コスモエナジー

代表取締役 軽石 泰孝 (昭和50年卒)

〒171-0033 東京都豊島区高田2－18－23 シャトー目白2F

TEL:03-3986-0048 FAX:03-3986-5794

http://www.cosmoenergy.co.jp/

炭火焼&手打ち蕎麦

佐Le蔵

SASUGA•Le KURA

〒104-0061 中央区銀座8-7-7 JUNOビル 6階 ☎03-6228-5586

土曜日:11:30～14:30／17:30～22:00(売切仕舞) 定休日:日曜日・祝日

自動車部品の製造、組立、物流

株式会社 たまパッケージ

代表取締役 太田 清士 (S57年卒)

本 社 〒350-1302 埼玉県狭山市東三ツ木 40-1

TEL 04-2969-1055 FAX 04-2969-1057

E-mail:k.ota@tamapackage.co.jp

御礼

2021年 年間個人視聴率『三冠王』

11年連続No.1

日本テレビ放送網株式会社

代表取締役 会長執行役員 大久保 好男

(昭和44年卒)

明和税理士法人

代表社員

公認会計士／税理士

小 林 明 人

(昭和53年卒)

〒102-0072 千代田区飯田橋 2-5-2 エマタナカビル

TEL 03(5215)1196 FAX 03(3221)7836

山梨の結婚相談所 創業35年 きっと叶う、きっと出会う。

JMC甲府

(昭和37年卒)

〒400-0031

甲府市丸の内1丁目16-13 ヤマヒサビル5F(甲府市役所東)

営業時間 11:00～18:00 定休日 火・水 ☎ 055-232-5222

EXTERIOR

有限会社 アウテリアあかざわ

一級エクステリアプランナー

赤 澤 忠 彦 (S59年卒)

第136周年同窓会副実行委員長

Tel・Fax 055-253-4443 携 帯 090-3337-2048

〒400-0003 山梨県甲府市塚原町 587

SAIKI DESIGN

9-15 Sakuragaoka-cho Shibuya-ku Tokyo 150-0031

斎木 裕子 (S50年卒)

どんぐり

COFFEE LOUNGE

〒400-0024 甲府市北口2-4-1

TEL 055-252-0983

http://www.coffee-donguri.com/

甲府一高・昭和43年卒業

「よん燦会」

駐車場区画線 ・ 交通安全施設 ・ 公園環境施設

ROAD 株式会社 ロード

毎日が安心・安全で、笑顔のあふれる暮らしを支える

〒400－0853 山梨県甲府市下河原町 262 番地

TEL 055－241－6161 URL http://www.ro-ad.jp

S37卒 由 井 久 夫

有限会社 宮川レッカー

代表取締役

宮 川 勇 徳

Miyagawa Takenori

(S62卒)

本 社 〒409-3803 山梨県中央市若宮22－13

甲斐武田氏三代居館跡鎮座

甲斐國総鎮護

武 田 神 社

鎮座地 〒400-0014 山梨県甲府市古府中町2,611

電話 055-252-2609

令和4年度当番幹事(昭和58年卒)

幹事長	三井貴美也
副幹事長	安達実名美
事務局	三浦博美／志賀由美／濱　悦子
懇親会部会	佐藤公彦／跡部　亨／手塚　元 河野玲子
懇親会進行	清水成美／矢野佳作／若尾一広
広告部会	跡部　亨／赤池　修／手塚　元
会計部会	金丸隆夫／駒形かおる／福田　薫
IT部会	雨宮裕樹／金丸隆夫／小野　健 新谷隆之／清水成美
一紅会	福田千絵／藤原千津子／宇津木吉美 吉岡ゆみ子／春山　操
甲府部会	山本淳仁／北美竹代／小林隆広 清水由美
日新鐘部会	長田孝子／手塚　元／簑和田直子 塩沢知子／元木弘子

制作にご協力いただき ありがとうございました

山梨県立甲府第一高等学校

校　長　安達　徹先生
前校長　小林俊一郎先生
総　務　内藤　浩先生
探究科　山本尉滋先生
部活動顧問の先生方
生徒の皆さん

ご執筆、取材にご協力くださった皆さん

【昭和44年卒】清水昭さん／峯川文江さん
【昭和45年卒】山下昌彦さん
【昭和53年卒】樋口雄一さん
【昭和58年卒】大原勝一さん／吉村幸一さん
清水昌行さん／山田真治さん
河野玲子さん／三澤日出巳さん
宇津木吉美さん
【平成8年卒】望月啓太さん
【平成29年卒】服部廉太郎さん
【東邦音楽大学大学院】齋木　薫さん

「100人の声」にご協力くださった皆さん

写真協力
山梨県立甲府第一高等学校

編集後記

走りながら迷い考えた今回の「日新鐘」でしたが、多くの方のお力添えと部会の皆の献身的な働きにより、なんとか発行の日を迎えることができました。同窓生の絆を感じていただきたいと思って進めてきましたが、その力に最も助けられたのは私たちかもしれません。ご執筆、ご助力くださった皆様ありがとうございます。
懇親会との連携企画など、部会の枠を超えた協力体制にも助けられました。甲府一高の内藤浩先生(昭和55年卒)、王文社の小林隆広さん(昭和58年卒)には特にお世話になりました。心より御礼申し上げます。(長田)

勉学に勤しんだわけでも部活にのめり込んだわけでもなく、目立たず一高時代を過ごした私が思いがけず日新鐘部会のお誘いを受け、最初は「パソコン使えないし無理です」と尻込みしました。
でもほんの少しでも何かお役に立てることがあるならば…とお引受けしたおかげで、年代や分野を問わず努力・活躍する同窓生の姿を知り刺激を貰えました。
出来ることが少なかったため部会の皆様にご負担お掛けしましたが、お役の一端を担えたことに感謝申し上げます。(元木)

編集作業を通じて改めて感じたのは、同窓生の一高愛です。
母校のため、同窓会のため、「日新鐘」のためにさまざまに協力してくださる方が何と多いことか。
本当に「日新鐘」ができあがるだろうか、と不安な立ち上がりでしたが、原稿が集まり、同窓生の協力・支えを実感し、編集が進むにつれ、良いものができるはずだ、との思いが強くなりました。
冊子の編集を初めて経験できたこと、一高愛を再確認したこと、この2つがこの半年間の体験で得たものでした。(手塚)

うれしかったのは取材のお願いで突然連絡した同級生に快く協力してもらえたこと。約40年ぶりの近況報告がワインに関わる3人の記事を書くことにつながりました。
「100人の声」には今年一高に入学したばかりの10代の後輩から80代半ばの大先輩、またニューヨークや南極からもこの2年間の思いが届きました。原稿のやり取りでは多くの方に励ましやねぎらいの言葉をかけていただき、日新鐘部会冥利に尽きました。
「日新鐘」にご協力くださった皆さまのおかげで信頼できる部会長のもと、貴重な経験をすることができました。
心から御礼申し上げます。(簑和田)

高校時代を懐かしく思うとともに、母校の今を知ることが出来ました。また、同窓生の皆様が在学当時に何かを得て、それぞれの道を歩んで来られたこと、コロナ禍でも頑張っていらっしゃることに元気を頂きました。
「日新鐘」に携わり、「一高の絆」を感じる素敵な時間を経験することが出来ました。発行の運びとなり喜びもひとしおです。
ご協力を頂いた関係者、日新鐘部会の皆様に心より感謝を申し上げます。一助となりましたら幸いです。(塩沢)

2022甲府中学・甲府一高東京同窓会記念誌
日新鐘 Vol.28

発行日	2022年7月9日
発行者	甲府中学・甲府一高東京同窓会 中嶋文夫(昭和46年卒)
編集者	日新鐘部会(昭和58年卒)
印刷・製本	王文社

絆、ちっと考えてみんけ

FROM S58 TO THE FUTURE

甲府中学・甲府一高東京同窓会の「絆」って何ずら。
同じ学校を卒業しただけのいつもの集まりでいいだけ。
あんころは、苦楽が共だから、「絆」なんてあたりまえって思ってねえけ。
卒業すると、「絆」も薄れてくるのは解ってるさ。
たださ、若い衆がもっと参加してくれると嬉しくなるだよ。
どうすりゃいいかねえ？ ひとまず参加してみちゃあくれんかね。
「絆」も「ヨコ」から「タテ」へもっと拡大しんきゃいけんと思ってるだよ。
先輩方も色々苦労したと思うけんど、おらんとうは、その想いも引き継いで、
今年の当番を機会にイベントも含め、本気でこのえれー問題に取り組んだのが
今回のテーマっつう訳さ。
同学年の「絆」は強いと思うだけんさ、同窓会にどんどん参加してもらってさ、
他にもたくさん「絆」を作ろうじゃんけ。
それがきっかけになって一人でも一緒に泣いて、笑えるような「絆」が増えて、
人生豊かになるといいじゃんねえ。
「て、凄くなったじゃんけ!!」って育つことを期待してるよ。

第62回当番幹事　昭和58年卒

株式会社 タンザワHD　代表取締役会長 丹沢 良治（昭和41年度卒）